

アーツカウンシル東京

令和4(2022)年度事業報告書

アーツカウンシル東京

令和4(2022)年度事業報告書

目次

■アーツカウンシル東京の役割と事業展開 ■令和4（2022）年度の事業を振り返って

I. 芸術文化支援事業

1 東京芸術文化創造発信助成	25
2 芸術文化による社会支援助成	31
3 東京地域芸術文化助成	33
4 スタートアップ助成	34
5 伝統芸能体験活動助成	41
6 芸術文化魅力創出助成	42
7 ライフウィズアート助成	44
8 東京芸術文化創造発信助成【長期助成】 活動報告会	45
9 「芸術文化による社会支援助成」活動報告会	47
10 アーティストの創作環境の整備事業 (START Box Roppongi)	49

II. 芸術文化創造・発信事業

11 伝承のたまてばこ ～多摩伝統文化フェスティバル2022～	50
12 東京大茶会2022	52
13 神楽坂まち舞台・大江戸めぐり2022	53
14 六本木アートナイト2022	55
15 東京芸術祭2022	58
16 東京キャラバン the 2nd	62
17 Shibuya StreetDance Week 2022	64
18 キッズ伝統芸能体験	66
19 大人のための伝統文化・芸能体験事業	69
20 子供のための伝統文化・芸能体験事業	70
21 パフォーマンスキッズ・トークショー	72
22 TURN LANDプログラム	76

東京アートポイント計画

23 HAPPY TURN／神津島	79
24 Artist Collective Fuchu [ACF]	82
25 ファンタジア！ファンタジア！ ー生き方がかたちになったまちー	85
26 移動する中心 GAYA	88
27 ACKT（アクト／アートセンタークニタチ）	90
28 多摩の未来の地勢図 Cleaving Art Meeting	93
29 カロクリサイクル	97

30 KINO ミーティング	100
31 めとてラボ	103
32 Artpoint Meeting	105

III. 人材育成事業

33 タレンツ・トークショー 2022	106
34 アーツアカデミー	108
35 Tokyo Art Research Lab	111

IV. 国際ネットワーク事業・企画戦略事業

36 アーツカウンシル・フォーラム	115
37 クリエイティブ・ウェルビーイング・トークショー	116
38 TOKYOスマート・カルチャー・プロジェクト	119
39 シビック・クリエイティブ・ベース東京 [CCBT]	120
40 広報活動	124

アーツカウンシル東京の役割と事業展開

世界的な芸術文化都市東京として、芸術文化の創造・発信を推進し、東京の魅力を高める多様な事業を展開していきます。

新たな芸術文化創造の基盤整備をはじめ、東京の独自性・多様性を追求したプログラムの展開、多様な芸術文化活動を支える人材の育成や国際的な芸術文化交流の推進等に取り組みます。

設立趣旨

1. アーツカウンシル東京は、芸術団体や民間団体、NPO等と協力し、東京における芸術文化創造のさらなる促進や東京の魅力向上を図ります。
2. 国際都市東京にふさわしい個性豊かな芸術文化創造や、創造性に満ちた潤いのある地域社会の構築に貢献していきます。
3. 芸術文化の自主性と創造性を尊重しつつ、専門的かつ長期的な視点にたち、新たな芸術文化創造の仕組み・環境を整えます。

I. 芸術文化支援事業〈助成・活動支援〉

東京の芸術文化の魅力を向上させ、世界に発信していく創造活動や、地域の文化や伝統芸能の振興、社会や都市の様々な課題に取り組む芸術活動を支援します。

II. 芸術文化創造・発信事業〈参加・体験プログラム〉

芸術文化団体やアートNPO等と協力して実施する事業です。都内各地での文化創造拠点の形成や、子供・青少年等への創造体験の機会の提供により、多くの人々が芸術文化の創造に主体的に関わる環境を整えるとともに、フェスティバルの開催等を通じて、新たな東京文化を創造し、世界に向けて発信していきます。

■フェスティバルや参加型プログラムの開催

フェスティバルの開催や参加・体験プログラムの実施を通して、芸術文化の創造活動を拡充・発信し、継承していきます。

■文化創造拠点の形成（東京アートポイント計画）

地域社会を担うNPOとアートプロジェクトを展開することで、無数の「アートポイント」を生み出す取組です。日常の営みに穏やかに寄り添い、まち・人・活動をつなぐアートプロジェクトを実施し、その担い手となるNPOの育成や活動基盤を整えながら、東京の多様な魅力の創造・発信を目指します。

III. 人材育成事業

未来を見据え、東京の芸術文化の現場を牽引する多様な人材を育成していきます。

IV. 国際ネットワーク・企画戦略事業

海外の芸術文化団体や文化施設・機関等とのネットワークを構築し、様々な共同プログラムの開発や国際都市東京の芸術活動の発信力向上のきっかけ作りを行います。また、公益財団法人東京都歴史文化財団全体を視野に入れた企画調整機能を活用しながら、新たな芸術文化の鑑賞や参加の機会創出を図ります。

令和4（2022）年度の事業を振り返って

2022年度は、公益財団法人東京都歴史文化財団が所管する各施設、組織が連携・協働して事業を推進する体制を構築するため、財団の企画戦略機能がアーツカウンシル東京に移管されました。それを受けて、アーツカウンシル東京では、財団全体で取り組む企画戦略事業を推進するとともに、東京の多様な芸術文化活動を支援する事業の強化・充実を図り、当面する社会課題や時代の要請に応じた新たな事業の展開に努めました。

■企画戦略事業を開始

これまで実施してきた文化事業や都立文化施設の運営を通じて蓄積された専門的知見に基づき、「誰もが、いつでも、どこでも芸術文化を楽しめる環境」を整備するための事業を立ち上げました。

「クリエイティブ・ウェルビーイング・トーキョー」では、芸術文化による多様な価値観の形成と地域の包摂的環境の推進を目指す国際カンファレンスを開催しました。

「TOKYOスマート・カルチャー・プロジェクト」では、都立文化施設が有する収蔵品等のデジタル化、最先端技術による新しい鑑賞体験の創出等、デジタルでの提供を拡充しました。

また、アートとデジタルテクノロジーの活用を通じて、人々の創造性を社会に発揮するための活動拠点となる「シビック・クリエイティブ・ベース東京 [CCBT]」を10月に東京・渋谷にオープンし、ワークショップなど様々なプログラムを展開してきました。

■支援事業の強化・充実

新型コロナウイルスの影響により活動中止や制限を余儀なくされた芸術団体をはじめとする、支援に対するニーズの拡がり等に対応するため、2021年度には4つの助成プログラムを新設しましたが、2022年度はさらに「芸術文化魅力創出助成」で、アクセシビリティ向上や、科学と芸術の融合といった新しいクリエイションにチャレンジするプロジェクトについて、サポート費の交付をスタートしました。それぞれの対象に応じた幅広い助成プログラムが充実していることで、芸術支援団体としてのアーツカウンシル東京の役割や認知度が高まりました。

また、助成金だけでなく、若手アーティストに対し、創作の場を提供することで継続的な活動を支援する「START Box Roppongi」を試行実施として期間限定で開設しました。

■オンライン開催から有観客開催へ

コロナ禍により2020年度から多くの事業が中止を余儀なくされ、オンラインを活用する等、新しい手法を取り入れながら事業を開催してきましたが、2022年度は、天候による中止や変更はあったものの、多くの事業が3年ぶりに有観客開催することができました。

「六本木アートナイト」は深夜の時間帯には行わず期間を2日から3日に延長し、「東京大茶会」もすべての茶道プログラムを事前申込制で参加者数を制限する等、様々な感染対策を講じたうえで、安全な実施に取り組みしました。

人材育成事業である「アーツアカデミー 芸術文化創造活動の担い手のためのキャバシティビルディング講座」や「タレント・トーキョー」でも3年ぶりの対面開催となり、活発な議論や交流が生まれました。

アーツカウンシル東京は、新たな体制となり、これまでの事業に加え、さらに創造活動環境の整備を進めることで、芸術文化活動の担い手を支えるとともに、多くの方に芸術文化に触れていただく機会を創出していきます。

今後とも、アーツカウンシル東京の取組にご理解とご協力、そしてご支援をお願いいたします。

公益財団法人東京都歴史文化財団
アーツカウンシル東京
機構長

青柳正規

東京芸術文化創造発信助成

▶ 詳細 p.25



東京芸術文化創造発信助成
カテゴリーⅠ 単年助成 第1期
一般社団法人贅沢貧乏
「贅沢貧乏『わかろうとはおもっているけど』
パリ公演」 撮影：Pierre Grosbois



東京芸術文化創造発信助成 カテゴリーⅡ 長期助成
川口隆夫 「バラ色ダンス純粋性愛批判」
撮影：bozzo



東京芸術文化創造発信助成 カテゴリーⅢ 芸術創造環境の向上に資する事業【単年助成 第1期】
「今藤政太郎作品演奏会」実行委員会 「今藤政太郎復曲プロジェクト」

芸術文化による社会支援助成

▶ 詳細 p.31



芸術文化による社会支援助成 第1期 Re; Signing Project
「～ 視覚で世界を捉えるひとびと」展覧会
Creole Project 『fork / creole』(2023) 撮影：Nobu Tanaka

東京地域芸術文化助成

▶ 詳細 p.33



東京地域芸術文化助成 (三次募集) 江東区民まつり中央実行委員会
「江東区民まつり中央まつり民俗芸能大会」 木場の角乗 写真提供：江東区

スタートアップ助成

▶ 詳細 p.34



第3回スタートアップ助成 藤瀬朱里
「Where the kiss will be tomorrow」
撮影：河内彩

伝統芸能体験活動助成

▶ 詳細 p.41



伝統芸能体験活動助成 音緒乃会
「第3期 和楽器体験 ねのいろランド」
撮影：福森崇広

芸術文化魅力創出助成

▶ 詳細 p.42



日本児童・青少年演劇協同組合
東京都夏の児童演劇祭
撮影：松浦範子



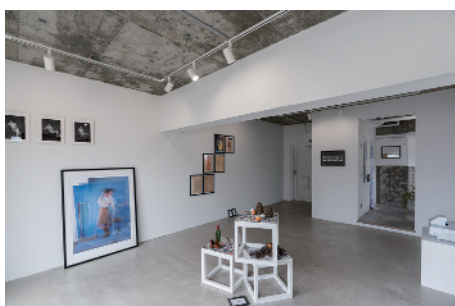
有限会社プーク人形劇場
新宿ストリートシアター2022 with 伊豆大島
© 唐牛峰作



一般社団法人TOKYO INSTITUTE of PHOTOGRAPHY
T3 PHOTO FESTIVAL TOKYO 2022
撮影：竹久直樹



株式会社J.E.T.
OTRN -TOKYO-
RIEHATA with Rht.



転覆する体実行委員会
転覆する体：アート、ジェンダーとメディア
©Naoki Takehisa 2022



中野駅前大盆踊り大会実行委員会
第10回 中野駅前大盆踊り大会

ライフウィズアート助成

▶ 詳細 p.44



ドキュメンタリー・ドリームセンター
国際映画祭を解剖する！ 2022



スタートバーン株式会社
ムーンアートナイト下北沢
© 2022 Startbahn, Inc.

東京芸術文化創造発信助成〔長期助成〕活動報告会

▶ 詳細 p.45



第14回「ろうの映画芸術—ろう者主導の団体が創る新しい共生社会」 撮影：松本和幸



第15回「舞踏アーカイヴプロジェクト」～新たなダンスアーカイヴの創造～ 撮影：松本和幸



芸術文化による社会支援助成活動報告会

▶ 詳細 p.47



第2回「ひとりひとりと向き合う演劇活動の探求～鑑賞サポートからシニア劇団へ」
撮影：松本和幸



第3回「手話能—インクルーシブな新しい能楽のクリエイション」
手話能実演の様子（大島輝久）
撮影：松本和幸

アーティストの創作環境の整備事業

▶ 詳細 p.49



START Box Roppongi 外観



START Box Roppongi 内観（受付スペース）

伝承のたまてばこ～多摩伝統文化フェスティバル2022～

▶ 詳細 p.50



HIKARIのたまてばこ〈400年の時を経て〉



人力車 ～歴史の面影を探す街めぐり～



地芝居を楽しむ！菅生歌舞伎 ～菅生一座～



まちなか展示 ～多摩の伝統～

東京大茶会2022

▶ 詳細 p.52



江戸東京たてもの園会場 茶席



江戸東京たてもの園会場 野点



浜離宮恩賜庭園会場 茶席



浜離宮恩賜庭園会場 英語で楽しむ野点



浜離宮恩賜庭園会場 野点

神楽坂まち舞台・大江戸めぐり2022

▶ 詳細 p.53



お座敷ライブ



神楽坂タイムスリップ スタンプラリー



毘沙門天・夜会



夕暮れライブ

六本木アートナイト2022

▶ 詳細 p.55



デジバールン 「Wave」



檜皮一彦 「HIWADROME TYPE ε」



野口量×伊豆牧子 「CANDY POP」
©Takashi Murakami/Kaikai Kiki Co.,Ltd.All Rights Reserved.
©Fujiko-Pro



アートにエールを！広場

東京芸術祭2022

[▶ 詳細 p.58](#)



野外劇『嵐が丘』
撮影：二石友希



アトカル・マジカル学園「かぞくアートクラブ」
撮影：山本陸



『スカーレット・プリンセス』
撮影：後藤敦司



『守銭奴 ザ・マネー・クレイジー』
撮影：田中亜紀

東京キャラバン the 2nd

[▶ 詳細 p.62](#)



撮影：日置真光



撮影：岡本隆史



撮影：岡本隆史



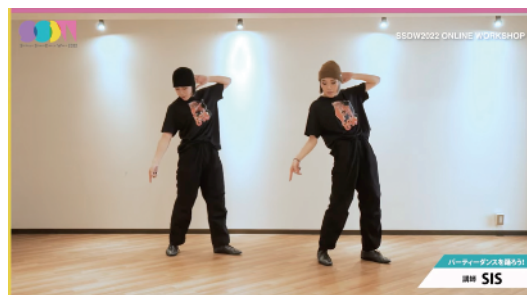
撮影：岡本隆史

Shibuya StreetDance Week 2022

[▶ 詳細 p.64](#)



DANCE WITH music in SHIBUYA



ONLINE WORKSHOP



ONLINE WORKSHOP



ONLINE WORKSHOP

キッズ伝統芸能体験

[▶ 詳細 p.66](#)



お稽古の様子 能楽（謡・仕舞）撮影：菅原康太



発表会の様子 能楽（狂言）撮影：菅原康太



お稽古の様子 長唄（篠笛）撮影：武藤奈緒美



発表会の様子 三曲（箏曲）撮影：武藤奈緒美

大人のための伝統文化・芸能体験事業

▶ 詳細 p.69



講演の様子 撮影：前川俊幸



体験の様子 生け花 撮影：前川俊幸



体験の様子 日本舞踊 撮影：前川俊幸



お箏×生け花パフォーマンス 撮影：前川俊幸

子供のための伝統文化・芸能体験事業

▶ 詳細 p.70



体験の様子（日本舞踊）撮影：菅原康太



体験の様子（落語）



体験の様子（箏）撮影：熊谷義朋



体験の様子（江戸手描友禅）撮影：前川俊幸

パフォーマンススキッズ・トーキョー

▶ 詳細 p.72



ダンス公演「おどろどろんこどんきゅう」
武蔵村山市民会館（さくらホール）
撮影：木原丹



ダンス公演「ワイルド ワイルド！」
大田文化の森



演劇公演「コドウの森」
羽村市生涯学習センターゆとろぎ
撮影：金子愛帆



演劇公演「コドウの森」
羽村市生涯学習センターゆとろぎ
撮影：金子愛帆



ダンス公演「めにみえないもの製造工場」
赤坂区民センター
撮影：松本和幸



ダンス公演「愛なんだ2023」
なかのZERO
撮影：松本和幸

TURN LAND プログラム

▶ 詳細 p.76



TURN LAND プログラム ほうらい地域包括支援センター「オレンジ・ボコペン」 撮影：梅田彩華



活動拠点「くると」



アーティスト・プログラム in 神津島／山本愛子



アーティスト・プログラム in 神津島／テニスコーツ
撮影：小野悠介



アーティスト・プログラム in 神津島／オル太『漂白と遍歴』

Artist Collective Fuchu [ACF]



大東京総合卸売センター内 拠点「やど (仮)」



Artist Collective Fuchu Presents 「おとのふね」 talk 39



ラッコルタ-創造素材ラボ- vol.2 「いしのこえとみかげ」
ワークショップ
撮影：深澤明子



ラッコルタ-創造素材ラボ- vol.2 「いしのこえとみかげ」
展覧会

ファンタジア！ファンタジア！—生き方がかたちになったまち—

▶ 詳細 p.85



スミログ オープンスタジオ
撮影：高田洋三



活動拠点「藝とスタジオ」
撮影：高田洋三



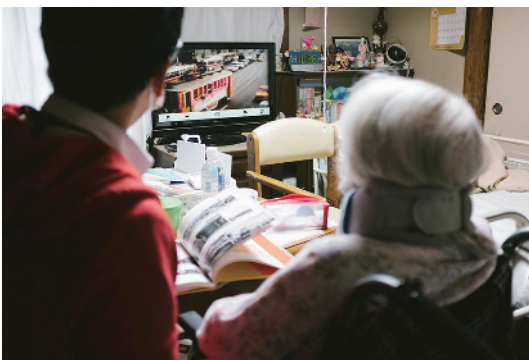
プラクティス
展覧会『共に在るところから／With People, Not For People』
撮影：加藤甫



プラクティス
展覧会『共に在るところから／With People, Not For People』
撮影：加藤甫

移動する中心 | GAYA

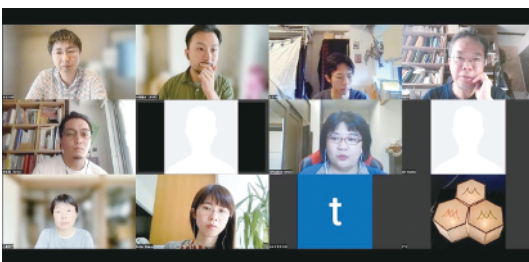
▶ 詳細 p.88



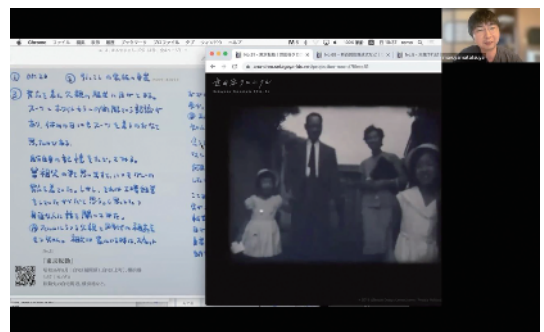
ケア分野でのリサーチの様子
撮影：尾山直子



ケア分野でのリサーチの様子
撮影：尾山直子



オンラインワークショップの様子



オンラインワークショップの様子

ACKT (アクト／アートセンタークニタチ)

▶ 詳細 p.90



・と-TENTO-



活動拠点「さえき洋品●」



谷保村式土器



築田寺 リサーチ・ヒアリングの様子

多摩の未来の地勢図 Cleaving Art Meeting

▶ 詳細 p.93



ざいしらべ



ゆずりはをたずねてみる ワークショップ



連続ワークショップ「多摩の未来の地勢図をともに描くーあいを歩く」



連続ワークショップ「多摩の未来の地勢図をともに描くーあいを歩く」

カロクリサイクル

▶ 詳細 p.97



ワークショップ「記録から表現をつくる」



テレビノック



展覧会「語らいの記録 2011-2022」撮影：加藤甫



活動拠点「Studio 04」

KINO ミーティング

▶ 詳細 p.100



KINO ミーティング#1 池袋・板橋・大山・要町
まちなかでの撮影



KINO ミーティング#1 池袋・板橋・大山・要町 編集作業



KINO ミーティング#2 葛飾 グループディスカッション



KINO ミーティング#2 葛飾 上映会



国内リサーチ 西会津国際芸術村
撮影：齋藤陽道



国内リサーチ 西会津国際芸術村
撮影：齋藤陽道



国内リサーチ MAT, Nagoya



国内リサーチ ろう者の自宅を訪れた時の様子
撮影：齋藤陽道

Artpoint Meeting



Artpoint Meeting #10
「アートがひらく、“学び”の可能性」
撮影：阪中隆文



Artpoint Meeting #10
「アートがひらく、“学び”の可能性」
撮影：阪中隆文



Artpoint Meeting #11
「映像を映す、見る、話す」
撮影：阪中隆文



Artpoint Meeting #11
「映像を映す、見る、話す」
撮影：阪中隆文

タレンツ・トーキョー 2022

▶ 詳細 p.106



撮影：明田川志保



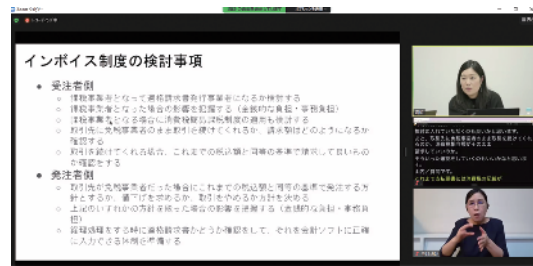
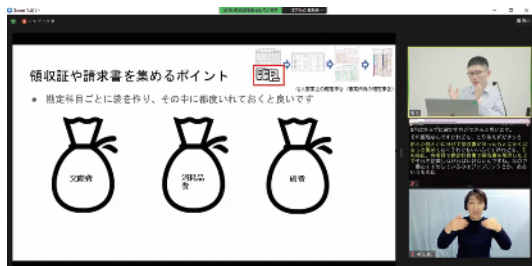
撮影：明田川志保

アーツアカデミー

▶ 詳細 p.108



「芸術文化創造活動の担い手のためのキャパシティビルディング講座2022」の様子



「芸術文化創造活動の担い手のための会計・税務講座2022」の様子



「東京芸術劇場プロフェッショナル人材養成研修」の様子



アートプロジェクトの担い手のための手話講座
ろう者の感覚を知る、手話を体験する。
撮影：齋藤彰英



新たな航路を切り開く
演習 | 自分のアートプロジェクトをつくる
撮影：齋藤彰英



アートプロジェクトの担い手のための配信・収録講座
撮影：齋藤彰英



アートプロジェクトの運営をひらく、〇〇のことば。



新たな航路を切り開く 応答するアートプロジェクト |
アートプロジェクトと社会を紐解く 5つの視点 | 相馬千秋
秋：フェスティバルの変容



アートカウンシル・フォーラム「都市の創造力で世界とつながる - 東京の現在と未来 -」

クリエイティブ・ウェルビーイング・トーキョー：Creative Well-being Tokyo 2022



手話と音声ガイドによる施設案内動画の制作 (東京都写真美術館)

[だれもが文化でつながる国際会議 Creative Well-being Tokyo 2022]



開会式集合写真



オープニング・パフォーマンス 東京のはら表現部



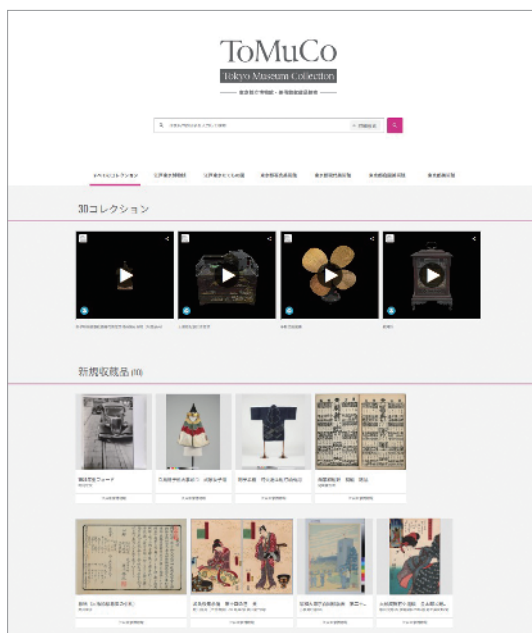
基調講演 ロンドン副市長 ジャスティーン・サイモンズ



短期集中キャンプ「共鳴する身体」ワークショップ

TOKYO スマート・カルチャー・プロジェクト

▶ 詳細 p.119



東京都立博物館・美術館収蔵品検索「Tokyo Museum Collection (ToMuCo)」



ABAL「XRアートシアター『死神』」の開発



スマートフォンアプリ「ハイパー江戸博」
第1弾「江戸両国編」

シビック・クリエイティブ・ベース東京 [CCBT]

▶ 詳細 p.120



CCBT Meetup



アート×テックラボ（明和電機 渋谷工場 in CCBT）



アート・インキュベーション（Deviation Game ver1.0）



未来提案型キャンプ

1

東京芸術文化創造発信助成

【事業概要】

東京を拠点とする芸術団体等を対象とし、3つのカテゴリーに分けて助成を行う。

「カテゴリーⅠ 単年助成」では、都内において実施される公演・展示・アートプロジェクト等の創造活動や、都内または海外で実施される国際的な芸術交流活動の助成を行う。

「カテゴリーⅡ 長期助成」では、発表活動だけでなく、作品制作のプロセスを含めて支援することで創造活動を促進するとともに、芸術団体のステップアップの後押しを目的に、最長3年間の支援を実施する。

「カテゴリーⅢ 芸術創造環境の向上に資する事業（【単年助成】【長期助成】）」では、芸術創造環境の課題に取り組む、分野全体を広く見渡した活動について最長3年間の支援を実施する。

【事業趣旨（目的）】

東京の都市の魅力向上に寄与する多様な創造活動や芸術創造環境の課題に取り組む活動を助成し、その担い手を支援する。

令和4（2022）年度実績

申請件数：カテゴリーⅠ 単年助成362件、カテゴリーⅡ 長期助成24件、

カテゴリーⅢ 芸術創造環境の向上に資する事業44件（【単年助成】25件【長期助成】19件）

採択件数：カテゴリーⅠ 単年助成99件、カテゴリーⅡ 長期助成2件、

カテゴリーⅢ 芸術創造環境の向上に資する事業6件（【単年助成】6件【長期助成】0件）

交付決定総額：162,817千円

カテゴリーⅠ 単年助成 第1期 採択結果の概要

● 音楽分野

音楽分野は2年前から申請数が伸びており、今期も前回の令和3（2021）年度第2期の130%となり、過去最多を更新した。これまで多数を占めていたクラシックや現代音楽が6割になり、民族音楽やロック、ジャズ等ジャンルに広がりが見られ、採択結果にも反映された。一方、採択に至らない申請には、公募ガイドラインに提示されている本助成の趣旨に適合しないものが散見された。

● 演劇分野

申請件数は過去最多で、活動拡大・発展期と活動成熟期にあたる個人や団体からの申請が増加した。初申請は約5割。内容の傾向としては、現在の社会問題をテーマにした演劇作品公演の申請が増加し、申請者ならではの視点・演劇的表現によってテーマを捉え描こうという試みの認められるものが採択となった。国際的な芸術交流活動は、新型コロナウイルス感染症の世界的感染拡大後に計画された意欲的かつ申請者の転機となり得る事業の申請が多く、高い採択率となった。

● 舞踊分野

申請件数は過去2番目に多く、活動成熟期にある個人・団体からの申請が増加した。採択の7割弱を活動拡大・発展期にある申請者が占め、その中からコロナ禍を経験した舞踊家が改めて生命や身体について再考し、作品のテーマとして扱う独創性の高い取り組みが3件採択となった。そのほか、世代や創作手法が異なる舞踊家同士が協働し新たな身体表現を探求する活動や、日本舞踊の意欲的なリサイタル等、次代の舞踊芸術の新たな展開に繋がる事業が採択に至った。

● 美術・映像分野

絵画、写真、インスタレーション、デザイン等、多様な表現の創造活動の申請があった。今期は、活動拡大・発展期のアーティストの企画が多くを占め、中でもコンセプトやテーマに独創性がある企画展・個展が採択となっている。そのほか、若手キュレーターと研究者による共同研究を作品制作・展示という実践に落とし込む分野横断的な展覧会や、建築家のコレクティブによる国際的なプラットフォームづくりを目指す意欲的な芸術交流活動が採択となった。映画・映像領域では、企画に工夫をこらした映画祭の上映活動が2件採択となった。

● 伝統芸能分野

能楽、邦楽、日本舞踊、和妻、和太鼓、詩吟、人形劇など幅広い種目から全27件の申請があった。海外渡航を伴う事業も2件含まれ採択となった。「継承性」が審査の観点に含まれている伝統芸能分野では活動拡大・発展期、活動成熟期にある個人や団体の採択が多い傾向があるが、今回は特に、それまでの修練や研鑽の上に立ち、その種目ならではの特性や個性を掘り下げたうえで波及効果も見据えるという、継承性・創造性に広い視野を伴った事業が採択となった。

● 複合分野

複合分野には、21件の申請があり5件が採択となった。多分野アーティストによる舞台公演や、異なる分野を活動領域とするアーティストらを招聘する、地域性を活かした国際的なアーティスト・イン・レジデンス交流事業など、複合分野ならではの多様な申請があった。その中でも、単なるジャンルの組み合わせに留まらない、創造的かつ実験的な触発を企図した事業や、科学技術を活用した新たな創作・鑑賞スタイルの実験を行う事業等の申請が採択に至った。

カテゴリーⅠ 単年助成 第1期〔助成事業対象期間：令和4（2022）年7月1日～令和5（2023）年6月30日〕

活動分野	活動内容	実施場所	団体／個人	申請事業者名	申請事業名			
音楽	都内での芸術創造活動	都内	団体	一般社団法人東京シンフォニエッタ	東京シンフォニエッタ 第52回定期演奏会			
				特定非営利活動法人日本ガムラン音楽振興会	両界ガムラン曼荼羅			
				オーケストラ・プロジェクト	オーケストラ・プロジェクト2022			
				アブサラス	第10回アブサラス演奏会			
				株式会社フォンス・フローリス	魅惑のルネサンス・シャンソン1			
			特定非営利活動法人日本現代音楽協会	世界に開く窓 欧州のアンサンブル ①アンサンブル・ルシエルシュ来日公演（仮）				
	国際的な芸術交流活動	都内および海外	個人	間宮匠	間宮匠マンドリンリサイタル 「2つの現代」（仮）			
安達真理				MARI ADACHI presents 武満徹×シキ・ゲン（仮）				
演劇	都内での芸術創造活動	都内	団体	Buffalo Daughter	We Are The Times ツアー			
				ストミック	ストミック『SUPERHUMAN 2022』			
				株式会社precog	contact Gonzo×やんツー新作「untitled session（仮）」			
				ほろびて	あでな／いある（仮）			
				一般社団法人トランスレーション・マターズ	父なき子を照らす月／A MOON FOR THE MISBEGOTTEN（邦題仮）			
				譜面絵画	「幻幻幻と現現現のあいだ」			
				くちびるの会	くちびるの会 第七弾 「老獣のおたけび」			
				終のすみか	終のすみか新作公演（仮）			
	国際的な芸術交流活動	海外	団体	c o n S e p t 合同会社	Dialogue in Theater #2『ハイゼンベルク』			
				エッチビー株式会社	イキウメ「外の道」パリ公演			
				一般社団法人チェルフィッチュ	チェルフィッチュ×藤倉大 新作音楽劇「厄介事の、彼方から（仮）」世界初演@ウィーン			
				有限会社名取事務所	パレスチナ演劇上演シリーズ「占領の囚人」ワークインプログレス、及び公演			
		都内および海外		一般社団法人賛沢貧乏	賛沢貧乏『わかるうとはおもっているけど』パリ公演			
				合同会社かもめマシーン	ルーマニア・電話演劇プロジェクト（仮）			
				舞踊	都内での芸術創造活動	団体	団体せきかおり	関かおり PUNCTUMUN 公演（タイトル未定）
							岩淵貞太 身体地図	岩淵貞太 身体地図 新作ダンス2023「ALIEN MIRROR BALLISM／エイリアン ミラーボールリズム」
東雲舞踏	舞踏公演『三つ巴』							
合同会社 AtZOO	ブッシュマン新作公演『羊羊羊羊羊羊羊』							
株式会社オフィス・ダンサブル	第二回 花柳琴臣舞踊リサイタル							
個人	山田せつ子	シロヤギ ト クロヤギ ——遺言ではないにしても 弔辞ではないにしても						
	美術・映像	都内での芸術創造活動	団体		イメージフォーラム	“青年特快”中国インディペンデント映画の新しい声とヴィジョン（仮）		
特定非営利活動法人ウォールアートプロジェクト					インドの民族画・ワリリ画の世界に触れ、描くワークショップ（仮）			
山水東京				現代美術展「都市の山水」（仮）				
neoneo編集室				東京ドキュメンタリー映画祭2022				
個人		金仁淑	個展《Between Breads and Noodles》×トークイベント《金仁淑 宇多村英恵》					
		張洋宇	共苦から救済へ：アート・プラクティスにおける「苦痛」の宗教性とその表象（仮）					
国際的な芸術交流活動	都内および海外	団体	GROUP	日米若手建築家による展示とシンポジウムを通じた国際的なプラットフォームの創出（仮）				

活動分野	活動内容	実施場所	団体／個人	申請事業者名	申請事業名
伝統芸能	都内での芸術創造活動	都内	団体	The Shakuhachi 5	The Shakuhachi 5『The 3rd Concert』(仮)
				創邦21	創邦21 第19回作品演奏会
				若獅子会	第十四回 若獅子会
				The 箏 Koto実行委員会	The 箏 KOTO 第3回 箏の可能性を探る
				日本尺八演奏家ネットワーク (JSPN)	日本尺八演奏家ネットワーク (JSPN) 第3回定期公演 <伝統尺八VS 革新尺八> 尺八音楽はどこに向かうのか (仮題)
				NHK 邦楽技能者育成会合奏団	第四回 現代邦楽“考”～現代邦楽の“密”を求めて～ (仮)
				現代邦楽“考”	アトリエ古典小劇場Ⅰ・Ⅱ (仮)
				一般社団法人一糸座	第九回立合狂言会
				特定非営利活動法人ACT.JT	邦楽展Vol.35 Koto collection Today ～久田典子プロデュース～
				吉村七重箏研究所	第8回山本亜美 箏 二十五絃箏リサイタル オトを編む
複合	都内での芸術創造活動	都内	団体	山本亜美	第5回 小濱明人 尺八リサイタル
				小濱明人	MICHIYO YAGI TALON: HYPER-KOTO ENSEMBLE Vol.3 (仮)
				八木美知依	喜多流能楽ニューヨーク公演 (仮)
				公益財団法人十四世六平太記念財団	AKUTAGAWA
				八王子車人形西川古柳座	青山実験工房公演 第7回
				青山実験工房実行委員会	「あゝころのうた」2公演企画
				こぼろぎ舎	第7回両国アートフェスティバル2022
				一般社団法人もんでん	United Me
				富士山アネット	国際交流文化事業「街まるごとレジデンス」(仮)
	国際的な芸術交流活動	海外	団体	KAB Library and Residency	

カテゴリーⅠ 単年助成 第2期 採択結果の概要

● 音楽分野

増加し続けていた申請数が2年半ぶりに減少に転じ、前年比で55.5%となった。申請数は変わったが、クラシック音楽の流れをくむ申請が約6割、ジャズやロックその他の申請が約4割と、ジャンルの分布に大きな変化は見られなかった。今回は特に、採択経験者に企画力の高い充実した事業が目立ったこともあり、採択経験者の採択率が上がった。そのため「ベテランとして分野に影響を与える活動」と、「持続的な活動の成果が表れ始めている活動基盤形成期の活動」が多くを占めている。一方、採択に至らなかった申請には、地域の場づくりを目指す音楽公演、多くの人が楽しめることを目的とした普及事業が多く見られた。

● 演劇分野

申請件数は第2期として過去最多で前年同期比136%となった。初申請は全体の50%で、活動基盤形成期の団体やスタートアップ助成を経験した団体の割合が第1期と比べて増加している。復調傾向にある国際的な芸術交流活動を筆頭に高い採択率となった。企画内容としては、演劇の枠組を拡張する実験的な創作手法への取組や、海外の演劇フェスティバルへの参加を通じて世界の演劇シーンへのステップアップをはかる国際共同制作などの意欲的な活動の他、時代を映す社会問題と向き合う上演、これまでの活動を見つめ直し、新たに具体的な目標を掲げて創作体制の充実をはかる取組などが採択となっている。

● 舞踊分野

申請件数はこれまでに中で一番少ない件数だったが、年間の申請合計数は昨年度と同数となり、第1期と第2期の偏りが顕著に現れた形となった。申請ジャンルは、現代舞踊・コンテンポラリーダンスが8割、活動ステージ別では、活動拡大・発展期が6割以上を占めた。スタートアップ助成との併願申請が減少し、申請のすみ分けが定着しつつあると考えられる。採択件数は限られたが、他ジャンルのアーティストとの共同制作で創作の幅を広げ観客層の拡大にも繋がる事業や、これまでのカンパニーの創作方法にユニークな手法を取り入れ、自らの創造活動の活性化を目標に据えた団体の発展が見込める事業を採択した。

● 美術・映像分野

美術・映像分野では、国際的な芸術交流活動は団体2件が採択となった。欧州を拠点とするアーティストを招聘し、リサーチを経て制作・発表する都内での事業も採択となり、比較的規模の大きな国際的な事業が回復してきていることがうかがえる。絵画、彫刻、写真、映像等に加え、工芸、デザイン、パフォーマンスアート、AI等、様々な表現に関わる申請があったが、中でも映画・映像の制作や上映の申請が個人・団体共に多く半数以上を占め、アーティストがその後の創造活動の糧とするような上映企画や、新たな女性表象に挑戦する企画、海外のキュレーターと協働して行う革新的な事業等が採択になった。

● 伝統芸能分野

能楽、邦楽、現代邦楽、日本舞踊、人形劇などの種目から申請があった。申請件数はこれまでに少なくないものの、申請者ならではの工夫のある事業が多く、採択率は高くなった。採択となった申請者の多くが、新型コロナウイルス感染症流行下において活動を途切れさせることなく掘り下げ、その成果が今回の申請事業に反映されている点の特徴だった。また、スタートアップ助成の採択実績を経て、今期本助成に申請があった2件についてはいずれも採択となった。一方、初申請は少なく、いずれも不採択の結果となった。

● 複合分野

複合分野（核となる分野を特定できない活動）では、17件の申請があり6件が採択となった。採択事業の内訳としては、都内での芸術創造活動での採択数が2件、国際的な芸術交流活動での採択が4件となった。申請内容は多岐にわたるが、採択事業としては、ドラム奏者・電子音楽家・舞踏家によるコラボレーション企画等を採択している。申請事業の中には、分野横断的な事業であっても、事業内容に具体性がないため、採択には至らない企画もあった。

カテゴリーⅠ 単年助成 第2期〔助成対象期間：令和5（2023）年1月1日～12月31日〕

活動分野	活動内容	実施場所	団体／個人	申請事業者名	申請事業名
音楽	都内での芸術創造活動	都内	団体	一般社団法人もんでん	第8回両国アートフェスティバル2023
				21世紀の合唱を考える会 合唱人集団「音楽樹」	Tokyo Cantat 2023
				東京現音計画	東京現音計画#19～ミュージシャンズセレクション7：大石将紀2
				TRANSIENT	（仮称）近藤譲個展Ⅰ・Ⅱ
				コレgium Space415	コレgium Space415 第一回公演「スクランブル古楽」
				夢枕	団体夢枕 2023年公演『時空を舞う色を塗られた鳥 — The Painted Bird Dancing Between Time And Space』
				Phidias Trio	Phidias Trio vol.8 re-interpret（仮）
				現代奏造 Tokyo	現代奏造 Tokyo 第8回定期演奏会
	国際的な芸術交流活動	海外	個人	山澤慧	山澤慧チェロリサイタル「邦人作曲家による作品集」第3回
				ミュージック・フロム・ジャパン推進実行委員会	ミュージック・フロム・ジャパン 2023年音楽祭
演劇	都内での芸術創造活動	都内	団体	合同会社 DULL-COLORED POP	DULL-COLORED POP「岸田國士の戦争（仮）」
				EPOCH MAN	EPOCH MAN『我ら宇宙の塵』
				QoiQoi	『劇場』
				タカハ劇団	タカハ劇団『おわたり（仮）』
				関田育子	広角レンズの演劇（仮）
				合同会社 10月17日	FUKAIPRODUCE 羽衣第27回公演「プラトニック・ボディ・スクラム」
				果てとチーク	果てとチーク第六回公演 『くらいところからくるばけものはあかるくてみえない』
				幻都	『テンダーシング・ロミオとジュリエットより-』再演事業
	国際的な芸術交流活動	海外	団体	ルサンチカ	ルサンチカ『TOKYO PIPE DREAM LAND』（仮）
				演劇企画もじゃもじゃ	演劇企画もじゃもじゃ 第6回公演『ある腐女子』
				一般社団法人Q	『パッコスの信女 - ホルスタインの雌』世界演劇祭2023公演
				一般社団法人チェルフィッチュ	チェルフィッチュ新作映像演劇『ニュー・イリュージョン』アジアツアー
				合同会社アルシュ	『笑顔の砦』ベルリン公演
				一般社団法人一糸座	猫師グラフィス
舞踊	都内での芸術創造活動	都内	団体	株式会社クラネオ	OrganWorks プロデュース・ダンスニューエラ「アレコレ #3」（仮）
				株式会社タマプロ	日本舞踊その新世界—清姫コンフィデンシャル
				ヨウ+	中村蓉単独公演『花の名前』
美術・映像	都内での芸術創造活動	都内	団体	Oh Hey Do	Oh Hey Doのアニメーション上映会兼展示（仮）
		都内および海外	個人	アサクサ実行委員会	ハイドルム・ホルツファイント来日制作プロジェクト
		都内	個人	北澤宏昂	EQUINOX
	国際的な芸術交流活動	海外	団体	西澤諭志	Experimental Film Culture vol.5 in Japan
		都内	団体	有限会社一色事務所	『鍼を打つ』
伝統芸能	都内での芸術創造活動	都内	団体	Nest-A 株式会社	ヴィンセント・ライタス個展企画「影たちの中の洞窟」（展覧会とパフォーマンス、トークイベント）（仮）
				松永忠一郎作品演奏会事務局	松永忠一郎 第六回 作品演奏会
				能楽談ディズム実行委員会	第2回 能楽談ディズム特別公演 じっくり楽しむ能の世界～花子ものがたり～
				公益財団法人江戸糸あやつり人形結城座	『荒御霊新田神徳』（仮称）
	国際的な芸術交流活動	海外	個人	山木千賀	第14回山木千賀リサイタル
			団体	邦楽四重奏団	バリ市立劇場での公演およびオコラレーベルのCD録音

活動分野	活動内容	実施場所	団体／個人	申請事業者名	申請事業名
複合	都内での芸術創造活動	都内	個人	中銀河	Dancing Deads (仮)
				三野綾子	ghost enclosure (仮)
	国際的な芸術交流活動	海外	団体	一般社団法人Port B	Startup College Project (仮)
				一般社団法人日本舞台美術家協会	第15回 プラハカドリエンナーレ 2023 The 15th Edition of the Prague Quadrennial
		都内および海外	個人	闘う糸の会	闘う糸の会 (仮)
		都内	個人	草薙樹樹	MUNI映画祭 / MUNI Film Festival

カテゴリーⅡ 長期助成 採択結果の概要

採択となった2件の内、舞踊分野では、創作過程におけるリサーチやクリエーション活動の公開を通し、3年間をかけて創作を発展させることが期待できる活動が採択となった。複合分野では、東南アジア諸国のアーティストや研究者を巻き込み、映像作品の創作・国際シンポジウム実施を通して、3年間をかけて、内容を深化させることが期待できる活動が採択となった。

カテゴリーⅡ 長期助成 [助成事業対象期間：令和4（2022）年7月1日～令和6（2024）年6月30日（2年間）
または令和4（2022）年7月1日～令和7（2025）年6月30日（3年間）]

活動分野	活動内容	申請事業者名	申請事業名	実施予定年数
舞踊	創作活動を主とするもの	川口隆夫	「薔薇色ダンス」プロジェクト (仮)	3年
複合	創作活動を主とするもの	合同会社UPN	テラリア 隔離の時代を旅する演劇	3年

カテゴリーⅢ 芸術創造環境の向上に資する事業【単年助成 第1期】採択結果の概要

美術・映像分野では、映画界におけるジェンダー格差や労働環境等の課題に着目し、若手・女性の映画人のためのオンラインプラットフォームづくりに取り組む事業や、伝統芸能分野では、長唄の復元作曲を行い同作曲過程の公開等を通して、分野全体への波及が期待できる事業が採択に至った。

カテゴリーⅢ 芸術創造環境の向上に資する事業【単年助成第1期】[助成事業対象期間：令和4（2022）年7月1日～令和5（2023）年6月30日]

活動分野	実施場所	団体／個人	申請事業者名	申請事業名
美術・映像	都内	団体	Japanese Film Project	JFP Joint ～映画界の若手&女性のためのネットワーク作り～
伝統芸能			「今藤政太郎作品演奏会」実行委員会	今藤政太郎復曲プロジェクト
複合			特定非営利活動法人舞台芸術制作者オープンネットワーク	舞台芸術の「関係性」をめぐる連続講座2022～持続可能な創造環境に向けて (仮称)

カテゴリーⅢ 芸術創造環境の向上に資する事業【単年助成 第2期】採択結果の概要

今回は15件の申請があり、3件が採択となった。採択に至った事業としては、舞踊分野における人材育成事業のほか、これまでの自身の経験や、分野内の実情を踏まえた上で、現実的に即して創意工夫が見られる企画が採択となった。

カテゴリーⅢ 芸術創造環境の向上に資する事業【単年助成 第2期】〔助成事業対象期間：令和5（2023）年1月1日～12月31日〕

活動分野	実施場所	団体／個人	申請事業者名	申請事業名
演劇	都内	団体	特定非営利活動法人Explat	特定非営利活動法人Explat×一般社団法人ベンチアートマネージャー・メンターシッププログラム『バッテリー』第2期
舞踊			株式会社クラネオ	Terra Co.ダンスリサーチプログラム
伝統芸能			特定非営利活動法人ACT.JT	伝統ライブ「桜楽～琵琶・箏・三味線」

カテゴリーⅢ 芸術創造環境の向上に資する事業【長期助成】

今期は採択に至る事業はなかった。申請事業の中には、自らの団体の活動環境向上に留まる事業等も見受けられた。「カテゴリーⅢ」の申請区分では、分野を広く見渡して分野全体の創造環境における課題を特定し、的確な解決手法・実施体制で課題解決に取り組むとともに、2年から3年をかけて実施する必然性のある事業を対象としている。

※各助成プログラムとも、申請事業者名や申請事業名は申請時のものであり、実際の名称と異なる場合があります。

2

芸術文化による社会支援助成

【事業概要】

東京を拠点とする芸術団体や福祉団体、NPO等を対象とし、さまざまな社会環境にある人が共に参加し、個性を尊重し合いながら創造性を発揮することのできる芸術活動や、芸術文化の特性を活かし社会や都市の様々な課題に取り組む活動を助成する。令和3（2021）年度から、助成金交付額の上限を1件につき200万円に増額するとともに、長期的な計画を持つ事業を最長3年間、優先的に支援する仕組みを整備した。

【事業趣旨（目的）】

社会における芸術文化の新たな意義を提起し、あらゆる人に開かれた芸術のあり方を推進する先駆的な活動や、長期的視点を持ち着実に課題解決に資する活動の支援を目的とする。

令和4（2022）年度実績

申請件数：72件

採択件数：23件

交付決定総額：29,574千円

第1期 採択結果の概要

過去最多の申請件数となり、そのうち約8割が本助成プログラムに初申請の団体だった。全体の傾向として、各地域に根差した活動を行っている団体が、その地域で新たに実施する事業の申請が多く見受けられ、コロナ禍で中断されていた小さなコミュニティ単位の芸術活動が再開されつつあることが窺えた。採択となった14件のうち7件が今回初採択となる団体で、7件が過去に採択歴のある団体である。過去採択歴のある団体による事業は、優先的支援対象の2件を含め、いずれも過去の助成対象事業の実績を踏まえて新たに計画された取り組みとなっている。

採択事業の内容は、障害者の芸術参加やその環境整備に関するものが9件となったほか、性暴力被害、ひきこもり等、様々な社会課題に向き合う芸術活動となっている。いずれも、設定された課題に対する事業計画の適合性、過去の活動実績に基づく実現性のほか、先駆性・独創性、効果の広がり、継続的発展性を総合的に評価し、採択に至った。

第1期〔助成事業対象期間：令和4（2022）年7月1日～令和5（2023）年6月30日〕

申請事業者名	申請事業名
STAND Still 東京	STAND Still: 性暴力サバイバービジュアルボイス
一般社団法人 CLEAN&ART	SHIBUYA INCLUSIVE ART PROJECT (インクルーシブアートの方で人と、地域と、社会とつながるプロジェクト)
有限会社劇団銅鑼	Let's try! プロジェクト in 東京若者演劇ワークショップ ◆優先的支援対象事業/3年計画事業2年目
Re: Signing Project	ろう者による感覚の多様性を探る「知覚と感覚」展覧会プロジェクト (仮)
表現クラブがやがや	あっちでがやがや、こっちでがやがや2022
特定非営利活動法人シニア演劇ネットワーク	舞台芸術鑑賞サポート講座2022 ◆優先的支援対象事業/3年計画事業2年目
公益財団法人十四世六平太記念財団	第6回「手話」で楽しむ能狂言鑑賞会
一般社団法人もんでん	コミュニティ・ミュージックのいま、そしてこれから2022
ソーシャルアート おとまち	みんなのコンサート オリジナル音楽劇「今、生きている」(仮)
特定非営利活動法人 One step 音楽スタジオ	生演奏で踊ろうーWSパフォーマンスみんなで踊って、生きよう!
Flatart	東京藝大「藝祭」&「卒展」でアートに触れよう (仮称)
特定非営利活動法人東京ソテリア	アルテ・エ・サルーテ「マラー/サド」 ～世界各地の精神科病院と表現活動をつなげるプロジェクト～
XHIASMA 実行委員会	XHIASMA Research #002
ドキュ・メント実行委員会	ドキュ・メント 2022

第2期 採択結果の概要

過去最多の申請件数となった第1期に続き、今期も第2期としては過去最多の申請件数となった。計画性、先駆性・独創性、効果の広がり、継続的発展性を総合的に評価した結果、本助成プログラムに初申請の2団体による事業を含む9件を採択した。各事業の内容や取り組む課題は、障害者の芸術創造活動や鑑賞サポートに関するものが6件となったほか、気候変動問題、子供の育成、共生社会の実現等様々だが、前述の評価の視点の中でも特に、申請事業の実現性を裏づける具体的な計画や、明確なビジョンを有していることが、採択のポイントとなっている。

また、今期はろう者が代表を務める団体による、手話言語や視覚言語の可能性を探る意欲的な事業が2件採択となっ

た。3年間の優先的支援対象として新規採択したのは、約10年に渡り視覚障害者と対話型美術鑑賞プログラムを実践してきた団体によるアーカイブ作成・公開事業である。

第2期〔助成事業対象期間：令和5（2023）年1月1日～12月31日〕

申請事業者名	申請事業名
特定非営利活動法人アート&ソサイエティ研究センター	(仮称) 気候アクション・アートプラットフォーム クライメート・スピークス&スタジオ・コンテナ@SUMIDA
視覚障害者とつくる美術鑑賞ワークショップ	「目の見える人と見えない人の芸術鑑賞の場における経験と関わり」のアーカイブ作成と公開 ◆優先的支援対象事業／3年計画事業1年目
特定非営利活動法人LAND FES	LAND FES DIVERSITY 深川 2023 ◆優先的支援対象事業／3年計画事業2年目
一般社団法人異言語Lab.	体験型演劇「国際手話 / 架空手話」制作プロジェクト
一般社団法人一乃会	能と講談で古典を楽しむ ことのは能 Vol.2 ◆優先的支援対象事業／3年計画事業2年目
コドモチョウナイカイ事務局	コドモとオトナ 芸術文化による学びの循環プロジェクト COドモチョウナイカイ
特定非営利活動法人シュアール	視覚言語と音楽の融合で生まれる表現の可能性
特定非営利活動法人Art's Embrace	(仮称) 上町工房プロジェクト
一般社団法人DRIFTERS INTERNATIONAL	街とアートの文化交流プロジェクト@池上 新人Hソケリッサ!編 (仮)

※各助成プログラムとも、申請事業者名や申請事業名は申請時のものであり、実際の名称と異なる場合があります。

3

東京地域芸術文化助成

【事業概要】

東京を拠点とする芸術団体、保存会、継承団体等を対象とし、都内の無形民俗文化財の公開活動（無形民俗文化財活用事業）や、地域と連携して継続的に実施している事業（地域文化資源活用事業）を助成する。

【事業趣旨（目的）】

東京における各地域の多彩な文化的特徴をかたちづくり国内外に広く発信する事業を対象とし、各地域の魅力を向上させ地域振興に寄与する活動を支援することを目的とする。

令和4（2022）年度実績

申請件数：31件

採択件数：18件

交付決定総額：8,395千円

採択結果の概要

一次募集において、無形民俗文化財活用事業では、地域に古くから伝わる民俗芸能を広く一般に公開することで、理解の促進を図り、安定した継承に資する事業の申請があった。地域文化資源活用事業では、その地域ならではの文化的な特色を活かし、地域振興や観光振興に寄与する事業や、芸術文化ならではの切り口で地域の魅力の再発見を目指している事業の申請があった。

二次募集において、無形民俗文化財活用事業では、一般市民が民俗芸能を体験して発表会に参加する事業や、複数の保存会が一堂に会して公開活動を行う事業等、広く関心を集めて理解促進をはかる活動の申請があった。地域文化資源活用事業では、芸術文化ならではの切り口で地域の文化的特色の形成に寄与し、地域振興や観光振興に結びついている事業の申請があった。

三次募集において、無形民俗文化財活用事業は、コロナ禍でいまだ実施を見送る活動があるなか、地域の伝統行事として3年ぶりに開催し、安定した継承を図り、広く一般に関心を集めて理解を促進する事業の申請があった。地域文化資源活用事業では、その地域ならではの文化的な特色を活かし、まちづくりや地域振興、観光振興に結びつけている事業の申請があった。一次募集から三次募集までをとおして、地域文化資源活用事業の審査にあたっては、当助成プログラムの基本方針に照らし、地域文化資源としての妥当性、地域との連携に基づく発信力を重視した上で、採択事業を決定した。

[助成事業対象期間：令和4（2022）年4月1日～令和5（2023）年3月31日]

	申請事業者名	申請事業名
一次募集	せたがや梅まつり実行委員会	せたがや梅まつり
	下北沢音楽祭実行委員会	下北沢音楽祭
	「クラシック音楽を楽しむ街・荻窪」の会	第35回荻窪音楽祭
	高円寺演芸まつり実行委員会	第13回高円寺演芸まつり
	町田時代祭り2022実行委員会	町田時代祭り2022（仮）
	特定非営利活動法人芸術文化の薫るまちinひの実行委員会	芸術文化の薫るまちコンサート ブッチーニ×ブッチーニ オペラアリアとグローリアミサ（仮）
	一般社団法人染の里おちあい	藍・新宿 ～みんなで育ててみんなで染める藍染め体験
	公益財団法人江戸糸あやつり人形結城座	第一回スタジオ公演「東海道中膝栗毛～赤坂並木から卵塔場まで～」（仮称）
	「隅田川 森羅万象 墨に夢」実行委員会	KOSUGE1-16「どんどこ！巨大紙相撲～北斎すみゆめ場所」
二次募集	TOKYO シャンソンフェスティバル実行委員会	第11回TOKYO シャンソンフェスティバル
	多摩川流域郷土芸能フェスティバル実行委員会	第21回 多摩川流域郷土芸能フェスティバル
	一般社団法人もんでん	両国橋アートセンター2022
	伝統文化ふれあい事業実行委員会	伝統文化ふれあい事業（八王子車人形 体験・発表講座）
	小金井薪能	第44回小金井薪能
三次募集	染の小道実行委員会	染の小道2023
	府中市の遺産の活用を考える会	武蔵府中郷土かるた選手権
	江東区民まつり中央実行委員会	江東区民まつり中央まつり民俗芸能大会
	立川市民オペラの会	立川市民オペラ2023 マスカーニ作曲 歌劇「カヴァレリア・ルスティカーナ」とヴェリスモオペラ（仮）

※各助成プログラムとも、申請事業者名や申請事業名は申請時のものであり、実際の名称と異なる場合があります。

4

スタートアップ助成

【事業概要】

東京を拠点とし、東京の芸術シーンの次代を担うことが期待される新進の芸術家や芸術団体等を対象とし、東京都内または海外で実施される公演、展示、アートプロジェクト、国際フェスティバルへの参加、国際コラボレーション等を助成する。

【事業趣旨（目的）】

東京の芸術シーンで活躍を展開していこうとする新進の芸術家や芸術団体がチャレンジする新たな芸術創造活動を助成し、若い才能が今後の芸術活動への地歩を築くためのスタートアップを後押しすることを目的とする。

令和4（2022）年度実績

申請件数：600件

採択件数：157件

交付決定総額：97,549千円

第1回 スタートアップ助成 採択結果の概要

● 音楽分野

音楽分野への申請の中心は昨年に引き続き、クラシック・現代音楽に関する企画となっており、今回も申請数全体の半数を占める結果となった。一方でジャズやワールドミュージック、ポップスといった、クラシック以外の音楽シーンに展開する意欲的な申請が増えたこと、さらにはジャンルミクスチャーのプログラミングも増加傾向にあるといえる。採択となった申請案件においては、日程や実施会場、プログラムの内容が決定済、出演者がブッキング済と、申請段階において既に事業の実施が確定的である点が共通していた。また事業の実施を通して、芸術音楽分野およびその周辺領域に対しどのような好影響を発揮しうるのかという点について具体的な言及がなされていた点も、採択事業の申請書において共通して見られた特徴である。

● 演劇分野

20代と30代からの申請が全体の6割となり昨年に比べ若干減少傾向だが、20代前半の在学中の学生からの申請が増えるなど年代層は広がった。また全体の3分の2が初申請となるなど、新たな層からの申請があったのも特徴的である。小劇場演劇を中心に、ミュージカルや音楽劇、朗読劇等幅広い申請があった。採択事業に共通しているのは、事業の具体的な内容と目的が一致しており自身の言葉で企画趣旨や狙いを表現できていることである。独自の演出手法や表現方法にチャレンジする意欲的な取り組みや、俳優がプロデューサー等に挑戦する新たなプロジェクトで実現性や将来性が認められる企画が採択に至った。また作品や公演の具体性が乏しく、出演、予算、計画等が不明瞭で実現性に欠ける企画は採択には至らなかった。

● 舞踊分野

申請者は20代から30代が中心で、ジャンルとしてはコンテンポラリーダンス、ストリートダンス、大道芸、舞踏、バレエ、民族舞踊、マジック等の幅広い申請があった。「国際的な芸術交流活動」の占める割合が昨年度より増加し、コロナ禍においても海外の事業が動いている状況がうかがえる。独自の観点から企画が立てられ、計画の具体性と実施の意義を明確に示している申請が採択となっている。アイデアは斬新なものの実現するための手法に更なる工夫が必要なものは採択には至らなかった。

● 美術・映像分野

いわゆる若手作家の個展にとどまらず、グループで培った知見をソロ活動において踏み出していく挑戦をはじめ、申請者の経験を背景とした、説得力のある具体的なチャレンジをしていくものが採択された。他方、助成対象外となる作品販売や販促活動が含まれていたり、企画書を添付していないもの、また団体での申請の場合に申請団体自身の過去の実績を提出すべきところ、団体構成員個人の実績や法人化以前の前身団体の実績しか提出されていないものなど、書類不備が目立った。

● 伝統芸能分野

能楽、長唄、箏曲、日本舞踊、創作邦楽等、多様な種目に及ぶ12件の申請があった。申請者の約8割が、伝統芸能で若手と呼ばれる30代・40代だった。この世代が中心となった申請事業で、活動に継続性があり、計画の実現性が高いものが採択に至っている。また、新しいことを始めようという若手の意識を企画に反映した事業や、他分野とのコラボレーション等、挑戦的な事業も複数採択している。

● 複合分野

「核となる分野を特定できない芸術活動」を対象とする複合分野には27件の申請があった。申請者は個人が団体より多く、申請内容は多岐にわたっている。複数領域のアーティストによる協働でジャンルの枠を超えた新たな創作を行うコラボレーション企画、音楽と舞踊のコラボレーションを契機とし、音楽領域の新たな可能性を問う事業等が採択された。

スタートアップ助成 第1回 [助成事業対象期間：令和4（2022）年7月1日～令和5（2023）年3月31日]

活動分野	活動内容	実施場所	団体／個人	申請事業者名	申請事業名
音楽	都内での芸術創造活動	都内	団体	民謡こでらんに～	日本×エチオピア 民謡交換プロジェクト（仮）
				Cabinet of Curiosities	Cabinet of Curiosities 2022 New Musical Atlas（仮）
				金管6重奏「ゼクサス」	金管6重奏「ゼクサス」第2回コンサート～金管六重奏の多様性～
				Scholas Aquarius	Scholas Aquarius 2nd concert(仮)
				PALETTE Percussion Quartet 実行委員会	PALETTE Percussion Quartet 《打楽器四重奏の世界 Vol.2》
				Register Trio	Register Trio Vol.3（仮）
			個人	鈴木瑛子	Eclipse 初公演（仮）
				黒田崇宏	Square of Thoughts Vol. 1 “Crossing in Austria”（仮）
	山本弥香	Yugentrio 日本ツアーコンサート 東京公演			
国際的な芸術交流活動	都内および海外	団体	nagalu	nagalu presents EAST MEETS EAST 2023（仮）	
演劇	都内での芸術創造活動	都内	団体	劇団身体ゲンゴロウ	劇団身体ゲンゴロウ第6回公演「黄金の国より」
				Dr. Holiday Laboratory	脱獄計画（仮）
				幻視譚	幻視譚第二回公演『白煙(仮)』
			個人	廻トラテツ	個展・展示期間中の朗読劇の上演（仮）
				百音	百音企画「ラブ・ワールド」
	画餅	画餅 第二回公演（仮）			
	国際的な芸術交流活動	海外	個人	石井順也	(仮) 現代劇 interloper（侵入者）
舞踊	都内での芸術創造活動	都内	団体	W/ union	W/ union 初単独公演『未来的アナローグ』
			個人	石原一樹	コンテンポラリーダンス公演『月と若者』アンデルセン「絵のない絵本」より
				碓井菜央	ソロパフォーマンス 『入口 出口inout?（仮)』
	国際的な芸術交流活動	海外	団体	PEGAMENTO	「There is no way to understand」 渡辺はるかダンスパフォーマンス&ワークショップ inイスラエル（仮）
				Hyper Ambient Club	71 highly chus + hacking and sharing body accountsのベルリンでのリサーチとパフォーマンス
				舞踏石井組	舞踏石井組2022年フランスツアー（仮）
				美術・映像	都内での芸術創造活動
合同会社WEMON PROJECTS	Daily Life and Arts project（仮）				
ストレンジャーによろしく実行委員会	ときめき絵画道2023展覧会実施				
個人	真鍋美祈	インタラクティブアート「Worldwide StRhyme(仮)」の展示			
	羅絲佳	短編アニメーション『小大（Little biggie）』（仮）の制作			
	太田光海	短編映画『Terra Cognita』制作および作品上映			
	山口壘	DELIVERY DRAWING PROJECT			
伝統芸能	都内での芸術創造活動	都内	個人	大原崇嘉	Para Reality(仮)
				福田恭子	箏×書～ことのはを紡ぐ～（仮）
				安嶋三保子	安嶋三保子 第一回 箏 ソロリサイタル（仮）
				藤舎花帆	第1回 藤舎花帆リサイタル（仮）
				岡本はる奈	フランス語と日本語による能楽公演・流儀の独自性の美（仮）
複合	都内での芸術創造活動	都内	団体	いしのうら運営委員会	いしのうら vol.2（仮）
			個人	後閑綾香	後閑綾香 作曲個展「身体（演奏者⇔ダンサー）～バロックダンスとコンテンポラリーダンスの交差～」(仮)
				手塚美楽	60歳まで友だちでいる方法（仮）

第2回 スタートアップ助成 採択結果の概要

● 音楽分野

音楽分野での採択件数は9件、採択率は37.5%という結果になった。団体で採択となったのは、小編成オーケストラによる公演からアコースティックと電子音響とのミクスト音楽に焦点をあてた事業、シンフォニックジャズ、ヒップホップシーンからの発信、ピアノと朗読による音楽劇、古典の再解釈によるオリジナルオペラの上演等となっており、その内容は多様である。個人申請ではドラマーやコントラバス奏者による企画が採択に至っており、いずれも申請者自身のキャリアの飛躍を予感させる、音楽的挑戦性の高い事業内容となっている。

● 演劇分野

26件中9件の採択となり、採択率は34.6%と過去最高となった。20代から30代の申請が6割を占めたほか、俳優が申請者となった事業が全体の5割を占めたのも特徴である。演劇分野で経験を積んだ申請者が経験を活かし、新たに作・演出に取り組むなど、キャリアの拡充やステップアップを目指す企画や、内容が具体的かつ目的が明確で、丁寧に言語化されている事業が採択に至った。出演者や事業内容に未定要素が多く、具体性に欠ける事業は採択に至らなかった。

● 舞踊分野

具体性と実現性が高く実施の意義も明確に言及された申請が複数あり、7件中4件が採択となった。ジャンルとしてはコンテンポラリーダンスが最も多く、他にストリートダンスとフラメンコの企画があった。これまで舞踊分野において申請の多かった、ジャンル横断的な企画や、他分野とのコラボレーションといった内容の申請は少なく、純粋に「踊ること」を目的とする企画が多かったことが特徴として挙げられる。採択された申請に共通することは、申請者・申請団体の目的・課題・挑戦したいことと、それを実現するための事業計画が明確に示されており、その申請者・申請団体にとって実施する必然性が認められることである。

● 美術・映像分野

20代から30代の申請が3分の2を占めた。美術分野では一定の修練や過去の実績等への批判的な再解釈を行う取組が採択された。映像分野では、過去大多数を占めていた俳優発信の申請が減り、美術作家、アニメーション作家、映画監督、脚本家、衣装デザイナーなど多岐にわたる事業者より申請があった。採択された事業では、美術分野では、十分な過去の実績を持ちつつチャレンジ性が明確な企画や、今やりたいことだけではなく先行世代の芸術的達成を考察するなど先人の業績や歴史を学び、批判的にとらえ、革新・更新する意思と能力（ポテンシャル）を示した申請者による事業が採択された。映像分野では、作品制作のみならず公開イベント内容についても具体的に計画され、事業者が目指している将来へのステップアップへとつながることが見込める事業が採択される結果となった。

● 伝統芸能分野

3件中2件の団体が採択となった。このうち1件は、当助成の伝統芸能分野で初めての学生団体である。技術の習得に年月を要する伝統芸能では、学生が主体となって主催公演を企画すること自体が難しい状況である。次世代を担う若手には、目まぐるしく変化する時代の流れに飲み込まれることなく自分を舵取りする力を養うことも、これから先求められていくことである。

● 複合分野

今回、複合分野での申請は4件と少なく、採択に至った団体はなかった。どの団体も分野の枠に捉われず、分野横断型や新たな表現方法を作り出そうとしている独自性のあるものだったが、公募要件を満たさない申請もみられた。

スタートアップ助成 第2回 [助成事業対象期間：令和4（2022）年10月1日～令和5（2023）年6月30日]

活動分野	活動内容	実施場所	団体／個人	申請事業者名	申請事業名
音楽	都内での芸術創造活動	都内	団体	kasane	kasane vol.2：トーク&コンサート「Ré trospective - 過去との対話 -」
				「夢の浮橋」制作企画	音楽劇の制作・発表
				大熊音楽事務所Wind Roots運営委員会	Wind Roots 第一回レギュラーコンサート
				呼ぶ女	「ふたりの女」-愛されたモーツァルト-
				Unplugged Jam Proud	Unplugged Jam Proud
				Neoclassical Collective	クチズサム
				Novanta Quattro	ブッチーニの「地獄篇」ーダンテ『神曲』から《ジャンニ・スキッキ》へー（仮）
	国際的な芸術交流活動	海外	個人	中野渡拓実	emancipation Live（仮）
演劇	都内での芸術創造活動	都内	団体	片岡自動車工業	片岡自動車工業東京進出公演「レインボーショッピングセンターモール」「フレッシュマートストリートハリケーン」「セントラルポートアーケードサイクロン」（仮）
				演劇ユニット『あやとり』	演劇ユニット『あやとり』
				〇企画	坂井水産フェスティバルvol.1「ストロング」「山の声」
				カリンカ	「家族（仮）」
				y/n	新作レクチャーパフォーマンス（仮）
				木村美月の企画	私の幽麗塔（仮）
				株式会社momocan	うらじぬのひとり芝居『ヘルベス（仮）』
			個人	渡邊綾人	きれいな糸（仮）
				西嶋咲紀	酔ひどれ船第2回公演（仮）
舞踊	都内での芸術創造活動	都内	団体	NeNalab	「食べるからだ」（仮）ワークインプログレス公演・本公演
	国際的な芸術交流活動	海外	個人	misa	【舞踊日本昔話～生と死と性トシュルレアリスム～】（仮）
			個人	加藤理愛	Unpublished Pieces（仮）
美術・映像	都内での芸術創造活動	都内	団体	FLOATING ALPS 合同会社	Changes program #01（仮）
			個人	権祥海	オブジェクト・シアター
				中谷優希	「シロクマの修復師」（仮）
				東山詩織	盾、ハンカチ（仮）
伝統芸能	都内での芸術創造活動	都内	団体	J-TRAD Ensemble MAHOROBA	第一回定期演奏会 始原～はじまりはじまる（仮）
				つくしの會	つくしの會（仮）

第3回 スタートアップ助成 採択結果の概要

● 音楽分野

27件の申請があり、うち採択は8件、採択率は29.6%だった。採択された事業は、若手音楽家による現代音楽アンサンブルの公演、3名の若手作曲家への新曲委嘱をおこなうフルートとエレクトロニクスの公演、声楽とピアノトリオという新たな編成による室内楽、映像作家がプロデュースするジャズの企画、インディーロックに根ざしたソロ活動、ポップスのユニットによる国際的な事業等で、ジャンルや申請者の経歴、事業内容は多岐にわたっている。いずれも、自らの過去の活動の積み重ねを踏まえ、高い実現性を担保しつつ、新たなステップアップをはかろうとする挑戦性の高い事業ばかりである。クラシック音楽／ポピュラー音楽の別を問わず、既存の音楽やそれを取り巻く状況に対する自身の視点やアプローチが明確に言語化され、企画内容に具体的に落とし込まれている申請が採択となっている。

● 演劇分野

演劇分野は40件の申請があった。小劇場演劇を中心に、ミュージカル、翻訳劇、パフォーマンス演劇や映像系、体験型といった幅広いジャンルから申請があり、採択に至った15件にもその多様さが反映されている。これまで同様に俳優が申請者となる企画が複数あった。また、ショーケースやオムニバス形式の企画がみられたのは今回特徴的だった。総じて内容が充実した事業が多く、動機やアイデアが自らの言葉で明確に語られ、創作手法やコンセプトが挑戦的だったり各人のキャリアにおけるチャレンジ性があり、会場やスケジュール、キャストだけでなくスタッフも決定しているなど実現性が高い申請が多かったことが、これまでより高い採択率37.5%に繋がった。一方でなぜその戯曲やテーマに取り組むのが不明瞭で、企画内容と目的が一致せず客観性に欠けるものは採択に至らなかった。

● 舞踊分野

11件の申請があり、ジャンルはコンテンポラリーダンスが最も多く、次いでバレエ、フラメンコ、ストリートダンス等の申請があった。このうち事業内容と申請者の目的意識が明確に記されており、アーティストとしてのキャリアアップも見込める6件が採択に至った。

● 美術・映像分野

24件の申請があり、採択は6件となり、採択率は過去最高となった。現代的なテーマを一貫して持ってリサーチを続けてきた成果を具体的に提示する活動や、申請者が自身の過去作品から一步を踏み出し、新たな表現を目指そうとしていることが申請書類上で明確にされている事業、参加スタッフ名が具体的に挙がり、制作から公開に至るまで十分に計画が練られた実現性の高い事業が、採択に至った。

● 伝統芸能分野

5件の申請があり、申請書の内容が充実した事業と、伝統芸能の枠に収まらない挑戦的な事業の2件が採択となったが、伝統芸能分野の申請件数は、減少傾向がみられた。当助成では、新たな芸術創造活動を対象としており、伝統芸能の体験、初心者向けワークショップ等、特定の種目の普及を主目的とする活動は採択に至らなかった。

● 複合分野

「核となる分野を特定できない芸術活動」を対象とする複合分野には12件の申請があった。申請者の年代は20代および30代前半が中心となっているが、中には10代からの申請もあった。採択に至ったのは2件で、いずれも、複合的な芸術表現を志向しつつ、内容やコンセプトが具体的かつ明快な事業である。

スタートアップ助成 第3回 [助成事業対象期間：令和5（2023）年1月1日～9月30日]

活動分野	活動内容	実施場所	団体／個人	申請事業者名	申請事業名
音楽	都内での芸術創造活動	都内	団体	アンサンブル・トーンシーク	Ensemble Toneseek 第二回演奏会「ピエロから現代へ」(仮)
				秋山カルテット	AKIYAMA Quartett second concert (仮)
				メグロジョッキークラブ	野口晴哉音楽室再生計画(仮)
				クラリネット5重奏団 Penta-CLam	Clarinet Quintet Penta-CLam 2nd Concert (仮)
				Aaanna Japanese Special	Aaanna Japanese Special 活動発信事業
	国際的な芸術交流活動	都内および海外	個人	星野泰晴	(仮)Beyond the Tokyo Sky
				村上聖	ニューフェイス vol.1 ～フルート作品の現在・未来～ (仮)
演劇	都内での芸術創造活動	都内	団体	鈴木サアヤ	アメリカにてストリープスの新曲録音及びライブ演奏のビデオ制作
				Group B	ミュージカル「ツミとバツ」2ndトライアウト
				燦燦たる午餐	燦燦たる午餐 第一回公演(仮)
				劇団NUTS!	『メッセージ・イン・ア・ボトル』(仮)
				三枚組絵シリーズ	三枚組絵シリーズ② 洋間
				ブテラノドン	サーカスがはじまらない
				演劇企画カチョエベベ	演劇企画カチョエベベ第二回公演『甘苦』
				無限のネコ定理	無限のネコ定理第二回公演
				劇的事務局	劇的な葬儀
				ザジ・ズー	ZAZI・ZOO JAPAN TOUR(仮)
				東のボルゾイ	東のボルゾイ
			個人	阿久津京介	もあ、企画 旗揚げ公演『JAM』(仮)
				廣川真菜美	こどものじかん—THE CHILDREN'S HOUR— (仮)
				森悟	シーユレーター
				齋野直陽	啓蒙スードル第四回公演『どこにもいない』
				小林春世	ハルナツ vol.1『proof』(仮)
舞踊	都内での芸術創造活動	都内	団体	ORU	ORU主催公演 コレオグラフィーモンタージュ「タイタス・アンドロニカス」
			個人	中村瑞乃	中村瑞乃ソロ新作公演「ちぎれたかけら」(仮)
				清水美紗都	HASHTAG 3.0
				武本拓也	新作パフォーマンス公演(仮)
	国際的な芸術交流活動	海外	団体	山口なざさ	紡ぎ、食べる (仮)
美術・映像	都内での芸術創造活動	都内	団体	Triangle.	2023 City Dance Festival Washington DC
				そこからなにがみえる	L/R iverside(仮)
				紙魚プロジェクト	《月を読む：遠近のアーカイブ》 英題：《TSUKIYOMI: Archives from Near and Far》
			個人	Knots for the Arts	Knots for the Arts Project: Screening Dialogue in Asia
				向井ひかり	向井ひかり個展・線の車窓(仮)
				藤瀬朱里	個展「空を縫う」(仮)
伝統芸能	都内での芸術創造活動	都内	団体	岡田翔	paper company Book Exhibition Vol.1
			個人	WAN	笙と三味線～和楽器の魅力
複合	都内での芸術創造活動	都内	団体	書彩家結鶴	墨の響 絃の彩～書と箏の織りなす世界～ (仮)
			個人	ATMOSPHEREx.	ATMOSPHEREx. 音楽実験2「展覧会の詩」
			個人	石井ひかる	「飛んで火に入る」

第4回 スタートアップ助成 採択結果の概要

● 音楽分野

申請件数は57件、うち14件が採択となっている。採択された事業は、聴衆参加型のインプロビゼーション公演、日本歌曲に着想を得て新たに手掛けられる創作オペラ、古典から現代にいたるフランス合唱作品を取り上げるコンサート、若手作曲家によるチェロとコントラバスのデュオ企画、銭湯を舞台とする回遊型演奏会など多種多様である。音楽分野の申請傾向としては、現役学部生・大学院生からの申請が増加している点が挙げられる。申請に際する年齢制限がないこと、在学中から挑戦できることへの理解が徐々に広まっている印象である。また、スタートアップ助成への申請歴のある申請が全体のおおよそ2割を占めた。その中でも、再挑戦から採択に至った申請は、事業の目的やプログラミングの独自性や挑戦性に対する説得力が高く、過去の申請内容に対する省察をふまえ、事業それ自体がブラッシュアップされていた点が共通している。

● 演劇分野

申請件数は53件で17件が採択となり、過去最高の採択件数となった。20代から30代の申請が全体の約7割を占め、これまで演劇活動で研鑽を積んだ申請者が初めて行う主催公演など、キャリアにおいて新たな取組に挑戦する事業が8件採択に至った。過去に不採択となった事業をブラッシュアップして今回採択された事業や、映像演劇、体験型演劇、フェスティバル実施に向けたプレ事業など、様々な企画が採択されている。事業内容が具体的かつ目的が明確で、表現内容の独自性が申請書内で言語化できている事業が採択に繋がっている。

● 舞踊分野

20件の申請があり、6件が採択となった。コンテンポラリーダンス、バレエ、舞踏など申請の多かったジャンルでは、過去に申請のあった事業者や参加者が含まれる事業も多数見られた。その中で、ダンサー・振付家として着実にキャリアを積み、自らが主宰する団体や公演で新たな作品作りやキャリアステージに挑戦する事業などが採択に至った。中でも、独自の着眼点や挑戦のポイントが明確に示されており、実力のある出演者・スタッフを揃え、観客へのアプローチ方法まで含めて具体的に記載されている事業が高く評価された。逆に、事業の目的やコンセプトは明確であっても、実施計画や事業内容に不明瞭な点があるもの、それらを裏付ける書類が不足しているものについては不採択となった。

● 美術・映像分野

33件の申請があり、採択件数は9件、採択率は27.3%と過去最高になっている。今回は作家が新たな一歩を踏み出そうとして、それまでの研鑽を展示に昇華する事業が評価されると同時に、ある程度評価を受けている作家でも、自身のルーツに向けた新たな展開を試みようとする企画が採択された。海外招聘事業や海外作家との共同制作の事業も増え、ポスト・コロナの風が感じられた。

● 伝統芸能分野

今回は11件の申請があった。このうち国際的な事業の申請が3件あり、新型コロナウイルスの感染拡大が落ちついて、海外での活動が増えてきた状況がうかがえる。今回採択に至った5件は、伝統芸能の将来を担う若手によるはじめての主催公演のほか、評価が確立しつつある中堅層の申請者による挑戦性の高い事業だった。不採択になった事業には、具体的内容だけでなくテーマそのものが定まっていないものや、日本文化の普及目的の要素が強い内容のものがあった。

● 複合分野

今回、複合分野での申請は16件あった。採択は1件となったが、独自性があり、実現性の高い申請が採択となっている。1つの分野にとらわれない分野横断型や新たな表現方法を作り出そうとしているなどチャレンジ性はあるものの、具体性、実現性が見込まれない申請もみられた。

スタートアップ助成 第4回 [助成事業対象期間：令和5（2023）年4月1日～12月31日]

活動分野	活動内容	実施場所	団体／個人	申請事業者名	申請事業名
音楽	都内での芸術創造活動	都内	団体	Duo NéMeu	Duo NéMeu ファーストリサイタル（仮）
				こんどらベースオブアーツ	Bass For the Future!（仮）
				シバムジーク	日本オペラの今昔をめぐって（仮）
				Verset Versé	Verset Versé 1st. Concert フランス合唱音楽の諸相（仮）
				Team Liaison	Team Liaison
				合同会社無名	ゴシック・アンド・ロリータ（仮）
				Ensemble Academia Musica	「快楽の庭園」～クロムニエージュ城に響いた音楽（仮）
				Novanta Quattro	ドニゼッティ《愛の妙薬》—コンメーディア・デッラルテによるオペラの異化効果の追究（仮）
				ミヒヤエル・ハイドン・プロジェクト	ミヒヤエル・ハイドン・プロジェクト #07オーストリアで歌い継がれた祈りの響き『ミヒヤエルからシューベルト、ブルックナーへ』（仮）
				あちらこちら	あちらこちら in 銭湯（仮）
				Old instruments Research Project	イスラエルの泉（仮）
			コンサートプラン・クセジュ	オマージュとヒストリエ	
			個人	中山加琳	城への招待 ヴァイオリン×クラリネット×ピアノデュオによる夏のコンサート（仮）
				金ヨハン	生成/共感/合意…「楽器」を分かち合う音楽聴取（仮）
演劇	都内での芸術創造活動	都内	団体	長澤脚本河原演出企画	長澤脚本河原演出企画 vol.2『偽義疑戯』（仮）
				特定非営利活動法人Deku Art Forum	下北沢国際人形劇フェスティバル ed. 0（仮）
				演劇ユニット「鳴蒲牢」	舞台「ハニハハラ～趙氏孤児大報讐～」（仮）
				カハタレ	カハタレ第一回公演「気遣いの幽霊」（仮）
				ムケイチョウコク	ムケイチョウコクイマーシブシアター「反転するエンドロール」
				東のボルゾイ	東のボルゾイ新作音楽介入会話劇 ETHICS MAJOR COMEDY『イエスと言え』
				&Co.	「罵倒の作法」03 司辻有香新作戯曲を上演する -1
				紙魚	紙魚新作公演（仮）
				TeXi's	TeXi's 第三回本公演「春琴抄」（仮）
				碧さやか	建物と記憶（仮）
			個人	平井光子	華氏同盟 IV
				黄淑玥	EXPECT
				梢はすか	厄介払わない（仮）
				三浦琉希	ユニット『Qualia』
				稲川悟史	<映像演劇>まわるランドルト環（仮）
				藤井ちより	『キューちゃんは僕を探さない』
				キキ花香	thinking about us 考えるについて私達（仮）
				燦然 CAMP	G感覚
舞踊	都内での芸術創造活動	都内	団体	room. Onaya Rion	room. Onaya Rion「sanagi」（仮）
			個人	宮崎あかね	宮崎あかねダンス公演「水際の正体」
	国際的な芸術交流活動	海外	個人	若羽幸平	おどらない、からだ
			石原一樹	ダンス公演「ナルシスの告白」（仮）	
美術・映像	都内での芸術創造活動	都内	団体	LOCUS	2023 City Dance Festival Washington DC
			個人	合同会社Souya Handa Projects	public void capitalism!（仮）
				Post Passion Fruits	故郷メタバース探索ツアー展（仮）
				メカラウロコ	エコーエコーエコー。（仮）
				ヤマウチフミト	都市一地方（仮）
				工藤雅	JOHAN ⇄ KUDO 往復書簡（仮）
	矢野紗季	映像、絵画、立体、パフォーマンス（仮）			
	シャロンリユー	有楽町からヤンゴンへ			
	国際的な芸術交流活動	海外	個人	南壽イサム	生きる④南壽イサム『材木屋の実家から都内の製材所へ、更に家族へ』（仮）
			加藤明洋	WRO BIENNALE 2023: FUNGIBLE CONTENT	
伝統芸能	都内での芸術創造活動	都内	団体	亜佐佳・亜美デュオの会	第3回 池上亜佐佳 山本亜美 デュオリサイタル十七絃箏 二十五絃箏
				結の会	結の会主催「結の会」
			個人	沢井麗	沢井麗 箏リサイタル（仮）
				初代常磐津千寿太夫	常磐津千寿太夫演奏会 vol.2名曲の継承
				あかる潤	大正時代からのメッセージ 弘田龍太郎と北原白秋・島崎藤村の歌（仮）
複合	都内での芸術創造活動	都内	団体	さかさ舟	現代サーカスカンパニーさかさ舟公演「船底に座す（仮）」

※各助成プログラムとも、申請事業者名や申請事業名は申請時のものであり、実際の名称と異なる場合があります。

5

伝統芸能体験活動助成

【事業概要】

伝統芸能のさまざまな種目について、初めての人でも入り易く、かつ継続的に自ら実技体験ができる事業を助成する。

【事業趣旨（目的）】

多くの人が伝統芸能の面白さを体感し、その魅力を深めていく機会を増やすことで、伝統芸能に対する理解を促進し、もって伝統芸能の振興を図ることを目的とする。

令和4（2022）年度実績

申請件数：30件

採択件数：14件

交付決定総額：10,000千円

採択結果の概要

三味線（地歌・長唄）、能楽（謡・囃子）、邦楽囃子、日本舞踊、尺八をはじめ、幅広い種目の申請があった。申請件数は2021年度に比べ減少したが、実技体験を通じて伝統芸能の魅力を知ってもらうための独創的な切り口や取組が目立ち水準の高い申請が増えている。審査にあたっては、事業が終了した後も当助成対象事業以外の継続的な実技体験につなげていく工夫がなされているかどうか、また参加者の募集告知に際し区市町村との広報面での提携等、積極的な取組がなされているかどうかを重視して採択事業を決定した。

[助成事業対象期間：令和4（2022）年7月1日～令和5（2023）年8月31日]

申請事業者名	申請事業名
公益財団法人大田区文化振興協会	おおた和の祭典2022-Part.2 和をつなぐ～和つく和つくな学び舎
白藍乃会	能楽体験プログラム2023
有限会社サウンドボット	「尺八で知っている旋律を吹いてみよう！尺八体験教室」及び「講師中村明一による日本音楽のお話と演奏」（仮）
若獅子会	邦楽囃子お稽古部
和ごと株式会社	楽しく体験・演奏のできる 和ごと小鼓ふれあいコンサート
一般社団法人長唄東音会	ワークショップ特別企画 国立大劇場で合奏してみようプロジェクト（仮）
はじめての能楽お稽古実行委員会	はじめての能楽お稽古
音緒乃会	第3期 和楽器体験 ねのいろランド
株式会社 office IKD	沖縄文化・琉球芸能体験【三線・舞踊】2023
一般社団法人伝統芸能三味線楽舎. j p	三味線サロン（仮）
公益社団法人日本芸能実演家団体協議会	芸能花伝舎クラブ
株式会社 DO	藤原道山主宰 尺八スクール（仮）
一般社団法人一乃会	「羽衣」から始める 能のお稽古（仮）
一般社団法人玉の緒会	3カ月で三味線できるかな？ ＋ 初めてでもわかる長唄ガイド（仮）

※各助成プログラムとも、申請事業者名や申請事業名は申請時のものであり、実際の名称と異なる場合があります。

6

芸術文化魅力創出助成

【事業概要】

芸術文化で躍動する都市を目指して、新たな芸術文化の創造や鑑賞機会を創出することを目的とした助成事業を実施する。

【事業趣旨（目的）】

次のいずれかのテーマに該当する芸術文化事業で、公開を伴うものであり、複数の団体・アーティストが参画する、波及力を有する事業に対し、実施に係る助成対象経費の2分の1以内でかつ20,000千円を上限額として支援する。

- ・地域活性化
- ・インクルージョン&サスティナビリティ
- ・サイエンス&アート
- ・東京の魅力発信となる芸術文化

また別途サポート費として、特定の費目にあたる経費について上限額までの実費支援もあわせて行う。

- ・A：アクセシビリティ・サポート費（上限2,000千円）
- ・B：デジタル開発サポート費（上限3,000千円）

【採択概況】

当該助成は令和4（2022）年度に新設された助成事業である。年間2回公募を行い、申請件数は206件。影響力・波及力、将来性・継承性、革新性・独創性、実現性などの視点に基づき審査した結果、合計68件を採択した。

令和4（2022）年度実績

申請件数：206件
採択件数：68件
交付決定総額：506,000千円
（助成金：468,968千円、サポート費：37,032千円）

【内訳】

①第1期〔対象期間：令和4（2022）年7月16日から令和5（2023）年7月15日まで〕

申請件数：127件
採択件数：41件
交付決定額：333,137千円
（助成金：311,195千円、サポート費：21,942千円）

申請団体名	申請事業名
一般社団法人中野区観光協会	東京中野物語2022文学賞 シンポジウム～文学賞により中野の活性化をはかる～
渋谷ズンチャカ実行委員会	渋谷ズンチャカ！ 2023
ROCKSTAR 株式会社	コンドルズニューダンス計画2023「She's a Rainbow」
八王子よこやま南マーチングフェスティバル実行委員会	第2回 八王子よこやま南マーチングフェスティバル
東京中低域	東京国際バリトンサックス・フェスティバル2023
KATO MUSIC & CREATIVE ENTERTAINMENT 株式会社	竹芝音楽祭2023（TAKESHIBA PORT MUSIC FESTIVAL2023）
東京ミッドタウンマネジメント株式会社	Hibiya Festival 2023
日本児童・青少年演劇団協同組合	東京都夏の児童演劇祭
一般社団法人Token	隅田川船上ツアー・パフォーマンス（仮）
リードホテル&リゾート株式会社	フリージア Flower Mapping 2023
仮想定規	「フリンジスタイルフェスティバル」～仮想定規プレゼンツ～
関音楽事務所	ダイバーシティ アート トラベル
合同会社人間の条件	KABUKI→Next（仮）
一般社団法人Co.山田うん	一般社団法人Co.山田うん
一般社団法人JDDA	SHIBUYA LIVE ENTERTAINMENT SHOWCASE（仮称）
大吉原落語まつり実行委員会	大吉原落語まつり 一江戸から東京へ 江戸文化は吉原から一
一般社団法人TAKUMI-Art du Japon	次世代の匠たちによる工芸品を通した新たな地域魅力の発見
プリズムエンタープライゼス株式会社	Imaginclusion ～Vol.1～

申請団体名	申請事業名
tuvera covera onomatopel	TOKYO天の川
有限会社ブーク人形劇場	新宿ストリートシアター(仮)
公益社団法人日本芸能実演家団体協議会	Live City TOKYO 2022
シアター・コモンズ実行委員会	シアター・コモンズ'23
トロールの森実行委員会	野外xアートxまちなか トロールの森2022
一般社団法人MUTEK Japan	ETERNAL Art Space Edition 2
一般社団法人ニブロール	Dance in ASIA 2023
有限会社パッハ・コレギウム・ジャパン	イースター・パッハ音楽祭
株式会社東京演劇集団風	KAZE 芸術祭 2023
有限会社ボッシュンエッス	FESTIVAL TANDEM 2023
一般社団法人TOKYO INSITUTE of PHOTOGRAPHY	T3 PHOTO FESTIVAL TOKYO
Upload AIR	「実在しない彫刻」オンライン彫刻展覧会
Ten To Sen	Ten To Sen
日比谷音楽祭実行委員会	日比谷音楽祭2023
株式会社J.E.T.	ストリートダンスと音楽のコラボフェスOOTRON
高校生ライブ MUSIC DAYS 実行委員会	高校生ライブ MUSIC DAYS 実行委員会
NPO法人21世紀自然環境循環研究所	夕焼け小焼け音楽祭
一般社団法人帝国華道院	和の文化「いけばな」を知る・楽しむ
若い演奏家のためのプロジェクト	キッズオペラ「ふたりのももたろう」
転覆する体実行委員会	転覆する体：アート、ジェンダーとメディア
中野駅前大盆踊り大会実行委員会	第10回 中野駅前大盆踊り大会
一般社団法人セッションハウス企画室	Boiling Mind vol.3「あなたのココロが見えたなら、わたしはそれと踊りましょう」
株式会社precog	THEATRE for ALL Festival「TRANSLATION for ALL」

②第2期〔対象期間：令和4（2022）年12月10日から令和5（2023）年7月15日まで〕

申請件数：79件

採択件数：27件

交付決定額：172,863千円

（助成金：157,773千円、サポート費：15,090千円）

申請団体名	申請事業名
東京新橋組合	第九十八回 東をどり
ヤミーズレーベル	『江戸那夢』～落語×音楽×現代舞踊が運ぶ夢～
一般社団法人花絵文化協会	TOKYO FLOWERS 2023
こくフェス実行委員会	こくフェス ～Music Days 2023～
ログズ株式会社	EASTEAST_東京
株式会社B.シャンブルウエスト	バレエシャンブルウエスト「ルナ 月の物語かぐや姫」
プレイワーク実行委員会	Let's make PLAY WORK TOWN!
エートキョー株式会社	アートフェア東京「Dialogue」プロジェクト
いけばなインターナショナル東京支部	花を通じての友好 Friendship through flowers
A & A art	ブラームス in 東京
NEORT 株式会社	Proof Of X 2
ファンダメンタルズ プログラム	ファンダメンタルズ フェスmini 2022 / ファンダメンタルズ バザール 2023
RFC 東京多摩実行委員会	ROCKS FORCHILE2023東京多摩
株式会社エヌオーフォー	『ダブルブッキング!』
一般社団法人ダイアログ・ジャパン・ソサエティ	ダイアログ・イン・サイレンス ウインター2022
株式会社ORIZURUエンタテインメント	EN FESTIVAL
NPO法人LAND FES	TOKYO DANCE DIVERSITY AR（仮題）
東京神楽坂組合	第三十八回 神楽坂をどり
一般社団法人東京ユニバーサル・フィルハーモニー管弦楽団	「ユニフィル・ニューイヤー」初夢コンサート 2023
NPO法人東京フィルメックス	メイド・イン・トーキョー ―東京“産”アジア映画 上映会（仮称）―
グレゴワールの庭	Tokyo23立体音響&アートフェスティバル
株式会社YAR	MODE TOKYO 2023
ETA JAPAN株式会社	ETA JAPAN株式会社
一般社団法人東日本音楽祭実行委員会	練馬JAZZ祭
株式会社ビーアット	RETHINK
有限会社遊機械オフィス	～ア・ラ・カルト公認レストラン～ 僕のフレンチ
一般財団法人カルチャー・ヴィジョン・ジャパン	有楽町ウィンドウギャラリー

※申請団体名及び申請事業名は、申請時のものであり、実際の名称と異なる場合があります。

7

ライフウィズアート助成

【事業概要】

芸術文化を日常生活の中に根付かせ、一層都民に身近なものとするとともに、アーティストの支援にもつなげていくことを目的とした助成事業を実施する。

【事業趣旨（目的）】

芸術文化の多様な楽しみ方を提案し、都民が芸術文化に親しむ機会を創出する取組・基盤整備を助成する。本助成を通じ、アート作品を都民の日常生活の中に根付かせて、アーティストの活動領域を広げる基盤整備を進めることで、芸術文化に携わる人材を増やし、好循環を生み出すことを目指す。

- ・対象となる活動：多くの都民が参加し芸術文化を身近に感じる、生活の中に根付くことに繋がる事業
ただし、同時代のアーティストやアート作品等と触れ合う場があること
- ・対象となる分野：視覚芸術（ビジュアルアート）全般 ※異分野との協働も可
- ・助成金交付額：実施に係る助成対象経費の2分の1以内でかつ20,000千円を上限額として支援する

【採択概況】

当該助成は令和3（2021）年度に新設され、令和4（2022）年度は2年目となる。令和4（2022）年6月22日～7月8日に公募を行い、申請件数は10件。企画力、発信力、訴求力、アートへのアクセスのしやすさ、実現性などの視点に基づき審査した結果、合計5件を採択した。

令和4（2022）年度実績（対象期間：令和4（2022）年9月1日から令和5（2023）年8月31日まで）

申請件数：10件

採択件数：5件

交付決定額：40,000千円

申請団体名	申請事業名
エイベックス・クリエイター・エージェンシー株式会社	MEET YOUR ART「TOKYO LIFE WITH ART」企画
ドキュメンタリー・ドリームセンター	上映・トーク・ワークショップ：国際映画祭を解剖する
小田急電鉄株式会社	XR映画祭“Beyond the Frame Festival”
株式会社Hub Tokyo	Artist in Residence at Meguro Neighborhood
スタートバーン株式会社	ムーンアートナイト下北沢

※申請団体名及び申請事業名は、申請時のものであり、実際の名称と異なる場合があります。

8

東京芸術文化創造発信助成【長期助成】
活動報告会

【事業概要】

開催期間 令和4（2022）年12月21日（水）、令和5（2023）年1月24日（火）
会場 アーツカウンシル東京 会議室（12/21）、アーツカウンシル東京 会議室及びZoomウェビナー（1/24）
主催 公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京
参加者数 計138人

【事業趣旨（目的）】

平成25（2013）年度に開始した東京芸術文化創造発信助成【長期助成】の採択団体による、公開型の活動報告会。助成対象事業の成果検証及び団体の今後の展望の共有を図るとともに、長期助成の紹介と広報につなげる。事業を実施した団体自身によるプレゼンテーションにより、記録写真や映像、活動データ等とともに助成対象事業を振り返った後、担当プログラムオフィサーや来場者との質疑応答を行った。

【開催状況】

開催日	会場	プログラム名	登壇者等	内容	参加者数（人）
12/21	アーツカウンシル東京 会議室	第14回 ろうの映画芸術 ろう者主導の団 体が創る新しい共 生社会 【平成30（2018） 年度採択：活動期 間3年間】	報告団体： 東京ろう映画祭実行委 員会 報告者： 牧原依里（映画作家、 東京国際ろう映画祭代 表） 湯山洋子（ろう通訳者、 東京国際ろう映画祭海 外渉外担当）	助成対象活動の全体設計 ・東京国際ろう映画祭とは ・東京国際ろう映画祭を開始するために ・運営の設計 ・宣伝の設計 ・映画祭を開催していない年の活動 助成対象活動から生まれたもの ・東京ろう映画祭実行委員会を取り巻く状況の変化とその成果 ・今後の課題として一さらなるステップアップと【繋げる人】【制作者】 の人材育成 ・今後の展開 質疑応答 【助成対象事業の概要】 ろうの映画作家・牧原依里が代表を務め、ろう映画芸術の発展とろう者・ 聴者それぞれの独自の文化を映画を通して共有する場の創出を目指し、 ろう者の視点からセレクトした映画を上映する映画祭やフォーラムの開 催に加え、ろう者による映画制作のワークショップを実施し人材育成に も取り組んだ。	41
1/24	アーツカウンシル東京 会議室、オンライン	第15回 「舞踏アーカイヴ プロジェクト」 ～新たなダンス アーカイヴの創造 ～ 【平成29（2017） 年度採択：活動期 間3年間】	報告団体： 特定非営利活動法人ダ ンスアーカイヴ構想 報告者： 溝端俊夫（特定非営利 活動法人ダンスアーカ イヴ構想 代表理事） 飯名尚人（特定非営利 活動法人ダンスアーカ イヴ構想 理事、Dance and Media Japan主 宰） 川口隆夫（ダンサー、 パフォーマー） 田辺知美（舞踏家） 岡登志子（アンサン ブル・ゾネ主宰、振付家）	【第1部】 ・団体ダンスアーカイヴ構想のミッション ・本助成事業を実施するに至った背景と企画意図 ・事業内容の紹介 リコンストラクション試演、舞踏リサーチ「舞踏という何か」等 【第2部】 ・舞踏デジタル・アーカイヴの開発までの道のりと成果 ・助成対象事業終了後のアーカイヴを活用した事業展開について ・舞踏/ダンス・アーカイヴの今後の課題・展望 ・質疑応答 【助成対象事業の概要】 時代の中で変化するダンスを記録し、新たな価値を次世代に伝えるため のアーカイヴの創造を目的に、3つの柱を立て事業を実施した。 1.場所を持つアーカイヴから、ヴァーチャルなアーカイヴに発想を転 換した独自のシステム＜舞踏デジタルアーカイヴ＞を開発・公開 2.世界における舞踏の活動状況を俯瞰できるように定量的、定性的な データを収集する＜舞踏リサーチ2017-2019＞を実施し、冊子として まとめ「舞踏という何か」を刊行。最終年には、関連シンポジウムを開 催 3.アーカイヴ資料を活用した作品創作と発表を行う実例を示すことで、 アーカイヴの意義を周知させる＜リコンストラクション試演＞	97 (内訳： 会場来場 者 31、 オンライ ン 66)

【参加者の声】

(第14回)

・助成金でどのようなことをしたのかだけではなく、そもそも東京国際ろう映画祭がどのように始まり、どう発展してきたのか、また主催者の活動のひろがりやろう者の社会的な立ち位置のようなどころまで話していただいて、すばらしい報告会だったと思いました。長期助成だからこそ、このようなことができるのであれば、本当に大事な取り組みだと思いますし、東京国際ろう映画祭を助成対象として選んだアーツカウンシル東京の視点も、間違いはないと思いました。

- ・とても良かった。参加することができて感謝している。映画祭がどんな始まりだったのか、どんなことを考えて作られてきたのか、どんな困難があったのか、など本当に参考になるお話がたくさんあり、また非常に勉強になった。

(第15回)

- ・ 舞踏専門のデジタルアーカイヴがあると知らなかったのも、まずその存在を知れたことが良かったと思います。アーカイヴの活用法はアーティストや制作者、研究者によって様々だと思いますが、今回は、アーティストの視点で資料からどのようなインスピレーションを受け、過去の作品から新しい価値を見出し、リコンストラクションするのかについてのお話を伺えたことは大変興味深かったです。
- ・ 世界における舞踏の活動状況のデータ収集やリコンストラクション試演など、大きなサイクルとして連動している事業だと思った。創生期の舞踏と今現在の活動者の感覚との交感・交流による新たな舞踏の文化的な継続・発展に繋がっている。とても大きな下支えのご実情をご提示いただき、私自身も何か力になれることを考えたいと思いました。
- ・ 溝端さんの今までの丁寧な取り組みに対して、敬意を持ちました。自分の仕事も先人達の熱意と思いの後に成り立つものだと自覚しました。アーカイヴが記録を残すことに止まらず、舞踊自体の思考を育てる場として機能することが大切だと思いました。非常に有意義な会でした。
- ・ アーカイヴ及び助成事業について興味があったので参加したが、大変わかりやすくご説明いただき面白かったです。アーカイヴという仕事がいかに多岐に渡るかを実感し、舞台芸術のアーカイヴは資金的なことや、継続していく難しさなど課題は多く、自分の関わるアーカイブ作業を考える上で参考になりました。
- ・ アーカイヴの制作に関しては、何を、どのように、どこまで等、非常にきめ細やかな検討と具体策の立案が必要であることを感じるとともに、それに力を注いで下さっている方々に感謝の気持ちを持った。All About Zeroやリコンストラクションなど素晴らしい企画だった。

9

「芸術文化による社会支援助成」活動報告会

【事業概要】

開催期間 令和4（2022）年8月25日（木）、令和5（2023）年2月7日（火）
 会場 アーツカウンシル東京 会議室
 主催 公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京
 入場者数 計65人

【事業趣旨（目的）】

平成27（2015）年度より開始した「芸術文化による社会支援助成」の対象活動を終了した団体の活動報告会を実施、公開することで、当プログラムの認知度向上と潜在的な助成対象活動・団体を開拓するとともに、プログラムの制度上の課題等を発見し、今後の制度運用に活用することを目的とする。

【開催状況】

開催日	会場	プログラム名	登壇者等	内容	入場者数（人）
8/25	アーツカウンシル 東京 会議室	第2回「ひとりひとりと向き合う演劇活動の探求～鑑賞サポートからシニア劇団へ」 【採択事業】 平成27（2015）年度「視覚障がい者向け音声ガイド制作者育成講座」 平成28（2016）年度第2期「シニア劇団かんじゅく座第11回公演「ねころ！2017」」 平成29（2017）年度第2期「シニア劇団かんじゅく座第12回公演「みのりの畑」」 令和2（2020）年度第1期「演劇関係者のためのバリアフリー講座「視覚障がい者への観劇サポート」」 令和3（2021）年度第1期「演劇関係者のためのバリアフリー連続講座2021」 令和4（2022）年度第1期「舞台芸術鑑賞サポート講座」	登壇団体： 特定非営利活動法人シニア演劇ネットワーク 登壇者： 鯨エマ（理事長、演劇家） 松田絵麻（副理事長） 渡部俊比古（かんじゅく座劇団員） ファシリテーター：小川智紀 グラフィックファシリテーター：清水淳子	平成27（2015）年度より計6回助成対象となった特定非営利活動法人シニア演劇ネットワークが報告を行った。 【第1部】 ・イントロダクション ・団体による活動報告 演劇を軸に高齢者や障害者など様々な人との出会いや気づきを大切にしながら発展してきた「舞台芸術鑑賞サポート人材の育成事業」と、60歳以上の俳優で構成される「シニア劇団による作品上演」の、2方面の活動について紹介 【第2部】 ・ラウンドテーブル 参加者も交えて意見交換や課題を共有	30
2/7	アーツカウンシル 東京 会議室	第3回「手話能ーインクルーシブな新しい能楽のクリエイション」 【採択事業】 平成28（2016）年度第1期「“手話”で楽しむ能狂言鑑賞会」 平成29（2017）年度第1期「第2回“手話”で楽しむ能狂言鑑賞会」 平成30（2018）年度第1期「第3回“手話”で楽しむ能狂言鑑賞会」 平成31（2019）年度第1期「第4回“手話”で楽しむ能狂言鑑賞会」 令和3（2021）年度第1期「第5回“手話”で楽しむ能狂言鑑賞会」 令和4（2022）年度第1期「第6回“手話”で楽しむ能狂言鑑賞会」	登壇団体： 公益財団法人十四世六平太記念財団 登壇者： 清水言一（喜多能楽堂館長） 大島輝久（能楽シテ方喜多流能楽師） 三宅近成（能楽狂言方泉流能楽師） ファシリテーター：小川智紀 グラフィックファシリテーター：清水淳子	平成28（2016）年度より計6回助成した公益財団法人十四世六平太記念財団が報告を行った。 【第1部】 ・イントロダクション ・団体による活動報告 鑑賞サポートとしての同時手話通訳や体感音響システムの導入から開始した「“手話”で楽しむ能狂言鑑賞会」が、舞台上の手話演技のみで上演する“手話能”を生み出すに至るまでの、回を重ねる中での発見や挑戦について、企画制作と、演者の両方の視点から紹介 【第2部】 ・ラウンドテーブル 参加者も交えて意見交換や課題を共有	35

【参加者の声】

（第2回）

・シニアが生きがいを見いだせる活動を信念をもってされていて素晴らしいと思いました。サポートはいずれ導入していきたい。

- ・登壇の皆さんがなぜこの仕事をされているのか伺えて、腑に落ちることが多く、聞いたことが大変良かったです。
- ・助成金を受け取るまでの経緯を実際に聴いて体感することができた。計画を立てたとしても、問題が立ちはだかることがあり、その度に対処しながら進められていることがわかったことは大きい。
- ・鑑賞サポートを継続的に実施している団体を支援することによる取組の広がりを感じました。支援の仕方として、担当者がついて助言することにより将来を見据えた活動ができることがとてもいいと思いました。

(第3回)

- ・実演も観られて、大変興味深かった。手話と能がそこまで親和性が高いと思っていなかったのも、意外でした。説明されてみれば、なるほど、と思いました。そこに至るまで多くの方がご尽力されてきたことがわかりました。
- ・「手話と能のリズムが合っている」はすくと腑に落ちました。手話初級者でもあり、手話能が普通にみると「難しい」と感じてしまう身からすると、とてもいいマッチングです。やってないことをやってみよう、でどんどん進化したのはすばらしいです。手話に興味広がるだけでなく、能への興味関心もとても広がりました。ヒラキなど勉強になりました。デフリンピックにも広がっていくと期待します。
- ・「手話能楽」新たな芸能として魅力があると感じました。グラフィックレコーディングもわかりやすくいいですね！今後の進化も楽しみです。
- ・社会支援という枠組みの助成を受けた活動ということでしたが、とてもクリエイティブな試みだと感じました。今後、ろう者の能楽師が誕生し、生アテレコの的に声は別の人が担当するということもあるのではないのでしょうか。伝統の保守という観点でいえば、ともすると伝統を崩す行為に思われることもあるかもしれませんが、今も昔も社会の中に存在していたろう者が鑑賞や表現の行為に参入することが、これまで難しかったことこそが問題で、それを可能にするための変化はあってしかるべきなのではないかと考えました。

10

アーティストの創作環境の整備事業
(START Box Roppongi)

【事業概要】

実施期間	令和5（2023）年1月～3月
実施場所	START Box Roppongi（港区六本木5－10－31矢口ビル1階）
利用時間	午前9時～午後10時
利用料金	12日間：9,600円、14日間：11,200円（日額800円）
利用区画	3区画（各14㎡） ※複数区画の利用申請も可
ジャンル	美術、写真、メディア芸術等のビジュアルアーツ（演劇、舞踊等は除く）
利用件数	11件

【事業趣旨（目的）】

民間等の遊休施設を活用し、若手アーティストに対し、低廉な料金で提供することで、アーティストの継続的な創作活動を支援する。

【実施状況】

当該事業は、令和5（2023）年度の東京都との共催事業としての本格実施に向けて、令和4（2022）年度にアートカウンシル東京が試行的に実施した事業である。令和4（2022）年11月24日（木）～12月14日（水）に募集を行い、申請件数は21件。創作場所を必要としている理由などの視点に基づき審査した結果、合計11件を選定した。

【利用期間およびアーティスト（ジャンル、人数）】

期間	区画 1	区画 2	区画 3
1/10～1/21（12日間）	日本画 （1名）	工芸（ガラス） （1名）	立体切り絵 （2名）
1/22～2/4（14日間）		作曲 （1名）	
2/5～2/18（14日間）	布アート （1名）	工芸（靴） （1名）	
2/19～3/4（14日間）	テキスタイル （1名）	写真 （1名）	絵画 （1名）
3/5～3/18（14日間）	ミクストメディア （1名）	VRアート （3名）	

【参加者の声】

- ・ 駅からのアクセスが良い。
- ・ ほかのアーティストの姿を見て刺激になった。
- ・ 安価だったので借りやすかった。
- ・ 作品を常に出しておけるので、作品と真剣に向き合えた。
- ・ 今後も事業を継続してほしい。

11

伝承のたまてばこ ～多摩伝統文化フェスティバル2022～

【事業概要】

開催期間	令和4（2022）年9月17日（土）、18日（日）
主 催	公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京、八王子市、 公益財団法人八王子市学園都市文化ふれあい財団
助成・協力	東京都
協 力	公益財団法人立川市地域文化振興財団
後 援	立川市、三鷹市、昭島市、福生市、狛江市、あきる野市、奥多摩町、八王子市町会自治会連合会、 八王子商工会議所、公益社団法人八王子観光コンベンション協会、八王子市商店会連合会、西放射 線ユーロード
協力自治体	武蔵野市、青梅市、府中市、調布市、町田市、小金井市、日野市、東村山市、国分寺市、国立市、 東大和市、武蔵村山市、稲城市、瑞穂町、日の出町
事業協力	八王子織物工業組合、桑都日本遺産センター 八王子博物館、東京造形大学、日本工学院八王子専 門学校、大東京信用組合
会 場	八王子市芸術文化会館（いちようホール）大ホール、小ホール、第1展示室、ロビー、学園都市セ ンターイベントホール、まち・なかギャラリーホール
料 金	無料（人力車体験のみ1台1,000円）
参加者数	延べ3,784人
動画再生数	約1,000回（2023年3月末日時点）

【事業趣旨（目的）】

八王子市をはじめとする多摩地域が保有する地域の文化資源を活用して、まちなかでの演奏会や屋外ステージを舞台にした本格的な公演など、多彩な伝統文化・芸能の魅力を発信するフェスティバルを開催する。伝統文化に馴染みのない人々が親しめる工夫を凝らしたプログラムを提供するとともに、伝統文化の新たな鑑賞者の獲得や担い手を育成することにより、多摩地域の伝統文化・芸能の次世代への継承を目的に実施する。

【開催状況】

新型コロナウイルス感染症拡大防止策を講じつつ、八王子や多摩地域に伝わる伝統文化・芸能の魅力を気軽に鑑賞・体験できる機会として実施した。また、東京2020大会1周年記念事業として、多摩地域の伝統を八王子から発信した。雨天予報により一部を除くプログラムは全て屋内での実施としたため、公演の動画を一部オンライン上に公開することで、多くの方に鑑賞してもらう機会を提供した。

開催日	会場	プログラム名	出演・出展・指導等	内容	料金	参加者数（人）
9/17	いちようホール 大ホール	オープニングセレモニー	八王子車人形 西川古柳座 ほか	主催・来賓挨拶、開会の舞：八王子車人形「三番叟」	無料	165
9/17	いちようホール 大ホール	地芝居を楽しむ！菅生歌舞伎～菅生一座～	菅生歌舞伎 菅生一座	「白浪五人男」	無料	163
9/17	いちようホール 大ホール	八王子車人形～三番叟～	八王子車人形 西川古柳座	「三番叟」	無料	181
9/17	いちようホール 大ホール	みたか銀座連～三鷹阿波おどり～	みたか銀座連	「阿波おどり」	無料	167
9/18	学園都市センターイベントホール	八王子祭囃子連合会～粋で鯛背な夏の音～	八王子祭囃子連合会	「本町囃子連（目黒流）」、「てんた会囃子連（浜の手流）」	無料	70
9/18	学園都市センターイベントホール	中神の獅子舞	中神熊野神社祭礼獅子舞保存会	「棒つかい」、「剣懸かり」	無料	89
9/18	学園都市センターイベントホール	高松町お囃子保存会	高松町お囃子保存会	「仁羽」、「子守唄」、「屋台囃子」	無料	27
9/18	いちようホール 大ホール	八王子消防記念会による木遣	八王子消防記念会	「木遣」	無料	55
9/18	いちようホール 大ホール	八王子車人形・薩摩派説経節～魂宿る車人形～	八王子車人形 西川古柳座、説経節の会	「東海道中膝栗毛 赤坂並木～卵塔場の段」	無料	250
9/18	いちようホール 大ホール	邦楽演奏～高校生による和楽器の響き～	東京都立狛江高等学校箏曲部	「二つの個性」、「ルパン三世のテーマ」、「容」	無料	110
9/18	いちようホール 大ホール	小河内の鹿島踊り	小河内郷土芸能保存団体協議会	「月は八幡」、「鞆鼓（かつこ）」、「小倉」、「桜川」、「三拍子」	無料	96

開催日	会場	プログラム名	出演・出展・指導等	内容	料金	参加者数（人）
9/17・18	いちょうホール 小ホール	HIKARIのたまてばこ ＜400年の時を経て＞	演出：山田うん 出演：西川古柳（八王子車人形 西川古柳座 五代目家元）、 8 NORTH GATE（ブレイクダ ンス）、 原千恵子（篠笛・能管）、 小林千恵子（箏）※録音	伝承のたまてばこオリジナル演目 （プロジェクトマッピング・車 人形・ブレイクダンスのコラボレ ーション）	無料	364
9/17・18	いちょうホール 大ホール（17 日）、学園都市 センターイベン トホール（18日）	八王子芸妓衆の華と粋 ～艶やかにおもてなし～	八王子芸妓衆	「娘道成寺」より「梅とさんさん桜」、 「もみじの橋」、「からす」、「長崎ぶ らぶら」、「八王子の四季」	無料	323
9/17・18	いちょうホール ロビー（17日）、 いちょうホール 大ホール（18日）	香川舞人形と篠笛・香 川良子	香川良子、香川社中	「夕焼け小焼け」、「八王子踊り」、「歩 み」、「Bamboleo」、「ひとひらの 記憶」、「高尾山音頭」、「To love you more」	無料	233
9/17・18	いちょうホール 第1展示室	江戸時代のアニメー ション「影絵（写し絵）」	東京造形大学大学院 Hachioji 影絵プロジェクト、大野慎矢、 加藤亜依	「君の翼になる～八王子にまつわる お話～」、影絵体験	無料	223
9/17・18	まち・なかギャ ラリーホール	まちなか展示 ～多摩 の伝統～	細淵昌一（ミキノクチ）、あき る野ふるさと工房（軍道紙）、 奥田博伸（染物）	ミキノクチ（竹細工）、軍道紙、オリ ジナルテキスタイル「Flowing」 （染物）の展示	無料	149
9/17・18	いちょうホール ロビー	昔も今も子供の遊び	八王子お手玉の会、レクボラNo 1	お手玉の体験、お手玉作り、八王 子のお手玉歌「おさらい」 独楽・けん玉の体験	無料	117
9/17・18	いちょうホール ロビー	織物体験 ～昔と今と が織りなす世界～	澤井織物工場代表：澤井伸	手織機を使った機織りの体験	無料	47
9/17・18	西放射線ユー ロード、黒堀通 りほか	人力車 ～歴史の面影 を探す街めぐり～	人力屋坂福、岡崎屋惣次郎	人力車に乗車しての街めぐり	1台に つき 1,000	955※1
合計						3,784

※1 まちなかの観覧者含む、体験者数はうち 105 人

【参加者の声】

- ・ 車人形とブレイクダンスのコラボレーション素晴らしかったです。またやってほしいです。
- ・ お囃子は久しぶりに観ることができたので、お祭り気分を味わえて良かった。
- ・ 子供たちにも伝統芸能に触れてもらいたかったので良かった。
- ・ お若い方こそご協力している様子で、八王子の発展が望めると思いました。

12

東京大茶会2022

【事業概要】

開催日	令和4（2022）年10月22日（土）・23日（日）、10月29日（土）・30日（日）
会場	浜離宮恩賜庭園、江戸東京たてもの園
主催	東京都、公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京
共催	公益財団法人東京都公園協会（浜離宮恩賜庭園開催のみ）
後援	中央区（浜離宮恩賜庭園開催のみ） 小金井市、小金井市商工会（江戸東京たてもの園開催のみ）
特別協力	東京都華道茶道連盟、東京都高等学校文化連盟茶道部門（浜離宮恩賜庭園開催のみ） 公益財団法人東京都歴史文化財団 江戸東京たてもの園、東京都茶道会（江戸東京たてもの園開催のみ）
来場者数	約16,650人

【事業趣旨（目的）】

様々な流派による茶道プログラム、日本の伝統文化を楽しめるステージイベントやパフォーマンスを実施する等、誰でも気軽に参加できる大規模な茶会を開催することにより、伝統ある茶文化を広く都民に普及し、また、東京を訪れる観光客に、「お茶の文化」とそれを育んできた「江戸・東京の文化」を紹介する。

【開催状況】

新型コロナウイルス感染症拡大の状況を受け、一部のプログラム内容を変更、参加者数を削減、すべての茶道プログラムを事前申込制にするなどの対策を講じた上で、東京2020大会1周年記念事業として3年ぶりに実施した。茶道プログラムはすべて事前申込制としたが、当日会場に来場された方にも楽しんでいただけるようステージパフォーマンスや短時間で伝統文化を体験するプログラムも実施し、茶道をはじめとした日本の伝統文化の魅力を発信した。

開催日	会場	参加者数（人）		参加料 （円）	イベント ＜参加者数（人）＞	出店	来場者 （人）
10/22,23	浜離宮恩賜庭園	茶席	284	500	ステージパフォーマンス ＜855＞ 伝統文化体験プログラム【華道】＜116＞	—	約7,900
		野点	950				
		高校生野点	294				
		英語で楽しむ野点	306				
10/29,30	江戸東京 たてもの園	茶席	739	500	伝統文化体験プログラム【つまみ細工】＜163＞	小金井市商工会	約8,750
		英語で楽しむ茶席	127				
		野点	256				
		計					

【参加者の声】

- ・様々な流派がお点前をやっていて良い会だと感じた。（20代以下・女性）
- ・子供と参加しやすく楽しかったです。（40代・男性）
- ・気軽に伝統的な日本文化に触れる良い機会だと思います。コロナ禍での対策を行いながらの開催に感謝いたします。（50代・女性）
- ・気軽に茶道に接することができ楽しかった。（50代・男性）

13

神楽坂まち舞台・大江戸めぐり2022

【事業概要】

開催期間	令和4（2022）年5月21日（土）、22日（日）
会場	神楽坂エリア（毘沙門天善國寺／赤城神社／矢来能楽堂／志満金／THEGLEEほか）
主催	公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京、特定非営利活動法人粋なまちづくり倶楽部
助成・協力	東京都
共催	新宿区
後援	一般社団法人新宿観光振興協会
協力	東京神楽坂組合、毘沙門天善國寺、赤城神社、観世九阜会・矢来能楽堂、宮城道雄記念館、漱石山房記念館、株式会社粋まち、神楽坂通り商店会、神楽坂商店街振興組合、セッションハウス、志満金、THEGLEE、SEION 神楽坂店、光照寺、圓福寺、東京都消費生活総合センター、あずさ監査法人、東京理科大学、第一勧業信用組合 神楽坂支店、熊谷組、ロングランプランニング、オフィスヤマグチ、マインド
参加費	無料
参加者数	約7,000人

【事業趣旨（目的）】

神楽坂エリア一帯を地域の文化資源として活用し、伝統芸能に馴染みのない初心者や若年層、外国人（観光客、在住者）にも気軽に参加できる構成と内容で、日本の伝統芸能や文化に親しむ端緒となることを目的とする伝統芸能のフェスティバルを実施する。

【開催状況】

3年ぶりの有観客開催となり、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、各会場を事前申し込み制（一部を除く）で実施した。

開催日	プログラム名	会場	出演者	参加者数（人）
5/21	おとだまライブ	THEGLEE	チリカラ伍（邦楽囃子）、本條満留ひで＋本條秀英二（端唄）、あんみ通（津軽三味線）	78
	講釈場・毘沙門亭	毘沙門天善國寺 書院	神田織音（講談）、一龍齋貞鏡（講談）、宝井梅湯（講談）、玉川奈々福＋沢村まみ（浪曲）	112
	毘沙門天・夜会	毘沙門天善國寺 境内	マクイーン時田 深山（箏）×マドモアゼル・シネマ（コンテンポラリーダンス）、異文化弦楽団（胡弓×二胡×ガドゥルカ×チェロ×パーカッション）、鶴賀伊勢吉ほか（新内節）、シリル コビーニ（司会）	131
	ことほぎライブ	赤城神社 神楽殿、境内	芳村伊十治郎連中（長唄）×若獅子会（邦楽囃子）【雨天により中止】、常磐津和英太夫連中（常磐津節）×若獅子会（邦楽囃子）、セ三味ストリート（津軽三味線パフォーマンズ）、鳥羽屋里夕（司会）	205
	芸能ことはじめ	赤城神社 参集殿	渋谷画劇団（紙芝居）、上條充（江戸糸あやつり人形）、あんみ通（津軽三味線）	197
	弾いてみよう！日本の楽器	赤城神社 参集殿	—	80
	芸能道しるべ	矢来能楽堂	比べて納得！浄瑠璃の世界：竹本京之助＋鶴澤賀寿（義太夫節）、鶴賀伊勢吉＋鶴賀伊勢一郎ほか（新内節） 比べて納得！琵琶の世界：中村かほる（楽琵琶）、田中奈央一（平家琵琶）、久保田晶子（薩摩琵琶）、藤高理恵子（筑前琵琶）、シリル コビーニ（司会）	112

開催日	プログラム名	会場	出演者	参加者数（人）
5/22	おとだまライブ	THEGLEE	桧山うめ吉（俗曲）、岡村慎太郎＋岡村愛（箏曲）、秋吉沙羅（篠笛・神楽笛）×杉浦秀明（ピアノ）×大多和正樹（和太鼓）	84
	お座敷ライブ	志満金	神楽坂芸者衆、シリル コビーニ（司会）	81
	講釈場・毘沙門亭	毘沙門天善國寺 書院	一龍斎貞橘（講談）、宝井琴鶴（講談）、田辺銀冶（講談）、東家一太郎＋東家美（浪曲）	105
	神遊びライブ	赤城神社 境内	NADESHIKO J ENSEMBLE（尺八＋箏＋十七弦）、Naoyuki MANABE GAGAKU Ensemble（笙＋箏＋笛）、小山豊（津軽三味線）×佐藤芳明（アコーディオン）	230
	芸能ことはじめ	赤城神社 参集殿	渋谷画劇団（紙芝居）、上條充（江戸糸あやつり人形）、秋吉沙羅（篠笛・神楽笛）	420
	芸能道しるべ	矢来能楽堂	比べて納得！日本の舞い踊り：伶楽舎（雅楽・舞楽） 比べて納得！日本の舞い踊り：市山松扇ほか（日本舞踊）×清元梅寿太夫＋清元紫葉ほか（清元節） 比べて納得！日本の舞い踊り：観世九阜会（能）	197
	夕暮れライブ	赤城神社 神楽殿	丸一仙翁社中（江戸太神楽）、鶴賀伊勢吉ほか（新内節）、藤山大樹（手妻）、鳥羽屋里夕連中（長唄三味線）×望月晴美連中（邦楽囃子）、シリル コビーニ（司会）	121
	神楽坂タイムスリップ スタンプラリー、歴史ガイド	毘沙門天善國寺ほか	歴史ガイド：音声ガイド 古今亭菊之丞（落語家）、神田織音（講談師）	3,500
	弾いてみよう！日本の楽器	赤城神社 参集殿	—	100
5/21～	映像プログラム		アンバサダー ロバート キャンベル（日本文学研究者／早稲田大学特命教授）、観世喜正（観世流シテ方音楽師）、岡村慎太郎（生田流箏曲演奏家）、吉住健一（新宿区長）	1,200

（2022年5月末時点）

【参加者の声】

- ・ 浪曲と講談の寄席がとても楽しかった。出演者の顔ぶれも素晴らしく、満足度たっぷりの充実した寄席であった。
- ・ 大変素晴らしいイベントをありがとうございました。日本の伝統芸能に興味をもつことができ、「手妻」を初めて知ったりと大変良い機会だった。
- ・ 江戸糸あやつり人形と津軽三味線が素晴らしかった。

14

六本木アートナイト2022

【事業概要】

開催日	令和4（2022）年9月17日（土）～19日（月・祝） ※9月3日（土）～一部作品は先行展示、オンライン配信。
開催場所	六本木ヒルズ、森美術館、東京ミッドタウン、サントリー美術館、21_21 DESIGN SIGHT、国立新美術館、六本木商店街、その他六本木地区の協力施設や公共スペース デジタル（公式YouTubeチャンネル「RAN TV」）
主催	東京都、公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京、港区、六本木アートナイト実行委員会【国立新美術館、サントリー美術館、東京ミッドタウン、21_21 DESIGN SIGHT、森美術館、森ビル、六本木商店街振興組合（五十音順）】
助成	令和4年度 文化庁 国際文化芸術発信拠点形成事業
特別助成	台湾文化部
特別協力	藤子プロ
後援	観光庁、経済産業省、内閣府知的財産戦略推進事務局、台北駐日経済文化代表処台湾文化センター、今井町親睦会、東京ミッドタウン町会、西麻布霞町町会、日ヶ窪親和会、龍土町会、六本木材木町町会、六本木町会、六本木ヒルズ自治会、六本木「Art&Designの街」推進会議、テレビ朝日
エリア協賛	サントリーウイスキー響
協賛	飯田電機工業株式会社、株式会社クオラス、株式会社東京タカラ商会、株式会社コングレ、TSP 太陽株式会社、ピーディーシー株式会社、アクトホールディングス株式会社、株式会社アルタイル、株式会社オリコム、株式会社共立、株式会社ジールアソシエイツ、笑遊堂、シンテイ警備株式会社、大成株式会社、株式会社つむら工芸、株式会社テンナイン・コミュニケーション、株式会社トランジットジェネラルオフィス、中村展設株式会社、富士急グループ 株式会社フジエクスプレス、株式会社ブランコ
運営協力	六本木安全安心パトロール隊、六本木をきれいにする会、六本木クリーンアップ
協力	株式会社シネ・フォーカス、株式会社セイビ堂
協力ホテル	グランドハイアット東京、ザ・リッツ・カールトン東京
入場料	無料（但し、一部のプログラムおよび美術館企画展は有料）
鑑賞者数	全作品の延べ鑑賞者総数 約68万人

【事業趣旨（目的）】

様々な文化施設や商業施設が集積する六本木のまちを舞台に、多様な作品を点在させ、アートとまちの一体化を通して大都市東京におけるまちづくりの先駆的なモデルを創出することを目的とする「アートの饗宴」。

【開催状況】

新型コロナウイルス感染症拡大を考慮し、来場者の集中と密を回避するため、深夜の時間帯での開催は行わず、メインイベントの日程を従来の2日間から3日間に期間を延ばして実施した。

【広域プログラム】

会場	プログラム名		アーティスト名
六本木ヒルズアリーナ、東京ミッドタウン、国立新美術館、ラビロス六本木	メインプログラム	「ドラえもん」	村上隆 青島千穂、大谷工作室、ob、Kasing Lung、くらやえみ、タカノ綾、T9G、TENGAone、ナカザワショーコ、細川雄太、MADSAKI、Mr.、村田森
六本木ヒルズアリーナ	アーティスト・トークイベント「村上隆と仲間たち」		
	キックオフセレモニー		
	オープンコール・プロジェクト「CANDY POP」		野口量×伊豆牧子
	街なかパフォーマンズ	オープンコール・プロジェクト「Session.」	SAYAKA ASAI × Lily
	オープンコール・プロジェクト「デウォ・ルチ」		マクータ

会場	プログラム名		アーティスト名
六本木ヒルズ ノースタワー前	街なかインスタレーション	「INAHO」	TANGENT
六本木ヒルズ メトロハット		「Wave」	デージーバルーン
六本木ヒルズ 66プラザ		「KALEIDOSCAPE」	井口雄介
六本木ヒルズ ウェストウォークほか、ラピロス六本木、イグノボール		「つかの間」	ノラ・デザインコレクティブ
六本木ヒルズ ウェストウォーク、ジオットハウス		「窓」	マイケル・リン
六本木ヒルズ ウェストウォーク		「HIWADROME TYPE ε」	檜皮一彦
六本木ヒルズ、東京ミッドタウン・ガーデン		「HERE FOR A TIME THERE FOR A TIME & SOMEWHERE FOR A TIME」	ローレンス・ウィナー
東京ミッドタウンプラザ		「演繹的なもの」	キムスージャ
東京ミッドタウンガレリア		「人工知能による顔の識別」	古屋崇久
六本木交差点		「Polychromatic Skin -Gender Tower-」、 「Polychromatic Skin -Flower-」	増田セバスチャン
ロアビル仮囲い		「Polychromatic Skin -Gender Wall-」	
第1レースビル		「WHITE CUBE - WHITE CUBE - ROPPONGI 2022」	原田郁
六本木交差点橋脚		「untitled」	今井俊介
イグノボール		「バズの囁き」	GengoRaw（石橋友也＋新倉健人）、 吉田竜二、二口航平、吉田智哉
矢口ビル		「人間自動販売機」	リヴァ・クリストフ
		「無限車輪」	東弘一郎
六本木西公園	アートにエールを！広場	田中紳次郎、伊東明日香、NOVOL、 Maki Emura、MILTZ、福士悦子、伊藤由華、スサイタカコ	
三河台公園	街なかミーティング	「地面をつかまえる -六本木の地図づくり-」	岩田とも子／協働制作 港区立六本木 中学校美術部
		「花の茶室 一つながる水脈」	水川千春
六本木アートナイト会場各所		「walking practice : Roppongi Art Night 2022」	walking practice PROJECT
六本木ヒルズ ヒルズカフェ/スペース	「NO BORDERS ― 画家松井守男とアートな仲間たち ―」		NPO法人 虹色の風
	「Amor 邦楽 in 六本木」		KEY TRAD.
	六本木アートナイトヒストリー展		

【各館プログラム・同時開催プログラム】

会場	プログラム名		アーティスト名
六本木ヒルズ ウェストウォーク	六本木ヒルズプログラム	「Tokyo's Landscape」	three
六本木ヒルズ けやき坂コンプレックス		六本木ヒルズ&森美術館 まちと美術館のプログラム「つむぐプロジェクト 2020年~2021年活動紹介」	—
東京シティビュー		「誕生50周年記念 ベルサイユのばら展—ベルばらは永遠に—」	—
森アーツギャラリー		「特別展アリス— へんてこりん、へんてこりんな世界 —」	—
六本木ヒルズA/Dギャラリー		「田島大介画集刊行記念展 BEYOND THE LINES 超越界限」	—
森美術館	森美術館プログラム	「地球がまわる音を聴く：パンデミック以降のウェルビーイング」	—
		MAMコレクション015「仙境へようこそ—やなぎみわ、小谷元彦、ユ・スンホ、名和晃平」、MAMスクリーン016「ツァオ・フェイ（曹斐）」、MAMリサーチ009「正義をもとめて—アジア系アメリカ人の芸術運動」	—
東京ミッドタウンプラザ	東京ミッドタウンプログラム	「ROCK'N」	magma
東京ミッドタウンガレリア		「あかるい場所」	牧野永美子
		「The Big Flat Now」	松田将英
東京ミッドタウンプラザほか		「Floating Surface」	坂本洋一
		「インテリア」	小野冬黄
東京ミッドタウン・ガーデン	「犬も歩けば棒に当たる」	山本千愛	
サントリー美術館	サントリー美術館プログラム	「新聞紙とガムテープで包まれた凱旋門とエッフェル塔」	関口光太郎と六本木の人々
		「美をつくしー大阪市立美術館コレクション」	—
		「飛天—Celestial maiden」	山中遼晶
21_21DESIGN SIGHT	21_21DESIGN SIGHTプログラム	「六本木アートクルーズ」記録映像上映	—
		「クリストとジャンヌ＝クロード “包まれた凱旋門”」	—
		コミュニケーションツアー	—

国立新美術館	国立新美術館プログラム	「ルートヴィヒ美術館展 20世紀美術の軌跡—市民が創った珠玉のコレクション」	—
		「国立新美術館開館15周年記念 李禹煥」	—
		「untitled」	今井俊介
		「空白のプロジェクト #4 想像上の修辞法」	三原聡一郎
六本木交差点街路灯	六本木商店街プログラム	「NACT View 01 Museum Static Lights」	玉山拓郎
国立新美術館	同時開催プログラム	六本木街路灯展覧会	—
東京ミッドタウン ISETAN SALONE		「公募展 第106回 二科展」	—
六本木ヒルズ 大屋根プラザ		クロストーク：今井俊介×沢山遼	—
	協賛プログラム	現代アート「アート&キャラクター」	—
		「HIBIKI THE HARMONY」	—

【六本木アートナイトデジタル】

プログラム名	アーティスト名
南條史生氏による六本木アートナイトの振り返りトーク	—
「Choreography of encounters」	C for S (Moeko Ishiguro, Masumi Inoue)
「Blurred Boundaries」	地代所悠
「sure」	長谷川依与、渡川いくみ
「Paper Thin」	原啓太
「東京曼荼羅」	坂根大悟
「しなやかに生きる～曲がる人々～」	コンソーシウムグループ・ノガラ
「コメカミマスター『東京ミッドタウン』」	コメカミワークス

【その他の展開プログラム】

- ・ インクルーシブ・アート・プログラム
- ・ 外国語ガイドツアー「Wander & Wonder Tour」
- ・ 大学連携プログラム 六本木アートナイト2022×慶應義塾大学アート・センター「都市のカルチュラル・ナラティブ」プロジェクト
- ・ 参加ギャラリー26施設、参加店舗43店舗

【参加者の声】

- ・ 毎年楽しみにしているイベントでしたので、また再開できたことに感激でした。
- ・ 雨の中で一人での参加だったので、少しだけ見て帰るつもりでしたが、どんどん作品が見たくなり、色々見て回ることができました。密にならない工夫がされていて、安心して見ることができました。
- ・ 普段は歩かない場所を巡ったり、作品に待機して下さっているスタッフさんに道を聞いたり、お話を伺ったりして、過去のアートナイトの話で盛り上がり、とても嬉しかったです。

15

東京芸術祭2022

【事業概要】

開催期間	令和4（2022）年9月1日（木）～12月11日（日）
開催場所	東京芸術劇場、GLOBAL RING THEATRE（池袋西口公園野外劇場）、豊島区立芸術文化劇場（東京建物 Brillia HALL）、ほか豊島区池袋エリア
主 催	東京芸術祭実行委員会〔豊島区、公益財団法人としま未来文化財団、公益財団法人東京都歴史文化財団（東京芸術劇場・アーツカウンシル東京）、東京都〕

【参加事業】

東京芸術祭直轄事業（直轄プログラム、FTレーベル）、としま国際アート・カルチャー都市発信プログラム、東京芸術劇場（芸劇オータムセクション）、東京芸術祭ファーム

入場・参加者数：47,184人 オンライン視聴回数：11,807リーチ

東京芸術祭直轄事業-直轄プログラム	入場・参加者数11,850人 視聴回数8,375リーチ
-FTレーベル	入場・参加者数5,106人 視聴回数1,628リーチ
としま国際アート・カルチャー都市発信プログラム	入場・参加者数20,174人
芸劇オータムセクション	入場・参加者数9,448人
東京芸術祭ファーム	入場・参加者数606人 視聴回数1,804リーチ

【事業趣旨（目的）】

芸術文化による都市の魅力の向上や機能強化を図る芸術文化拠点形成支援事業として、豊島区池袋を中心に開催。多岐に渡るジャンルのアーティスト、クリエイター、芸術団体が参画し、幅広い層の観客のニーズに応えるべく、〈東京芸術祭直轄事業〉のほか、〈としま国際アート・カルチャー都市発信プログラム〉、〈芸劇オータムセクション〉、〈東京芸術祭ファーム〉を実施した。ディレクターと、5人のプログラムディレクターが協働している。

【開催状況】

東京芸術祭直轄事業一直轄プログラム

開催日	プログラム名	会場	アーティスト名	入場・参加者数(人)	視聴回数
9/23	東京芸術祭2022グランドオープニング	GLOBAL RING THEATRE（池袋西口公園野外劇場）	「開幕式典」 小池百合子、近藤誠一、北尾亘、片桐はいり、佐々木蔵之介 ほか 「シン・マイムマイム」 振付：スズキ拓朗 出演：清水ゆり、香取直登、小林らら、きたろー、ジョディ、黒須育海、稲村はる、ジントク、宮内愛、安田有吾、山口夏絵、スズキ拓朗	412 250	— 3,623
10/11～23	「東京芸術祭ひろば」	東京芸術劇場 アトリ エイスト	空間デザイン：Hand Saw Press Hand Saw Pressプログラム特別協力：理想科学工業株式会社 グラフィックデザイン：三上悠里	1,451	—
10/14～16	SPAC-静岡県舞台芸術センター「夢と錯乱」	東京芸術劇場 シアターエーセント	演出：宮城聡 作：ゲオルク・トラークル 訳：中村朝子 出演：美加理	491	—
10/17～26	野外劇「嵐が丘」	GLOBAL RING THEATRE（池袋西口公園野外劇場）	作：エミリー・ブロンテ 演出：小野寺修二 訳：小野寺健（「嵐が丘 上・下」/光文社古典新訳文庫） 出演：王下貴司、久保佳絵、斉藤悠、崎山莉奈、菅波琴音、竹内蓮、丹野武蔵、鄭亜美、辻田暁、富岡晃一郎、中村早香、西山斗真、壺睦美、宮下今日子、片桐はいり	9,036	—
10/18、11/4～12/11	【シリーズ・持続可能な舞台芸術の環境をつくる】東京芸術祭2022シンポジウム「なぜ他者と空間を共有するのか？～メディア、医療、パフォーマンスの現場から～」	東京芸術祭ひろば（東京芸術劇場 アトリ エイスト） オンライン配信	登壇者：坂本史衣、ドミニク・チェン、MIKIKO モデレーター：横山義志、多田淳之介	21	2,481
10/21	令和4（2022）年度 国際交流基金賞 受賞記念イベント「ロベール・ルバージュ氏 受賞記念講演会」	東京芸術劇場 シンフォニースペース	登壇者：ロベール・ルバージュ	43	—
10/24～12/11	【シリーズ・持続可能な舞台芸術の環境をつくる】東京芸術祭2022シンポジウム「芸能者はこれからも旅をするのか？～コロナ後の国際舞台芸術祭における環境と南北問題～」	オンライン配信	登壇者：アウサ・リカルスドット、マーティン・デネワル、ナタリー・ヘネディグ モデレーター：横山義志、長島確	—	2,271
10/28～30	アトカル・マジカル学園「アートサポート児童館」	東京芸術劇場 アトリエイスト	プロデュース：多田淳之介	51	—

開催日	プログラム名	会場	アーティスト名	入場・参加者数(人)	視聴回数
11/12、13、19、20、23	アトカル・マジカル学園「かぞくアートクラブ」	東京芸術劇場 アトリエウエスト	ディレクション：YORIKO 講師：三島景太、小野寺修二、前澤香苗、BLANCO、YORIKO	95	—

東京芸術祭直轄事業—FT レーベル

開催日	プログラム名	会場	アーティスト名等	入場・参加者数(人)	視聴回数
10/8	集合写真型パフォーマンス「セレモニー」	豊島区大塚駅周辺	プロジェクトメンバー：小森あや、佐々木文美、サリー★、大道寺梨乃、もてスリム、山口あまね	739	104
10/19～25	映像演劇『階層』	東京芸術劇場 シアターイースト	作・演出：岡田利規 映像：山田晋平 キャスト：オーディションで選考された市民、米川幸リオン	503	—
10/22～11/13	「くらしチャレンジ（大人と子どものための戯曲集）」	豊島区内各所	プロジェクトメンバー：阿部健一、有吉宣人、小野晃太郎、齋藤優衣	2,897	307
10/28～30	「An Imperial Sake Cup and I—恩賜の盃と私」	東京芸術劇場 シアターイースト	構成・出演：チャーンウィット・カセートシリ 演出：ティエラワット・ムンウィライ（カゲ）、ノンタワット・ナムベンジャボン	332	—
10/29、30	akakillike「捌く—Sabaku」	東京芸術劇場 シアターウエスト	演出・構成：倉田翠 出演：今村達紀、石原菜々子、大石英史、黒田健太、竹ち代穂也、田辺泰信、平澤直幸、前田耕平、諸江翔大朗、山本和馬、よしたく、寺田みさこ 特別出演：狭間要一	635	—
11/12～12/11	オンラインディスカッション「映像のパフォーマンス2」	オンライン配信	スピーカー：飯岡幸子、飯名尚人、木下千花 司会：長島確、河合千佳	—	256
11/12～12/11	オンラインディスカッション「公共空間でつくる意味2」	オンライン配信	スピーカー：アオキ裕キ、ウォーリー木下、佐々木文美 司会：長島確、河合千佳	—	491
11/12～12/11	映像特集「ひととつくるプロセス」	オンライン配信	配信作品：《ピーターブルックの世界—受けたいお稽古》《ダンシングホームレス》《へんしんっ！》《ピナ・バウシュ 夢の教室》 配信コーディネーター：arts knot、奥山三代都	—	470

としま国際アート・カルチャー都市発信プログラム

開催日	プログラム名	会場	アーティスト名等	入場・参加者数(人)	視聴回数
9/1～30	第34回 池袋演劇祭	豊島区内14会場	参加：39団体	18,140	—
10/28、31	ドキュメンタリー映画「《音、鳴りやまぬ。》上映会」	池袋シネマ・ロサ	監督：長岡参	60	—
10/30	民俗芸能 in としま2022	GLOBAL RING THEATRE（池袋西口公園野外劇場）	演目：長崎獅子舞、富士元囃子・寿獅子、秩父屋台囃子、菅生歌舞伎、鬼剣舞、南部神楽、津軽三味線アンサンブル、進化系お囃子プロジェクト ほか	1,130	—
11/14	第35回としま能の会	豊島区立芸術文化劇場（東京建物 Brillia HALL）	出演：観世喜正、野村万蔵、野村萬 ほか	844	—

芸劇オータムセレクション

開催日	プログラム名	会場	アーティスト名等	入場・参加者数(人)	視聴回数
10/5～9	『ワールド・ベスト・プレイ・ビューイング』	東京芸術劇場 シアターイースト	上演演目：太陽劇団《モリエール》《最後のキャラバンサライ（オデュッセイア）》、インターナショナル・シアター・アムステルダム《ローマ悲劇》	642	—
10/8～11	『スカーレット・プリンセス』	東京芸術劇場 プレイハウス	上演台本・演出：シルヴィウ・ブルカレーテ 原作：鶴屋南北「桜姫東文章」 音楽：ヴァシル・シリ 美術：ドラゴッシュ・プハジャール 出演：オフェリア・ボビ、ユスティニアン・トゥルク ルーマニア国立ラドウ・スタンカ劇場カンパニー	1,634	—
11/4～6	『となり街の知らない踊り子』	東京芸術劇場 シアターイースト	作・演出・振付：山本卓卓 振付・出演：北尾巨	622	—
11/23～12/11	『守銭奴 ザ・マネー・クレイジー』	東京芸術劇場 プレイハウス	作：モリエール 翻訳：秋山伸子 演出：シルヴィウ・ブルカレーテ 出演：佐々木蔵之介、加治将樹、竹内将人、大西礼芳、天野はな、茂手木桜子、菊池銀河、安東信助、長谷川朝晴、阿南健治、手塚とおる、壤晴彦	6,550	—

東京芸術祭ファーム
ラボ

開催日	プログラム名	会場	アーティスト名	入場・参加者数(人)	視聴回数
8/17	東京芸術祭ファーム ラボ 公開 レクチャー「無国籍一わたしの居 場所はどこ？」	オンライン配信	講師：陳天璽	—	120
10/7～9	Farm-Lab Exhibition パフォー マンス試作発表『「クア」で「ア ジア人」であることとは？』	東京芸術劇場 アトリエウエスト、ロ アー広場	ディレクター：セリーナ・マグリユー パフォーマー：葵、ノマド、吉澤慎吾	83	23
10/7～9	Farm-Lab Exhibition パフォー マンス試作発表『Education (in your language) 』	東京芸術劇場 アトリエウエスト	ディレクター：y/n（橋本清+山崎健太） パフォーマー：ディア・ハキム・K、クリスティ・ ライ、シグロ、橋本清	93	23
10/16	Asian Performing Arts Camp 公開セッション	オンライン配信	登壇者：Asian Performing Arts Camp参加者 モデレーター（Asian Performing Arts Camp ファシリテーター）：山口恵子、ジェームズ・ハーヴェ イ・エストラダ ゲストフィードバック：中村茜、リュウ・シャオ イ	—	390
10/31～ 11/5	ディレクターズフォーラム	オンライン配信 東京芸術劇場 シンフォニースペース ほか	イントロダクション登壇者：宮城聡、多田淳之介、 長島確 ファシリテーター：多田淳之介、長島確 ゲスト：小川希、マーティン・デネワル、リバー・ リン、川崎陽子、塚原悠也、ジュリエット・ナッブ	10	634
7/13～ 10/14	制作アシスタント	オンライン、水天宮 ビット、東京芸術劇場 アトリエウエスト・ア トリエウエスト、ロ アー広場 ほか	—	2	115
7/25～ 10/21	アートトランスレーターアシスタ ント	オンライン、水天宮 ビット、東京芸術劇場 アトリエウエスト・ア トリエウエスト、ロ アー広場 ほか	—	3	207
7/27～ 11/28	ファーム編集室 アシスタントライター	オンライン、水天宮 ビット、東京芸術劇場 アトリエウエスト・ア トリエウエスト、ロ アー広場 ほか	—	4	154
7/28～ 10/25	クリエイティブインターン	オンライン、水天宮 ビット、東京芸術劇場 アトリエウエスト・ア トリエウエスト、ロ アー広場 ほか	—	3	115
9/1～ 10/28	ファーム ラボ ビジター	オンライン、東京芸術 劇場アトリエウエスト ・アトリエウエスト	—	17	23

スクール（教育・学習）

開催日	プログラム名	会場	参加団体、アーティスト名	入場・参加者数(人)	視聴回数
10/8 ～ 12/11	スクールチケット	東京芸術劇場 プレイ ハウス・シアターイ ースト・シアターウエ スト、オンライン	参加者所属大学：桜美林大学、玉川大学、多摩美術 大学、東京経済大学、桐朋学園芸術短期大学、日本 大学、明治大学、早稲田大学	243	—
10/15、 16、21、 23	学生トークサロン	東京芸術祭ひろば（東 京芸術劇場 アトリエ ウエスト）	プレゼンター：葛兆正、謝璐宇、張上藝 ゲスト：宮城聡、小野寺修二、吉田直美 ファシリテーター：藤原顕太	121	—
10/22	野外劇『嵐が丘』 学生座談会	東京芸術劇場 シン フォニースペース	ファシリテーター：高橋宏幸 ゲスト：小野寺修二	27	—

【参加者の声】

- ・ 野外の円形劇場という空間を生かした演出が素晴らしく、コンテンポラリーダンスの動きと、アフレコというかたちをとった台詞が集中を誘い、没入感を増幅させ、70分という短い時間とは思えない充実感がありました。演劇という枠の中で、池袋西口公園に嵐が丘が浮き出てくるようでした。〈野外劇『嵐が丘』〉
- ・ 2020年の中止を乗り越え、ついに！ 想像よりも遥かに素晴らしく、「ああ、私が見たかった演劇は、ブルカレーテはこれだ！」と心が打ち震えました。海外の演出家が古典の歌舞伎演目をこのようなかたちで現代演劇に蘇らせたのは、とても偉大なことだと思います。〈『スカーレット・プリンス』〉
- ・ 一つのことだけではなく地域のいろいろな情報もあり、新しい発見があって楽しかったです。毎日更新されるようなのでいつ来ても楽しい場所だと思いました。久しぶりにアートを感じることができて嬉しかったです。〈「東京芸術祭ひろば」〉
- ・ 役者の方の気持ちなどを聞ける場所を用意していただいて、とても嬉しく思います。多くの人の話を聞けるのも東

京芸術祭の一部だと感じました。来年も楽しみです。〈ファーム ラボ ビジター〉

- ・ これまでに受けたことのない授業でとても楽しかったです。子供たちの発想の豊かさに驚かされ、こういった目に見えない力を伸ばしてやりたいと感じました。誠にありがとうございました。〈アトカル・マジカル学園「かぞくアートクラブ」〉

16

東京キャラバン the 2nd

【事業概要】

開催期間	令和4（2022）年11月～12月
主 催	東京都、公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京、 一般社団法人 緊急事態舞台芸術ネットワーク（東京のみ）
後 援	静岡県、静岡市（静岡のみ）、豊島区（東京のみ）
協 賛	キャンメイク、CEZANNE、ROSYROSA
連 携	公益財団法人東京都歴史文化財団 東京芸術劇場（東京のみ）
演 出	野田秀樹（劇作家・演出家・役者）
観覧者数	約3,930人

※ [東京開催]「日本の演劇」未来プロジェクト2022

文化庁統括団体によるアートキャラバン事業（コロナ禍からの文化芸術活動の再興支援事業）

【事業趣旨（目的）】

平成27（2015）年から令和3（2021）年まで展開した「東京キャラバン」事業のノウハウを生かし、各地の自治体や芸術文化団体と連携・協力しながら、各地域との交流により新たな繋がりや表現を生み出し、芸術文化による共存・共栄社会の実現を目指す。

【開催状況】

「これまで出会うことのなかった表現者たちが言語や国境、表現ジャンルを飛び越えて、混じり合うところに、文化が生まれる」。野田秀樹（劇作家・演出家・役者）が提唱した本コンセプトのもと平成27（2015）年から令和3（2021）年まで展開した「東京キャラバン」を受け継ぎ、さらに発展させた新規事業として、「東京キャラバン the 2nd」を静岡県および東京都内の2か所で展開した。

演出・野田秀樹の下、女優、ミュージシャン、ダブルダッチチーム、人形劇師、アーティスト、伝統芸能の担い手等、多彩な表現者たちが参加。11月には静岡県に集結し、リサーチを通じて地元の文化を体験するとともに、それぞれのジャンルを越えて交わり、新たな表現に挑戦しながら共に作り上げたパフォーマンスを披露した。

静岡でのパフォーマンスが多くの反響を呼んだことから、東京では3回のパフォーマンス（本番）に加え、急遽、プレビュー2回の一般公開を決定。合計5回のパフォーマンスを開催した。

自然や街並みと現代アート、パフォーマンスが融合した神秘的で幻想的なステージに、会場は始終熱気にあふれ、来場者と参加アーティストが一体となって作り上げた奇跡の文化サーカスとなった。

開催日時	①静岡 ゲネプロ：11/26 17:00 パフォーマンス（本番）：11/27 13:00・16:30 ②東京 公開プレビュー：12/15 18:30、12/16 13:00 パフォーマンス（本番）：12/16 16:30、12/17 13:00・16:30
会場	①静岡：駿府城公園紅葉山庭園前広場 ②東京：池袋西口公園野外劇場グローバルリングシアター
観覧料	無料
参加アーティスト	前田敦子（女優）、浅草ジンタ（ミュージシャン）、REG☆STYLE（ダブルダッチチーム）、沢則行（人形劇師）、宇治野宗輝（アーティスト）、花柳貴伊那（日本舞踊家）、“東京キャラバン”アンサンブル（石川詩織、上村聡、川原田樹、末富真由、手代木花野、間瀬奈都美、松本誠、的場祐太、水口早香、吉田朋弘）、琉球舞踊（立方：玉城匠、大浜暢明（静岡のみ）、上原崇弘（東京のみ）地謡：玉城和樹、仲嶺良盛）、公益社団法人北海道アイヌ協会（アイヌ古式舞踊）、静岡県立横須賀高等学校郷土芸能部（三社祭礼囃子）
参加クリエイター	鈴木康広（美術）、原摩利彦（音楽）、ひびのこづえ（衣装）、赤松絵利（ヘアメイク）、青木兼治（映像撮影）
メインビジュアル	はらわたちゅん子（アーティスト/デザイナー）
東京パフォーマンス全編映像公開	期間：1/27～2/27 視聴回数：2,599回

【参加者の声】

【静岡】

- ・ コロナ禍以降久しぶりに舞台芸術を見たので涙してしまった。
- ・ 様々なジャンルの違うパフォーマーが1つになり化学反応が起きてました。素晴らしく、大変感動しました。全く違うジャンルのものが一つにまとまるのがすごいと思いました。こうやって見ることで色々な文化に触れることができ楽しかったです。

- ・日頃文化に触れる機会が少ない（コロナ禍、金銭的事由で大都市で触れることも難しい）中、地方に来て下さり大変嬉しかったです！
- ・いろいろな本物に出会えて子供に見せてあげられて楽しかったです。
- ・芸術と文化の融合、美しすぎました。素晴らしい、リスペクト、語り合い…大事。感動と可能性を感じた。もっと広がってほしい！！ブラボー！！みなさんプロすぎ！一流見られて満足。

【東京】

- ・芸術の素晴らしさを知ることができました。幸せな気持ちになりました。
- ・新しい芸術を生み出そうとする気概を感じて嬉しかったです。
- ・いろいろなジャンルの融合に感動しました。心にぐっとくるものがありました。知らないジャンルやアーティストの方を知れたのも良かった。
- ・初めて観覧しましたが最初から最後まで夢中になって見れました。世界観の表現がとても魅力的でした。
- ・日本の古典と現代のアートを融合させたイベントは世界的にも意義があるものだと思うのでまた色々なシュチュエーションで開催してほしい。

17

Shibuya StreetDance Week 2022

【事業概要】

開催期間	令和4（2022）年11月23日（水・祝）
会場	代々木公園、オンライン
主催	公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京、 Shibuya StreetDance Week 実行委員会（渋谷区商店会連合会、渋谷道玄坂商店街振興組合、東急株式会社、株式会社パルコ）
共催	渋谷区
助成・協力	東京都
後援	公益財団法人東京都公園協会、渋谷区教育委員会、一般社団法人渋谷未来デザイン、一般財団法人渋谷区観光協会、東京商工会議所渋谷支部、商店街振興組合原宿表参道櫓会
協力	カシオ計算機株式会社、株式会社庭楽、有限会社HAL
企画・制作・運営	株式会社パルコ、ファイブメディット株式会社
制作協力	One and only.Creative株式会社、株式会社LAST TRAIN GETTER、株式会社アンノウン
総視聴回数	13,390回（2023年3月末日時点）

【事業趣旨（目的）】

表現者（ダンサー）、参加者（オーディエンス）、舞台（ステージ）を繋ぎ、幅広い客層に支持される新しい芸術文化として、ストリートダンスのポジショニングを確立し、ストリートダンサーの聖地である渋谷からストリートダンスの魅力や本質的な価値を国内外へ発信し、活力に溢れた街をつくる。

【開催状況】

11月23日の代々木公園でのプログラムは、雨天のため中止となった。映像配信とオンラインプログラムの配信は予定どおり実施した。

開催日	プログラム名	出演者	視聴数（回）
11/1～	DANCE WITH music in SHIBUYA	\$hun、ゆいと、Rowdy Krow (Krow Fam)、General Krow (Krow Fam)、TAIKI、蒼空	4,093
11/20～	ONLINE WORKSHOP	パーティーダンスを踊ろう！／講師：SIS	431
		Choreograph WORKSHOP／講師：Macoto	334
		ヨガで作るダンスのための身体づくり／講師：佐藤ゴウ、PlnO	295
11/30～	DANCE WITH music	TOMO&YORI from DA PUMP、\$hun、ゆいと、Rowdy Krow (Krow Fam)、General Krow (Krow Fam)、TAIKI、蒼空	8,237

（2023年3月末日時点）

中止プログラム

開催日	プログラム名	出演者
11/23	RAINBOW STAGE	参加団体：STUDIO D+、KIDS STYLE GOLD、ダンスエリアサーズ、渋谷ユナイテッド、Eight Clouds Kids Dance、SRN GOLD RUSH、twinkle SMILE、Studio Growing、Street Dance Community PROPS、studio egg、KADOKAWA DREAMS ユースチーム「KFD」、東京ビジュアルアーツ、日本工学院、東京アナウンス学院、UDM、VAW栄光ハイスクール ゲストダンサー：Mark Okayama (ex.Zoo、カメレオン)、KADOKAWA DREAMS、Yacheemi & KON THE FUNK、パフケロ、HANA & KAZANE、Jungle Mover
	SSDW CONTEST	審査員：erika (LUCIFER)、野口量 (LIFULL ALT-RHYTHM)、MAR MC KENSAKU
	DANCE WITH music	TOMO&YORI from DA PUMP、\$hun、ゆいと、Rowdy Krow (Krow Fam)、General Krow (Krow Fam)、TAIKI、蒼空
	BATTLE PARK (CREW BATTLE、7 to smoke BATTLE)	7 to smoke BATTLE/バトル：HINATA、おうた、REI、CURREN、momo、TAIKI、346.aka.BabySniper、MEI 審査員：KEIN、2GOO、TAKUYA MC:YAS DJ:DJ Katy
	OPENING SHOWCASE	EXPROODE、Jammy Fancy、DESCARADOS、SPORT、II BabyZ、Naked Mojo
	HALF TIME SHOWCASE	ザ・ハートマン、STUDIO Lil'sol、D+ Tween、IRIS、【みつくすじゅ～す】from REMIX Dance School、りゅうく from LL MUSIC
	CHILL OUT SPACE	YOGA de DANCE／講師：佐藤ゴウ（ヨガ）、BAN (Drum&Percussion) おやこ DANCE WORKSHOP／講師：Nagase family (From DANCE ASOBU CREW) SOUL TRAIN TIME／ダンサー：A-SUKE DANCE CLOWN／ダンサー：HAP (Jacky&HIDENORI) DJ TIME／DJ：YO-SIN、Brooklyn Terry LIVE PAINTING／CHITO MC：コロール

【参加者の声】

- ・ 代々木公園は雨天で中止となり残念でしたが、オンラインプログラムで楽しむことができました。
- ・ 今年はYouTube 配信など様々な形態で発信して頂けたので来年も期待しています。
- ・ 幅広い世代が集まることができ、通りすがりの方も参加できるダンスイベントは多くないので、是非今後も続けて行って欲しいです。

18

キッズ伝統芸能体験

【事業概要】

- 開催日** 令和4（2022）年9月18日（日）～令和5（2023）年3月30日（木）
- 主催** 東京都、公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京、公益社団法人日本芸能実演家団体協議会〔芸団協〕
- 企画制作・運営** 公益社団法人日本芸能実演家団体協議会〔芸団協〕
- 制作協力** 公益社団法人能楽協会、公益社団法人日本舞踊協会、公益社団法人日本三曲協会、一般社団法人長唄協会
- 共催** 公益財団法人新宿未来創造財団（新宿区立新宿文化センター）、公益財団法人立川市地域文化振興財団、東村山市教育委員会、町田市、一般財団法人町田市文化・国際交流財団
- 協賛** 独立行政法人日本芸術文化振興会
- 後援** 新宿区、立川市教育委員会
- 協力** 公益財団法人梅若会、公益社団法人宝生会、公益財団法人日本伝統文化振興財団
- 参加申込者数** 1,294人
- 参加費** スタンダードプログラム
15,000円（全18回／稽古16回、リハーサル1回、発表会1回）
ユースプログラム
15,000円（全12回／稽古10回、リハーサル1回、発表会1回）
- 参加者数** 203人
- 発表会鑑賞者数** 1,013人

【事業趣旨（目的）】

伝統芸能のプロの実演家が稽古にふさわしい場所で、子供たちに直接、定期的かつ継続的に指導を行うことで、伝統芸能の世界が培ってきた礼儀作法、厳しさなどの文化環境を、子供たちが自然と身につけられるような学びの場をつくる。あわせて、その成果を舞台で発表する機会を提供することによって、目的意識をもって学ぶ大切さを知る機会とする。本格的な伝統芸能体験を通して、世界の中の日本人としての意識と感性を涵養することで、子供たちばかりでなく、家庭内での伝統芸能に対する興味・関心を高め、伝統芸能を次世代へ継承し、東京の文化的魅力を向上させることを目的として実施する。

【開催状況】

二部制の開講式、各コースの定員縮小、稽古時間の短縮、十分な換気と消毒を行う等、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を徹底し、実施した。一方で、コロナ禍では初めて稽古期間中の保護者参観、発表会の一般観覧、日本舞踊の生演奏での発表等状況を見ながら進めていった。

1 スタンダードプログラム

ジャンル	コース	稽古場所	稽古日	指導者	参加者数（人）
能楽	謡・仕舞（喜多流）	梅若能楽学院会館	9/26、10/3、24、31 11/14、28 12/12、26 1/16、30	佐々木多門、大島輝久、友枝真也、塩津圭介、佐藤寛泰、佐藤陽	9
	狂言（和泉流）		2/6、13、27 3/6、13、27	三宅右矩、三宅近成、高澤祐介、前田晃一、金田弘明	8

ジャンル	コース	稽古場所	稽古日	指導者	参加者数（人）
長唄	三味線 [東村山]	東村山市立 中央公民館	11/13、12/4、11、18、25 1/8、15、22、29 2/12、19、26 3/5、12、19、26	杵家弥七、東音岩田喜美子、杵屋栄日陽、 杵屋五三吉都、杵屋五章、芳村伊十治郎、 東音植松美名　ほか	16
	三味線 [渋谷]	杵家会館	11/20、12/4、11、25 1/8、15、22、29 2/5、12、19、26 3/5、12、19、26		14
	囃子（篠笛） [町田]	和光大学 ボプリホール鶴川	11/4、11、25 12/2、16、23 1/13、20、27 2/3、17、24 3/3、10、17、24	鳳聲千晴、藤舎理生　ほか	11
	囃子（篠笛） [新宿]	芸能花伝舎	11/20、27 12/4、11、18、25 1/8、22、29 2/5、19、26 3/5、12、19、26		10
	囃子（小鼓）		望月庸子、望月太左衛、梅屋巴、望月太 津之　ほか	13	
三曲	箏曲（生田流） [立川]	たましん RISURUホール	10/2、16、23 11/20、27 12/11、18 1/8、15、29 2/5、19、26 3/5、12、26	福田栄香、花岡操聖、白橋操悠、青木礼子、 北川雅楽乃、池田和花奈	19
	箏曲（生田流） [新宿]	新宿区立新宿文化セ ンター	10/16、23 11/27 12/11、18、25 1/8、15、22、29 2/5、19、26 3/5、12、26	福田栄香、青野雅楽浪、大嶋敦子、中小 路奈都子、久野木史恵、吉永真奈	18
	尺八	芸能花伝舎	11/20、27 12/4、11、18、25 1/8、22、29 2/5、19、26 3/5、12、19、26	安島瑤山、田辺恵山	10
日本舞踊	日本舞踊（女子）	芸能花伝舎	11/20、27 12/4、11、18、25 1/8、22、29 2/5、19、26 3/5、12、19、26	藤間聖衣暁、泉秀彩霞、藤間涼太郎、水 木紅耶、坂東映司、吾妻君瀾、花柳秀衛、 若見匠祐助	20
	日本舞踊（男子）		10		
計					158

2 ユースプログラム

ジャンル	コース	稽古場所	稽古日	指導者	参加者数（人）
長唄	三味線	芸能花伝舎	1/8、22、29 2/5、19、26 3/5、12、19、26	杵家弥七、東音岩田喜美子、杵屋栄日陽、 杵屋五三吉都、杵屋五章、芳村伊十治郎、 東音植松美名 ほか	17
三曲	箏曲（山田流）	新宿区立新宿文化セ ンター	1/8、15、22、29 2/5、19、26 3/5、12、26	山勢麻衣子、奥山益勢、森田博代、長岡 園美咲、市川法慧能	18
日本舞踊	日本舞踊	芸能花伝舎	1/8、22、29 2/5、19、26 3/5、12、19、26	藤間聖衣暁、泉秀彩霞、藤間涼太郎、水 木紅耶、坂東映司、吾妻君彌、花柳秀衛、 若見匠祐助	10
計					45

3 発表会

ジャンル	コース	日程	会場	入場者数（人）
能楽	謡・仕舞（喜多流）、狂言（和泉流）	3/28	国立能楽堂	145
三曲	箏曲 [新宿] [立川]（生田流）、箏曲 [ユース]（山田流）、尺八	3/29	国立劇場 大劇場	281
長唄	三味線 [東村山] [渋谷]、三味線 [ユース]、 囃子（篠笛） [町田] [新宿]、囃子（小鼓）	3/29	国立劇場 大劇場	356
日本舞踊	日本舞踊（女子）（男子）、[ユース]	3/30	国立劇場 大劇場	231
合計				1,013

【参加者の声】

- お稽古に参加した子供の声
- ・日本の文化への先入観がなくなった。お稽古を通して、伝統芸能に興味を持つことができただけでなく、自分ができることの幅が広がりました！（狂言／小学生女子）
- ・一緒にお稽古をしていた人たちと今までの成果として大きな舞台で発表できたことがとてもうれしかったです。会場では初めて見たものばかりでとても良い経験になりました。（箏曲ユース／中学生女子）

- ・お稽古は終わってしまいましたが、日本舞踊のお道具を大切にする姿勢であったり、相手を敬う心持ちはこれからも意識していきたいと思っています。(日本舞踊／高校生男子)

●保護者の声

- ・最初は音が出ない中でのお稽古で、かなり苦戦しているようでしたが、あきらめないでやればできる、という経験ができて良かったです。(尺八)
- ・伝統芸能を体験することで、改めて日本人としての心意気、立ち居振る舞いを意識していこうと気付かせていただきました。(三味線)
- ・先生方の熱心な指導とわかりやすい言葉や教え方に好感を持ちました。伝統芸能はハードルが高く感じていましたが、親子で挑戦しやすかったです。(日本舞踊)

19

大人のための伝統文化・芸能体験事業

【事業概要】

開催期間	令和4（2022）年10月2日（日）、令和5（2023）年1月15日（日）
会場	立川市女性総合センター・アイム、神田明神ホール
主催	東京都、公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京、 公益社団法人日本芸能実演家団体協議会〔芸団協〕
共催	立川市（10月2日実施分のみ）
後援	公益財団法人立川市地域文化振興財団（10月2日実施分のみ）
広報協力	TOKYO FM
入場者数	154人

【事業趣旨（目的）】

伝統文化・芸能の魅力を様々な方が再認識する仕組みを整えるとともに、その担い手となる団体および若手実演家等を積極的に活用し、活躍の場を創出することで、伝統文化・芸能を次世代に継承する。

【開催状況】

18歳以上を対象に、伝統文化・芸能の様々なジャンルについての講演・鑑賞・体験を一体化させることにより、多角的に伝統文化・芸能の魅力を紹介するプログラムを実施した。

伝統芸能に精通する講師による講演、各ジャンルの一流講師陣の指導のもと体験する機会を提供し、伝統芸能への理解を深める一助とすることができた。

また、10月2日の開催については、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会1周年記念事業として実施し、伝統文化・芸能の魅力を発信した。

開催日	会場	講演	体験	鑑賞	入場料（円）	入場者数 【申込者数】（人）
10/2	立川市女性総合センター・アイム	葛西聖司 （内容）日本の伝統楽器・伝統色・稽古について、伝統クイズコーナー等	【箏曲】 奥田雅楽之一 ほか 楽器の説明、「さくらさくら」の合奏 【生け花】 今村草玉 ほか 生け花の基礎の解説、作品制作 【長唄三味線】 吉住小三郎 ほか 楽器の説明、音を鳴らす体験	お箏×生け花パフォーマンス 奥田雅楽之一、今村草玉	無料 （事前申込制）	71 【560】
2023/1/15	神田明神ホール	ロバート キャンベル （内容）江戸時代の人々の学び、北斎画「漁樵問答」からひもとく庶民と芸能との関わり等について	【日本舞踊】 西川扇与一 ほか 入門編（お辞儀から所作の基本の体験）、応用編（舞扇を使って「ふるさと」に挑戦） 【小唄三味線】 夢胡文雄 ほか 楽器の説明、「佃の合方」の実践	日本舞踊 「蓬萊」花柳昌太郎、 「卯の花」西川扇与一、 「春はうれしや」西川扇与一、花柳昌太郎	無料 （事前申込制）	83 【597】

【参加者の声】

- ・MC、葛西さんのお話がともに素晴らしく、引き込まれました。
- ・短い時間でしたが、丁寧に教えていただいて、とても楽しかったです。実際に体験してみたことで、難しさも体感し、さらに興味が深まりました。定期的に伝統芸能に触れあえる機会が増えると良いと願っております。
- ・教えていただいたことを全てマスターすることは出来ませんでした。楽しかったのも、この続きを学びたいとも思いました。多くの先生に教えていただきありがとうございました。よく歌舞伎観劇に行くのでこれから見方も変わりそうです。

20

子供のための伝統文化・芸能体験事業

【事業概要】

開催期間	令和4（2022）年5月～令和5（2023）年3月
会場	東京都内の小学校、中学校、中等教育学校、特別支援学校（小学部、中学部、高等部）等
主催	公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京、公益社団法人日本芸能実演家団体協議会〔芸団協〕
助成・協力	東京都
参加者人数	4,470人
実施校数	61校

【事業趣旨（目的）】

子供たちが日本の伝統文化・芸能に触れ、日本の文化の価値に対する正しい理解を深めるとともに、多様な文化に対する幅広い知識を育めるよう、若手実演家等を講師とする体験・鑑賞プログラムを、学校と連携した取組として実施する。

【開催状況】

新型コロナウイルス感染症拡大の状況を受け、一部をオンラインで実施するなど工夫しながら実施した。

開催日	学校名	内容	実施団体	体験者数（人）
5/20	東村山市立化成小学校	狂言（能楽）	公益社団法人能楽協会	82 (内オンライン1)
5/27	北区立岩淵小学校	紙切り（演芸）	公益社団法人落語芸術協会	33
5/31	荒川区立第九中学校 夜間学級	伝統工芸（江戸表具）	石井三太夫表具店	29
6/2	中野区立みなみの小学校	和妻（演芸）	公益社団法人落語芸術協会	92
6/7	御蔵島村立御蔵島小学校	狂言（能楽）	公益社団法人能楽協会	30 (内オンライン1)
6/11	狛江市立狛江第三小学校	紙切り（演芸）	公益社団法人落語芸術協会	98
6/15	青梅市立霞台中学校	落語（演芸）	公益社団法人落語芸術協会	347
6/23	町田市立南第四小学校	歌舞伎音楽	特定非営利活動法人日本音楽集団	93
6/28	新島村立新島小学校	紙切り（演芸）	一般社団法人落語協会	28
6/30	中野区立谷戸小学校	落語（演芸）	一般社団法人落語協会	66 (内オンライン2)
7/13	世田谷区立二子玉川小学校	落語（演芸）	公益社団法人落語芸術協会	89
7/13	江戸川区立大杉小学校	雅楽	一般社団法人伶楽舎	48
7/14	晃華学園小学校	紙切り（演芸）	公益社団法人落語芸術協会	76
7/15	八王子市立船田小学校	歌舞伎音楽	一般社団法人長唄協会	66
9/1	調布市立北ノ台小学校	和妻（演芸）	公益社団法人落語芸術協会	126 (内オンライン1)
9/6	八王子市立鍵水小学校	地域の芸能（八王子車人形）	八王子車人形西川古柳座	99 (内オンライン2)
9/6	稲城市立南山小学校	三味線	公益社団法人日本小唄連盟	56
9/9	日野市立滝合小学校	伝統工芸（江戸木版画）	株式会社高橋工房	50
9/9	品川区立第三日野小学校	箏	公益社団法人日本三曲協会	102
9/13	江戸川区立篠崎第二小学校	日本舞踊	公益社団法人日本舞踊協会	51
9/14	目黒区立鷹番小学校	箏	公益社団法人日本三曲協会	59
9/15	八王子市立宇津木台小学校	地域の芸能（八王子車人形）	八王子車人形西川古柳座	83 (内オンライン1)
9/16	文京区立文林中学校	歌舞伎音楽	一般社団法人長唄協会	100 (内オンライン1)
9/30	学校法人愛育学園	狂言（能楽）	公益社団法人能楽協会	25
10/17	練馬区立光が丘四季の香小学校	狂言（能楽）	公益社団法人能楽協会	78
10/21	新宿区立新宿養護学校	箏	特定非営利活動法人日本音楽集団	34 (内オンライン4)
10/24	多摩市立連光寺小学校	狂言（能楽）	公益社団法人能楽協会	53
10/25	江戸川区立篠崎第四小学校	雅楽	一般社団法人伶楽舎	116
10/28	杉並区立大宮小学校	雅楽	一般社団法人伶楽舎	71
10/28	港区立赤坂小学校	落語（演芸）	公益社団法人落語芸術協会	94
10/31	日の出町立本宿小学校	落語（演芸）	公益社団法人落語芸術協会	73 (内オンライン1)
11/7	東京都立村山特別支援学校	落語（演芸）	公益社団法人落語芸術協会	85 (内オンライン7)
11/8	新宿区立戸塚第二小学校	謡・仕舞（能楽）	公益社団法人能楽協会	50
11/8	小平市立小平第十四小学校	雅楽	一般社団法人伶楽舎	64

開催日	学校名	内容	実施団体	体験者数（人）
11/15	新島村立式根島小学校	紙切り（演芸）	一般社団法人落語協会	20
11/16	筑波大学附属視覚特別支援学校	狂言（能楽）	公益社団法人能楽協会	17
11/21	昭島市立拝島第二小学校	和妻（演芸）	公益社団法人落語芸術協会	86
11/24	足立区立加賀中学校	琵琶	特定非営利活動法人日本音楽集団	62
12/2	葛飾区立小松南小学校	落語（演芸）	公益社団法人落語芸術協会	84
12/2	東京都立城南特別支援学校	雅楽	一般社団法人伶楽舎	57
12/6	昭島市立富士見丘小学校	謡・仕舞（能楽）	公益社団法人能楽協会	27
12/8	板橋区立板橋第二小学校	紙切り（演芸）	一般社団法人落語協会	32
12/13	目黒区立緑ヶ丘小学校	落語（演芸）	一般社団法人落語協会	30 (内オンライン1)
12/13	東京都立花畑学園	箏	公益社団法人日本三曲協会	63
12/19	小平市立学園東小学校	落語（演芸）	公益社団法人落語芸術協会	59
12/19	東京都立田園調布特別支援学校	箏	特定非営利活動法人日本音楽集団	33
12/20	葛飾区立川端小学校	落語（演芸）	一般社団法人落語協会	65 (内オンライン3)
12/20	小金井市立南小学校	謡・仕舞（能楽）	公益社団法人能楽協会	87
12/21	大田区立矢口小学校	狂言（能楽）	公益社団法人能楽協会	86 (内オンライン1)
1/16	武蔵野市立大野田小学校	雅楽	一般社団法人伶楽舎	106
1/18	東京都立武蔵台学園府中分教室	和妻（演芸）※オンライン実施	公益社団法人落語芸術協会	18
1/19	新宿区立大久保小学校	雅楽	一般社団法人伶楽舎	19
1/20	渋谷区立西原小学校	謡・仕舞（能楽）	公益社団法人能楽協会	61
1/23	世田谷区立弦巻中学校	日本舞踊	公益社団法人日本舞踊協会	130
1/25	板橋区立向原小学校	箏	公益社団法人日本三曲協会	43
1/31	豊島区立朝日小学校	地域の芸能（糸あやつり）	公益財団法人江戸糸あやつり人形結城座	40 (内オンライン1)
2/7,14	中央区立豊海小学校	三味線	清元協会	134
2/8	台東区立石浜小学校	箏	公益社団法人日本三曲協会	47
2/9	板橋区立上板橋第二中学校	歌舞伎音楽	特定非営利活動法人日本音楽集団	117 (内オンライン1)
2/10	西東京市立栄小学校	伝統工芸（江戸手描友禅）	東京都工芸染色協同組合	106
3/6	立川市立立川第二中学校	謡・仕舞（能楽）	公益社団法人能楽協会	195

【教員の声】

- ・本物に触れ、児童の目の輝きが変わった。普段コンサートの場が苦手な子供も最後まで参加する姿に驚いた。狂言の世界観が伝わり、興味を持続できたのだと思う。ワークショップも子供たちの姿を見て臨機応変に対応していた。（狂言／能楽）
- ・講師の先生の最後のプロの舞踊がとても感動した児童が多く、話題になっていた。近くで鑑賞したり、体験したりできて、本当に良かった。（日本舞踊）
- ・歌舞伎を鑑賞した事のある児童はならず、また、三味線の演奏もほとんど聴いたことがなく教科書程度の内容を学習しただけで体験に臨んだが、本物の演奏というのは、本当に知識・経験のない児童の心をもつかむのだと感じた貴重な体験だった。（歌舞伎音楽）

21

パフォーマンススキッズ・トーキョー

【事業概要】

開催期間	令和4（2022）年4月28日（木）～令和5（2023）年3月27日（月）
会場	ホール5か所（赤坂区民センター、大田文化の森、なかのZERO、武蔵村山市民会館、プリモホールゆとりぎ（羽村市生涯学習センターゆとりぎ））、公立小中学校15校（うち特別支援学級5校）、都立特別支援学校2校、障害児入所施設1施設、児童養護施設1施設、母子生活支援施設1施設
主催	公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京、特定非営利活動法人 芸術家と子どもたち、公益財団法人港区スポーツふれあい文化健康財団（赤坂区民センター開催のみ）、羽村市教育委員会（プリモホールゆとりぎ（羽村市生涯学習センターゆとりぎ）開催のみ）
共催	公益財団法人大田区文化振興協会（大田文化の森開催のみ）、なかのZERO指定管理者（なかのZERO開催のみ）、武蔵村山市民会館、武蔵村山市教育委員会（武蔵村山市民会館開催のみ）
助成・協力	東京都
協力	赤坂区民センター（赤坂区民センター開催のみ）
参加費	無料（参加、公演観覧）
参加者数	888人
観賞者数	4,500人

【事業趣旨（目的）】

子供たちの創造性・自主性・コミュニケーション能力の向上、身体を使ったプレゼンテーション能力の向上、プロのアーティストとの触れ合い・キャリア教育を目指す。また、ホールを拠点にした地域活性化、本事業がより多くの影響を与える可能性の高い子供たちへの積極的なアプローチにも取り組む。

【開催状況】

ダンスや演劇、音楽などの分野で活動するプロの現代アーティストを、都内の小中学校やホール・文化施設、児童養護施設等に派遣。10日間程度のワークショップを行い、子供たちが主役のオリジナルの舞台作品をつくりあげる。最後に発表公演を行い、地域や教育・文化各方面の多くの人たちにワークショップの成果を発信する。令和4年度は、ホール5か所、小中学校15校（島しょ部含む）、特別支援学校2校、児童養護施設等3か所（障害児入所施設、児童養護施設、母子生活支援施設）にて開催した。学校での開催にあたっては、より多くの影響を与える可能性の高い子供たちへのアプローチとして、一部特別支援学級・特別支援学校でも実施した。

広報活動の一環として、学校向け事業に関する広報用パンフレットを都内全公立小中学校・特別支援学校1,953校ほか、各教育委員会等へ広く配布した。

令和4（2022）年度 パフォーマンスキッズ・トーキョー実績一覧

会場名	アーティスト	開催日	日数	対象学年	参加者 (人)	発表公演タイトル	発表日	観覧者数 (人)
文京区立本郷 小学校	鈴木春香 (振付家・ダン サー)	9/6、14、 10/3、19、 28、31、 11/8、11、 16、18、19	11	3年生	134	『ひびのかけら-134の発見する身体-』	11/16、19	350
台東区立平成 小学校	森下真樹 (振付家・ダン サー・森下ス タンド主宰)	7/4、9/8、 13、16、 10/14、6、 12、14、15	9	5年生 6年生	57	『みんなちがって みんないい!!~57人 57色~』	10/12、15	250
墨田区立中川 小学校	浅井信好 (振付家・ダン サー)	1/24、2/7、 13、14、21、 3/2、3、4	8	6年生	42	『カラダだからカラダ』	3/4	45
目黒区立宮前 小学校	小暮香帆 (振付家・ダン サー)	11/4、17、 18、24、 12/2、6、 16、17	8	6年生	55	『夢と歩く』	12/17	80
練馬区立谷原 小学校	前嶋のの (脚本家・演出 家)	9/28、 10/21、 11/25、30、 12/7、9、 14、15、21、 22	10	特別支援学級 1~6年生	34	低学年：『さるかにがっせん』 高学年：『スイーツキングダム~おかし なおかしの大騒動!~』	12/22	56
江戸川区立北 小岩小学校	長井江里奈 (ダンサー・演 出家・山猫団 主宰)	1/17、24、 2/2、9、16、 20、3/1、7、 10	9	4年生	46	『やさしいダンス』	3/10	70
青梅市立第四 小学校	康本雅子 (振付家・ダン サー)	6/27、10/5、 25、31、 11/1、11、 14、16、18、 19	10	特別支援学級 1~6年生	38	『MYO!MYO!MYO!~あたごの浦より ~』	11/18、19	440
町田市立三輪 小学校	棚川寛子 (舞台音楽家)	7/6、9/15、 21、30、 10/7、12、 19、21、24、 27、29	11	6年生	82	『ぼくらの宝物~スイミー、キミとボ クの約束~』	10/26、27、 28、29	555
東村山市立青 葉小学校	青木尚哉 (振付家・ダン サー)	7/6、9/16、 20、26、30、 10/3、12、 15、18、21、 29	11	6年生	80	運動会：『青葉座踊（あっ！オーバー・ ザ・ダンス）』 50周年式典：『ハッピーバースデー 青 葉小学校 50周年めでたいね！僕た ち！私たちを！刮目せよ（・3・）ー ☆『愛』』	10/15 10/29	1,130
福生市立福生 第二小学校	田畑真希 (振付家・ダン サー)	12/12、16、 19、21、 1/11、16、 20、21	8	6年生 (特別支援学級 3人含む)	73	『KANPAI ☆Boogie-Woogie』	1/21	100
羽村市立松林 小学校	田畑真希 (振付家・ダン サー)	4/28、5/6、 10、17、19、 24、27、28	8	特別支援学級 1~6年生	31	『カラフル☆ファンファーレ』	5/28	320
江東区立深川 第四中学校	村本すみれ (演出家・振付 家・ダンサー)	1/13、20、 27、2/3、 10、17、21、 24	8	特別支援学級 1~3年生	17	『Evolving Our World（進化するわ たしたちの世界）』	2/24	20
八王子市別所 中学校	辻田暁 (ダンサー・俳 優)	9/1、8、 10/27、 11/2、9、 10、17、29、 30、12/1	10	特別支援学級 1~3年生	28	『再聞（またぎき）』	12/1	15
東京都立葛飾 ろう学校	鈴木ユキオ (振付家・ダン サー)	9/9、16、 28、30、 10/7、14、 19、20、21、 22	10	中学部3年生	13	『I am ...』	10/21、22	80
東京都立花畑 学園	東野祥子 (振付家・ダン サー)	9/14、15、 10/5、6、 12、13、20、 25、26、29	10	知的障害教育 部門 中学部3年生	28	『世界を作ろう。みんなの力で！ーマ インクラフトの世界への旅ー』	10/29	60
合計			141		758			3,571

会場名		アーティスト	開催日	日数	対象学年	参加者 (人)	発表公演タイトル	発表日	観覧者数 (人)
学校／ 島しょ部	大島町立さくら小学校	酒井直之 (振付家・ダンサー)	9/1、1/27、 28、2/1、2、7、 8、14、15、 16、17、18	12	2年生	15	『スイミー～大島の海編～』	2/18	200
	青ヶ島村立青ヶ島小・中学校	長井江里奈 (ダンサー・演出家・山猫団主宰)	オンライン：7/5、6 対面：9/8、9、 12、13、14、 15、16、17、 18	11	小学1～6年生	10	『青ヶ島ギャラクシー』	9/18	65
					中学1～3年生	3	『僕たちはこういう者です』		
合計				23		28			265

会場名		アーティスト	開催日	日数	対象学年	参加者 (人)	発表公演タイトル	発表日	観覧者数 (人)
ホール	赤坂区民センター	辻田暁 (ダンサー・俳優)	8/10、11、 17、18、19、 22、23、25、 26、27	10	小学3年生～中学3年生	11	『めにみえないもの製造工場』	8/27	119
	大田文化の森	北川結 (ダンサー・イラストレーター)	7/21、22、 24、25、27、 8/1、4、5、6、 7	10	小学3年生～小学6年生	11	『ワイルドワイルド!』	8/7	68
	なかのZERO	中村蓉 (振付家・ダンサー)	1/28、29、 2/5、11、 12、18、23、 24、25、26	10	小学3年生～中学3年生	19	『愛なんだ2023』	2/26	165
	武蔵村山市民会館	青木尚哉 (振付家・ダンサー)	6/4、5、11、 12、18、19、 26、7/1、2、 3	10	小学2年生～高校1年生	13	『おどろどろんこどんきゅう』	7/3	160
	プリモホール ゆとろぎ(羽村市生涯学習センターゆとろぎ)	渡辺麻依 (演出家・俳優)	7/9、10、 16、18、23、 24、28、29、 30、31	10	小学3年生～中学1年生	9	『コドウの森』	7/31	102
合計				50		63			614

会場名		アーティスト	開催日	日数	対象学年	参加者 (人)	発表公演タイトル	発表日	観覧者数 (人)
児童養 護施設 等	かしわヴィ レッジ（れも んハウス）（新 宿区）	たけうちみず ゑ （俳優）	4/23、7/18、 9/24、 11/23、2/23	5	0～6歳	18	-	-	-
	宮代学園（渋 谷区）	松岡大 （舞踏家）	6/26、7/31、 9/4、12/10、 1/7、15、 3/27	7	小学2年生～高 校3年生	14	『New World』	3/27	25
	クリスマス・ ヴィレッジ（足 立区）	康本雅子 （振付家・ダン サー）	11/26、 1/28、2/2、 16、18、25	6	4歳～中学2年 生	7	『個々でダンス、此処でダンス』	2/25	25
合計				18		39			50

※実績日数は発表を含む

【参加者の声】

●ホール

- ・本番で生き生きと表現する子供たちや、その後のお別れ会でのアーティストの方やスタッフの方々との交流を見て、愛情いっぱいに接して下さっていたことが分かりとてもありがたく感じました。コロナ禍で感染者数が増加する中、開催して下さったこと、スタッフの方々の準備や緊張も大変だったと思います。アーティストの方や、ご家族の都合で参加できなくなった子供たちともオンラインで繋がって、ご指導いただいたり交流して下さったのも、柔軟に対応して下さっていて感動しました。コロナならではの思い出になりました。アーティストの方やスタッフの方々の手厚いサポートに感謝です。またこのような機会がありましたら、参加させたいです。（大田文化の森／保護者）
- ・今までは「振付を踊る」という経験しかしていなかったけど、今回は表現することを学べたし、「表現」の楽しさを知ることができた。普段と違う経験ができて良かったです！（なかのZERO／出演者）

●学校

- ・子供たちの意見やアイデアを尊重して受け止めて作品に反映してくれたことや、ワークショップ後の振り返りなどを通して、アーティストと教員それぞれが意見をキャッチボールしながら作品作りを行えたことが良かったです。アーティストと子供たち、教員の思いがひとつになって、最高のパフォーマンスになりました。子供たちがどんどん前向きになる活動を提供していただき、ありがとうございました。（台東区立平成小学校／教師）
- ・最初の音楽が始まった瞬間から、会場全体が劇に惹きこまれていたと思います。全員主役という目標を子供たち全員が意識して、全力で自分の役割を果たそうとしている姿が印象的で素晴らしかったです。観客の前で役になりきり演技することは少し苦手意識があったと思いますが、本番で必死に演技している姿を見て成長を感じました。「面倒くさい、一生懸命は格好悪い」などと言いがちなこの年齢の子供たちにとって、全員で全力でつくりあげて感じた達成感はとても素敵な、貴重な体験だったことと思います。（町田市立三輪小学校／保護者）
- ・相手がどんな動きをやっているのか、どのようなことを想像して動いているのかを想像するのも楽しいです。動きを工夫するだけでどのような物なのか（例えば、どのくらい重いのか）まで分かります。これからいろいろな動きをしてたくさん発見をしていきたいです。（文京区立本郷小学校／児童）

●児童養護施設等

- ・3年間の活動を通して、目に見えてお子さんたちが心を許しアーティストの方との距離が近くなっているのがわかりました。ダンスの振付についてもアーティストの方とお子さんたちと一緒に考えるなどのやり取りが成立したりしていて、とても嬉しく、良い関係性の積み重ねが出来ていると感じています。また、活動があるときはお子さんたちが積極的に準備をしていたことや笑顔で活動に参加している様子を見てとても楽しみにしていることを感じ取れました。（宮代学園／職員）

22

TURN LAND プログラム

【事業概要】

開催期間	令和4（2022）年4月～令和5（2023）年3月
会場	福祉施設およびコミュニティ、アーツカウンシル東京 ROOM302、 東京都内近郊 ほか
主催	東京都、公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京、一般社団法人谷中のおかって
参加者数	延べ912人

【事業趣旨（目的）】

福祉施設や社会的支援を行う団体等がアーティストと協働し、アートプロジェクトの手法を活かして様々なプログラムを展開することで、福祉施設や団体の活動の場に、多様な価値観を認め合う文化施設としての機能を醸成する。活動を通して、文化の領域を超えた社会課題に向き合う多様なアプローチを提示するとともに、新しい感覚や感性にアクセスできるきっかけをつくり、「人と違う」ことに価値を見出していく。

【開催状況】

1. TURN LAND

福祉施設や社会的支援を行う団体がアーティストとともに、地域や協力者たちと連携しながらアートプロジェクトの実践を行った。参加施設や団体が継続的な展開を視野に活動できるよう、運営体制づくりに重点をおきながらコーディネーターが企画運営をサポートした。

参加者数：延べ318人

プログラム名	日程	会場	プログラム内容	ワーク	コーディネーター
ハーモニー	10/20 1/24	ハーモニー	「珈琲どう？」 「哲学対話とライラの コラージュワーク ショップ」	テンギョー・クラ（ア ーティスト／ヴァガ ボンド）、ライラ・カ セム（デザイナー）、 梶谷真司（東京大学 哲学者）	加藤末礼（コーディネーター）、テンギョー・クラ（ア ーティスト／ヴァガボンド）、ライラ・カセム（デザイ ナー）
はあとびあ	10月～ 3月 1/27	渋谷区障害者福 祉センター はあとびあ原宿	原宿荒野 交流活動 公開イベント 「原宿荒野：屋上の 小屋づくりと交流会」	永岡大輔（アーティ スト）	はあとびあ職員、岩中可南子（コーディネーター）、藤 井理花（コーディネーター）
だんだん	8月～ 2月	気まぐれ八百屋 だんだん、大田 区立池上福祉園、 ステップ夢	3施設が参加する 「地域コーディネ ーターチーム」の結成 と関係性づくり	青木亨平（アーティ スト）、藤田龍平（ア ーティスト）、柳楽晃 太郎（アーティスト）	近藤博子・澤田有司（だんだん）、菅沼剛（大田区立池 上福祉園）、大内伸一（ステップ夢）、竹丸草子（コーデ ィネーター）
La Mano	12/23 1/23 2/21、22、 24	クラフト工房 La Mano	音楽・美術ワークシ ョップ※新型コロナ ウィルス感染症感染 拡大のため中止 美術ワークショップ 「はじめましてのワ ークショップ・みん なでこたつに入って 春の妖精をつくる」 「ともに在る場所ユ ーカリと竹のデッ キ」制作	水内貴英（美術家）、 飯塚純（美術家）、え んどうえこ（フラメ ンコダンサー）、タニ エル・リコ（カンタ オール）	La Mano 職員、竹丸草子（コーディネーター）
小茂根福祉園	1/31、2/1 3/2	板橋区立小茂根 福祉園	居場所づくりワーク ショップ 居場所づくりワーク ショップをパフォー マンスにして上演	大西健太郎（アーテ ィスト）、伊集院もと 子（劇作家）、畑中研 人（俳優）、浅野葉子 （俳優）、小野龍一（作 曲家）	小茂根福祉園職員、笹萌恵（コーディネーター）

2. プレ LAND

福祉施設や社会的支援を行う団体が TURN LAND に取り組む準備段階として、アーティストやコーディネーターとともにアートプログラムを実施する経験を通じて、それぞれの現場に合ったアートプログラムを構想する機会をつくる。

参加者数：延べ448人

プログラム名	日程	会場	プログラム内容	ワーク	コーディネーター
ほうらい	9/22	ほうらい地域包括支援センター	第1回「認知症サポーター講座」	きむらとしろうじんじん(アーティスト)、BARBARA DARLING (アーティスト)、大西健太郎(アーティスト)、島田明日香(クラリネット奏者)、風間勇助(研究者)、蓮溪芳仁(建築家)、金田翔(アーティスト)	木下明・佐伯賢(ほうらい地域包括支援センター職員)、きむらとしろうじんじん(アーティスト)、富塚絵美・渡邊梨恵子(TURN LAND プログラム事務局)
	10/7		第2回「認知症サポーター講座」		
	10/8		ボランティアスタッフを対象としたプログラム説明会		
	10/10		「オレンジ・ポコペン 路上実践プログラム」		
	1/25		第1回お散歩会		
	1/26		第2回お散歩会		
さくらんぼ	11/28	豊島区立心身障害者福祉ホーム さくらんぼ	ジャンジさんの自己紹介&ワークショップ	マダム ボンジュール・ジャンジ(アーティスト)	対馬尚美・戸村敦・浜野亜希子(さくらんぼ)、岩中可南子(コーディネーター)、横田紗世(コーディネーター)
	1/21		グループホーム交流会		
みかんの木／フェイト	11月～2月	放課後等デイサービス くるみの木・みかんの木	「バボとユミのサルサワークショップ」	バボとユミ(アーティストユニット)、大黒健嗣(アーティスト)、大黒健嗣(アーティスト)／地域コーディネーター)	齊藤果(みかんの木)、高井功一・目黒英之(フェイト)、大黒健嗣(アーティスト／コーディネーター)、岩中可南子(コーディネーター)、富塚絵美(TURN LAND プログラム事務局)
	3/9		DJイベント「オーロラダイバーポート」		
ものの会	12/14、15	オンライン	オンライン「事前ワークショップ」	Kim Doki (アーティスト)	梅谷則子・宮浩子(西荻ふれあいの家)、岩中可南子(コーディネーター)
	12/21、22	西荻ふれあいの家	「Kim Doki ワークショップ(砂時計づくり)」		
	2/19		「ももふらっとサロン」にて展示		
ロート財団	2/13	オンライン	オンラインワークショップ 第1回「布を切つてつないで、自由に服をつくってみよう！」	檜皮一彦(アーティスト)	荒木健史(ロートこどもみらい財団代表)、宮内芽依(コーディネーター)、富塚絵美(TURN LAND プログラム事務局)
	3/21	東京藝術大学美術学部大石膏室	オンライン&対面開催ワークショップ 第2回「布を切つてつないで、自由に服をつくってみよう！」		
チュプキ	2/8	CINEMA Chupki TABATA	「ブレ LAND Chupki キックオフ会」ゲスト:遠藤郁美(いせフィルム)、矢野ほなみ(アニメーション作家)、古川耕(構成作家)、廣川麻子(TA-net)	石井健介(ブラインドココミュニケーター)	平塚千穂子(CINEMA Chupki TABATA 代表)、舟之川聖子(鑑賞対話ファシリテーター)
	3/1		「ブレ LAND Chupki キックオフ会 パートⅡ」		

3. TURN LAND オンラインサロン

本プログラムに参加する施設の担当職員やコーディネーターがオンラインで集い、現場ごとに異なるアプローチで展開するアートプロジェクトの取り組みについて、対話を通して学び合う場。毎月1回開催され、各回のゲストに参加アーティストを迎えた。参加メンバーたちの活動背景を聞いたり、現場で抱える葛藤などを分かち合うことで、さまざまな壁を乗り越えるクリエイティブな思考力を高めていった。

参加人数：延べ78人

第1回	開催日・ゲスト	9/14 大西健太郎
第2回	開催日・ゲスト	10/26 永岡大輔
第3回	開催日・ゲスト	11/11 青木亨平(アーティスト)、藤田龍平(アーティスト)、柳楽晃太郎(アーティスト)
第4回	開催日・ゲスト	12/21 水内貴英
第5回	開催日・ゲスト	1/18 きむらとしろうじんじん

4. TURN LAND ミーティング

年に2回、本プログラムに参加する福祉施設の職員やアーティスト、地域の協力者等が集い、互いの活動について報告し合う場。仲間がいることを実感してもらうことで、新しいことに挑戦する勇気を育て合った。

参加人数：のべ68人

第1回	開催日・会場	10/19 ROOM302(東京都千代田区 3331 Arts Chiyoda)
第2回	開催日・会場	2/17 アーツカウンシル東京 会議室(東京都千代田区)

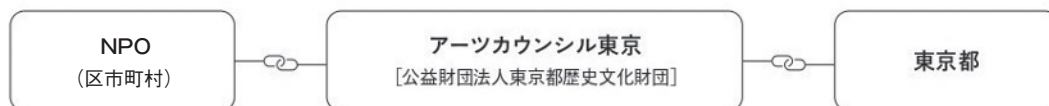
東京アートポイント計画 東京における文化創造拠点の形成

東京アートポイント計画は、地域社会を担うNPOとアートプロジェクトを展開することで、無数の「アートポイント」を生み出す事業である。

日常の営みに穏やかに寄り添い、まち・人・活動をつなぐアートプロジェクト。東京アートポイント計画では、平成21年度から現在（令和5年3月）までに、NPOを中心に56団体と45件のプロジェクトを共催してきた。本事業で目指すのは、日常や社会に芸術文化が根付き、長期的な東京の魅力創造につながっていくために、アートプロジェクトを担う人材の育成や活動基盤の整備も重視している。

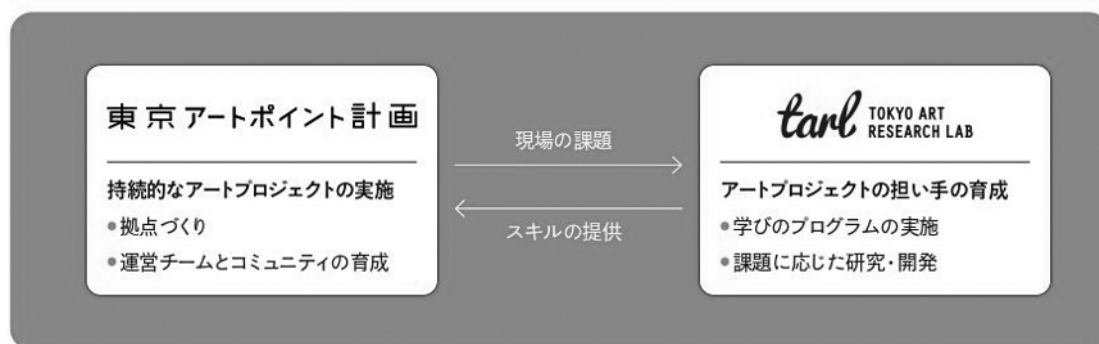
東京アートポイント計画の各アートプロジェクトは、東京都およびアーツカウンシル東京とNPOとの「共催事業」として実施している。費用負担のみならず、東京アートポイント計画のプログラムオフィサーが各プロジェクトに伴走し、情報、スキル、ネットワーク等をNPOに提供する点が特徴である。

東京アートポイント計画「共催事業」の実施体制



東京アートポイント計画は、アーツカウンシル東京の人材育成事業「Tokyo Art Research Lab」と連携し、アートプロジェクトの運営を担う人材を育てるプログラムや、記録や評価手法を研究・開発するプログラムで相互にフィードバックを行っている。

アーツカウンシル東京におけるアートプロジェクト関連事業での連携



23

HAPPY TURN／神津島

【事業概要】

開催期間	令和4（2022）年4月～令和5（2023）年3月
会場	神津島村
主催	東京都、公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京、一般社団法人シマクラス神津島
参加者数	2,476人

【事業趣旨（目的）】

伊豆諸島のひとつ神津島において、人々が島に愛着を持ち、当事者としてかわり続ける土壌を育むことを目指す。島民のみならず、島を離れて暮らす人、島外から移り住む人、一時的に滞在する人等、様々なターン（Iターン／Uターン）を経験する人々や、それぞれの立場から島に関わる幅広い世代が、島の歴史や生活文化等を知り、学び、交流するための場づくりや仕組みづくりに取り組む。

【開催状況】

1. 拠点育成プログラム

島の空き家を利活用した活動拠点「くると」では、島民がスタッフとして運営に加わりながら、プロジェクトの情報発信や島に関わる人々とのコミュニケーションを育んだ。スタッフや企画参加者へ拠点のニーズをヒアリングしながら、島民が主体的に島に関わるための場としてひろく方法を探るとともに、島の伝統や時節にかかわる自主企画を行い、日々のにぎわいを創出した。毎週木、金、土曜日の10時から16時に開室し、こどもたちの自由な居場所となり、黒板へのお絵かきや、「くると」に置いてある道具で思い思いの創作活動が生まれた。また、島に暮らす人々や移住者の交流の場としても機能するなど、世代間を繋ぐ場所にもなっている。

開催日	会場	プログラム名	参加者数（人）
5月～3月	くると	通常オープン	1,723
5/13、14		粘土で遊ぼう！	20
7/7		七夕の短冊に願い事を書こう！	20
11/10、17、24		くると冬まつりに向けて大漁節を練習しよう！	15
1/14		島の風習「花正月」椿の花とおだんごを持ってお詣りしよう	15
2/10、11		島の風習「二十五日様」竹やトイレットペーパーの芯を使ってお守り「いもじり」をつくろう	15
2/3		紙袋で鬼のお面を作って豆まきをしよう！	15
3/16、17		HAPPY TURN CHRONICLEの製本をしよう！	10
3/24		くると放送室を使って、映像を撮ってみよう	10

2. アーティスト・プログラム

染色の技法をつかった表現に取り組む美術家・山本愛子との『Nature Color Picnic』、ダンサー・パフォーマーである大西健太郎と行った『西ん風竜（にっしんたっち）』のほか、ミュージシャン・テニスコーツを迎えて行った『くると冬まつり2022』、アーティストコレクティブ・オル太によるリサーチを踏まえた展示・パフォーマンス『漂白と遍歴』を開催。島外からアーティストを呼びプログラムを行うことで、いつもと異なる島への視点の発見や、普段は出会わない人と出会う機会が生まれるなど、プログラムを通じた交流があった。

期 間：令和4（2022）年7月～令和5（2023）年2月

招致アーティスト：山本愛子、大西健太郎、テニスコーツ、オル太

(1) アーティスト・プログラムin神津島／オル太『漂白と遍歴』

滞在時のリサーチをもとに、オル太のメンバーが神津島の信仰の逸話から得た着想や、独特の風習にちなんだ作品を制作。鑑賞者は、神津島の姿、神や信仰、他国との関係等に思いを巡らせる機会となった。

開催日	会場	プログラム名	内容	参加者数（人）
9/15～18	MANABU、長兵衛	オープンスタジオ『漂白と遍歴』	島民へのインタビューや文献調査などのリサーチを土台に、漂流物を収集した立体作品や映像作品など、滞在しながら制作した作品を発表。	106 (第1会場 MANABU/67、 第2会場 長兵衛/39)
2/13～19	長兵衛	展覧会『漂白と遍歴』	島の空き家「長兵衛」に、9月のオープンスタジオで展示した作品と新作を展示。	102
2/17～19		パフォーマンス『漂白と遍歴』	展示会場の一部を舞台とし、オル太がパフォーマンスを行った。	41

(2) アーティスト・プログラムin神津島／山本愛子

普段は拠点に訪れることのない中高生を対象とした「島の色を探す会」と、誰でも参加できる「草木染めを楽しむ会」の2部構成のプログラム『Nature Color Picnic』を行った。神津島ならではの素材で染色を行うことで、島の植物や環境への知識や興味を広げるとともに、参加者間でコミュニケーションしながら自分だけの作品を制作する等、作業を通して様々な人が交流する場となった。

開催日	開催場所	プログラム名	内容	参加者数（人）
11/19	拠点周辺、くると	『Nature Color Picnic』 島の色を探す会 1日目	染色に使用する植物や材料を、中高生の参加者でグループごとに島中を巡りながら、神津島ならではの植物や、媒染に使う温泉水、海水等を採取。	5
11/20	くると	『Nature Color Picnic』 島の色を探す会 2日目	前日に引き続き、参加者自ら採取した植物などを加工し、植物を煮込む作業や絞り作業、染色を楽しんだ。	9
	くると	『Nature Color Picnic』 草木染めを楽しむ会	「島の色を探す会」で活用した染色液などを活用し、拠点に訪れた人々が中高生とコミュニケーションをとりながら草木染を行った。	27 (内 高校生ボランティアスタッフ/3)

(3) アーティスト・プログラムin神津島／テニス Courts

ミュージシャン・テニス Courts とオリジナルの祭り『くると冬まつり2022』を企画。テニス Courts によるライブも同時開催し、拠点に様々な人が行き交う2日間となった。

開催日	開催場所	プログラム名	内容	参加者数（人）
12/3	拠点周辺、くると	耳と目を澄ませ！あささんぽ	テニス Courts が奏でる音を聴きながら走ったり、落ちているもので音を奏でるなど、自由に表現をしながら散歩を楽しんだ。	30
	くると	くるとみこしを完成させよう！ 楽器や衣装をつくってみよう！	翌日開催の『くると冬まつり2022』に向け、みこしにのせるオリジナルのだるまや、当日身に付ける衣装や楽器を制作した。	30
12/4	くると	くると冬まつり2022 ・うたって、ならして、くるとみこし ・おどって遊ぼう！冬でも盆踊り！ ・お楽しみ会	神津島に伝わる大漁節や盆踊りを踊ったり、テニス Courts が奏でる音楽や、参加者がそれぞれ作り出す音に親しみながら、リズム遊びをした。	60
	くると	テニス Courts スペシャルライブ	テニス Courts が拠点でライブパフォーマンスを行った。	34

(4) アーティスト・プログラムin神津島／大西健太郎

冬の神津島に激しく吹く季節風「にしんかぜ」から着想を得た架空の存在〈西ん竜風（にしんたっち）〉を探すための装置を色紙や厚紙をつかって制作。その装置を身につけて村中へ出かけ、路地裏や植込み、海等で「西ん竜風」を見つけに行ったらあと、訪れた先々で見た風景を拠点に持ち寄り、うたの句や絵にして参加者とかけ合う「うたかけ」の場をひらいた。目に見えない風について参加者が考えながらその捉え方や感じたことについて言葉や動作を交わし、多様な考え方に会える場となった。

開催日	開催場所	プログラム名	内容	参加者数（人）
9/25～28	くると	リサーチ	リサーチ内容：神津島内の商店や地元の人に話を聞き、神津島に伝わる文化について調査した。	7
1/19～23	くると、拠点周辺	西ん竜風（にしんたっち）	グループごとに風を視覚化するための装置を制作、実際にその装置を持って拠点周辺を探索した後、自ら見つけた風を言葉や身体で表現し、発表した。	35（内プログラムの 専門スタッフ/3）

3. 事業発信プログラム

(1) HAPPY TURN／神津島 Web サイト

ニュース、イベント、ブログページを運営し、活動内容を広く周知することを目指した。主にアーティスト・プログラム開催のお知らせやその後のレポートを中心に更新。事務局だけでなく、拠点スタッフが交代でレポートを執筆する等、多くの人の視点を取り入れた内容となった。

期間：令和4（2022）年4月～令和5（2023）年3月

投稿数（アクセス）：ブログ 11本（2,870ビュー）

ニュース 2本（1456ビュー）

イベント 5本（3,190ビュー）

（2）SNS

日々の拠点や活動の様子を知ってもらうために、InstagramとFacebookでの情報発信を行った。投稿の内容が地域の人とのコミュニケーションのきっかけになったり、アーティスト・プログラムの参加のきっかけになる等、事業発信における効果がみられた。

期間：令和4（2022）年4月～令和5（2023）年3月

Instagram投稿数：148回

フォロワー：981人

Facebook投稿数：91投稿

フォロワー：126人

（3）紙メディア「くるとのおしらせ」配布

昨年に引き続き、事業の周知を図るため、紙メディア「くるとのおしらせ」を制作。毎月島内の全家庭に配布し事業の告知や報告をした。

発行数：合計11号（29号～38号、特別号）

発行部数：各号860枚、特別号900枚

4. 事業運営基盤構築のためのリサーチプログラム

アートプロジェクトの現場を見学に行き、事務局やディレクターの方にプロジェクトの運営方法や実践、悩み、思いなどを伺った。様々な視点をもって物事を捉えることやプログラムの実践方法について考える機会となった。

期間	内容
10月～3月	訪問先：谷中のおかって パラエティロード 視察 東向山染田寺 YATO（旧東京アートポイント計画共催事業）ヒアリング 水戸芸術館現代美術センター 教育普及事業 高校生ウィーク 視察

【参加者の声】

● アーティスト・プログラムin神津島

- ・媒染液の種類が多く、組み合わせのパターンが多くて楽しかった。景色を思い浮かべながら染色ができて、またやりたい。
- ・最初は少し難しく見ただけではよく分からない物が多かったのですが、アーティストの方からお話を聞けて神津の歴史や逸話に興味を持つことができた。
- ・目の前にあるものが、見覚えがあったり知っているはずのものだったり場所なのに、こんなところにあったっけ？と思うような新しい一面を発見したり気づいたりしました。会場を出てからいつも見る風景が少し変わった感覚がしました。
- ・作る時間が楽しかった。みんなで作ったものを持って風を探しに行けて良かった。

24

Artist Collective Fuchu [ACF]

【事業概要】

開催期間	令和4年（2022）年4月～令和5年（2023）年3月
会 場	東京都府中市各所、オンライン特設ページ
主 催	東京都、公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京、特定非営利活動法人アーティスト・コレクティブ・フチュウ
協 力	玉川石材工業株式会社、株式会社TOKIO Lab、日本光具株式会社、一般社団法人まちづくり府中、株式会社F.F.P.、株式会社協和、樋口鞆工房株式会社、株式会社サーカス、サトー洋裁教室、矢島歯科医院、GREEN
参加者数	1,515人

【事業趣旨（目的）】

府中市を中心に、日々の生活に視点を向けた、身近なところにある「表現」を通して「だれもが表現できるまち」を目指すプロジェクト。アーティストのみならず、職種や年齢も多様なメンバーが集うACFが、個人の思考や感覚を伝え合う場づくりや互いの違いを尊重できる土壌づくりを目指す。

【開催状況】

1. コミュニティサロン事業

(1) null - 自由な場所とアートなこと -

多様な価値観が混ざり合い文化的なアート自治コミュニティをつくるためのプロジェクトです。アートを軸にした多様でディープな人と人、人と場所、人とコトのネットワークを広げていく事業。

今年度は、大東京綜合卸売センター内の新拠点「やど(仮)」(読み方:やどかり)での活動を中心に実施。市場の方々との交流が増え、企画の提案をいただくなどACFの新たな展開を生むきっかけとなった。

開催日	会場	プログラム名	内容	入場者数（人）
8/1～8/6	大東京綜合卸売センター内「やど(仮)」	イメージビジュアル展	null vol.1～7までの「null」をテーマにしたイメージビジュアルの展覧会を開催。	133
2/1～2/18	大東京綜合卸売センター内「やど(仮)」、ズッコロッカ、ココロータス、アジアニール、府中観光協会、オンライン	null vol.8「自分でつくったもの」	「自分でつくったもの」を大東京綜合卸売センター内のスペース「やど(仮)」や、その周辺店舗に設置されたポストカードに記載。Instagramなどに投稿し、共有し合った。	40
2/18	大東京綜合卸売センター内「やど(仮)」	null vol.8「自分でつくったもの」イベント	アートオークションの形式で「自分でつくったもの」を紹介し合いながら、それぞれの表現や関心をもとに地域住民と交流を深めた。	7

(2) ラッコルタ - 創造素材ラボ -

地元企業から提供された不要な部材を、創造活動に転用する仕組みづくり。アーティストのワークショップを通じて、子供や大人が素材から発想した表現活動に取り組み、新たな視点を培うことを目的としている。

今年度は素材提供先の企業を増やす、「ラッコルタ」のワークショップを実施する、市との連携強化のため他の課の事業でのプログラム展開を目指した。

開催日	会場	プログラム名	内容	アーティスト	参加費（円）	入場者数（人）
6/6～6/30	オンライン特設ページ	環境まつり2022 「ラッコルタ-創造素材ラボ-」紹介	地球温暖化防止、自然保護、ごみ減量や3R推進等、環境について楽しみながら学び、考えることができるイベントとして、環境月間である6月に「府中環境まつり」をオンラインで開催。特設ページ上に、ラッコルタの紹介映像にて参加。	—	無料	—
9/10	府中市生涯学習センター3階 研修室3-1	生涯学習フェスティバル「ラッコルタ-創造素材ラボ-」ワークショップ	段ボール梱包材やランドセル合皮、端布などの廃材を使って、二次元から三次元へパズルのように素材を組み合わせ、自分だけのカタチを立ち上げるワークショップ。	—		56
10/9	府中市生涯学習センター2階 研修室2-1 2-2	市民文化の日「ラッコルタ-創造素材ラボ-」ワークショップ		—		21
10/29	片町文化センター3階 第二会議室	地域文化祭（片町文化センター）「ラッコルタ-創造素材ラボ-」ワークショップ		—		55

開催日	会場	プログラム名	内容	アーティスト	参加費（円）	入場者数（人）
11/23	武蔵野プレイス 4F フォーラム	Artpoint Meeting #10 - アートがひらく、“学び” の可能性 -	セッション2「新たな“学び”の循環 をつくる～創造素材ラボ「ラッコル タ」の取り組みから」に登壇。ラッ コルタの仕組みや活動の事例につ いて報告した。	—	無料	—
11/26	府中市市民活動セン ター プラッツ6階 第 1会議室	第8回府中市民協働まつ り「ラッコルタ-創造素材 ラボ-」ブース出展	段ボール梱包材を使ったワーク ショップやラッコルタの活動事例を パネルや刊行物で紹介し、企業から 提供いただいた素材を展示した。	—		60
2/19	府中市生涯学習セン ター 3F 和室(談話 +工房1(工作)	ラッコルタ - 創造素材ラ ボ- vol.2「いしのこえと みかげ」ワークショップ	墓石を扱ってきた玉川石材工業株式 会社の資材協力のもと、アートユ ニット・MATHRAXによる「石に ふれて石の声をきく」ワークショッ プを開催。	MATHRAX	500	33
3/4~3/12	府中市郷土の森博物 館 旧田中家住宅	ラッコルタ - 創造素材ラ ボ- vol.2「いしのこえと みかげ」展覧会	ワークショップ参加者とともにつく り上げた作品の展示、講師の MATHRAXの活動や素材提供会社 へのインタビュー映像などを展示し た。		無料	1,078

(3) 拠点形成事業 「やど(仮)」プロジェクト

府中市場の遊休スペースを無償提供で利用開始し、「やど(仮)プロジェクト」を始動。作品展示や上映会の他、アートワークショップやイベントなどの開催の場として活用した。

開催日	会場	プログラム名	内容	アーティスト	入場者数（人）
7/10	大東京綜合卸売センター内「や ど(仮)」	やど(仮)お披露目会	アートに関わる交流の場、ACFの活動の場 として紹介。	—	20

(4) まなばあーと

日常の暮らしの中に「自分らしい表現・発想」を見出す、新しい学びの場。様々な実践者へのヒアリングを行うこ
とで、身近なところに視点を向け、当たり前を解きほぐし、新たな気づきをもたらすリサーチプログラムを実施した。

今年度は、同じアートポイント計画の団体であるNPO法人 アートフル・アクションと交流することで、アートを
媒介とした「まなび」の可能性について、個人、団体として考えるきっかけとなった。

開催日	プログラム名	内容	入場者数（人）
7/24	東京アートポイント計画 団体 交流会	NPO法人 アートフル・アクションとの交流会を実施。アートフル・アクションの活 動や団体運営、自治体連携についてヒアリングを行った。	12

2. メディアプログラム

(1) Airtist Collective Fuchu presents「おとのふね」

府中に住むアーティストの活動や市内のアートイベント情報など府中のアートシーンをゲストと共に盛り上げてい
くことを目的としたラジオ番組。コミュニティラジオ・ラジオフューズと連携し、毎月第1火曜日の22時から30
分間「Artist Collective Fuchu presents『おとのふね』」を継続的に配信した。

今年度は野外での収録などに挑戦し、ゲストの活動エリアに寄り添うことを目指した。また、「ラッコルタ-創造
素材ラボ-」、「null」のレポートなどのACFの事業やイベントをタイムリーに伝えることに注力した。また、新たに
Podcastのアカウントを開設し、新たなリスナーの獲得を目指した。

開催日	会場	プログラム名	ゲスト	視聴者数（人）
4/5	とりときハウス カフェ	talk31	佐藤嘉久（株式会社慈久舎代表 とりときハウスギャラリー運営）	5,000人程度 （地上波及びWEB配信）
5/3	マルジナリア書店	talk32	小林えみ（マルジナリア書店オーナー、出版社よはく舎代表）	
6/7	府中乃森珈琲店	talk33	つん【tsun】（画家、写真家）	
7/5	清田写真スタジオ	talk34	寄田みゆき（漫画家）	
8/2	FLAT STAND	talk35	糟谷明範（株式会社シンクハビネス）	
9/6	株式会社サーカス	talk36	木村康子（株式会社サーカス 代表取締役）	
10/4	レストラン サンテリア	talk37	遠藤尚子（フルート奏者、府中国際友好交流会理事）	
11/1	Co-study space Posse	talk38	関谷昂（タウンコーディネーター）	
12/6	大國魂神社及び周辺エリア	talk39	西郷昌高（府中トコロジスト、つなぎすと府中）	
1/3	ギャラリーゆうき	talk40	高木有規（石の彫刻家）	
2/7	レストラン サンテリア	talk41	高橋真美（グラフィックデザイナー、フォトグラファー）	
3/7	大東京総合卸売センター内「やど(仮)」	talk42	佐藤翔子、山浦靖彦（Airtist Collective Fuchu null運営スタッフ）	

（２）かわら版「かみひこうき」

アート×人×府中をテーマに府中の面白いコト、人、場所を紹介するかわら版「かみひこうき」。編集も記事の執筆も未経験の編集部員が毎回試行錯誤しながら発行。

今年度は、店舗に置きやすく手にとってもらいやすいように、４号から判型をA5に変更。内容は、特集記事とACFのプロジェクト紹介を掲載し、特集記事では市内の興味のある場所、人に焦点を当て取材を行った。府中市内の施設やアートギャラリー、50箇所にて配布した。

・かわら版「かみひこうき」４号（2022年８月発行）

特集記事：星屋・船橋直世

プロジェクト紹介：null

発行部数：2,300部

・かわら版「かみひこうき」５号（2023年２月発行）

特集記事：卸売センター・守本夏美

プロジェクト紹介：拠点事業

発行部数：2,400部

（３）公式ウェブサイトの整備

各事業ごとに、ニュースやレポートの掲載を定期的に更新。また、ラッコルタページの大幅な改修を行い、より素材の詳細や企業側の関わり方について分かりやすいように改良した。

・Artist Collective Fuchu [ACF] 公式ウェブサイト

<https://acf-tokyo.com/>

ページビュー数：15,763回

【参加者の声】

● null - 自由な場所とアートなこと -

- ・ゲームとして面白いフォーマットで色々なテーマで出来そう。
- ・子どもたちと名画をオークションするなど価値を考える機会になるのではないか。

● ラッコルタ - 創造素材ラボ - vol.2 「いしのこえとみかげ」 ワークショップ

- ・石を通じてその意味を考え直すことができました。「つながる・関係をさえる」反対の意味を持っていて面白いと思いました。
- ・「石の声を聞く」とはどういうことなんだろうという興味から参加しましたが、石の歴史や人と石の関わりなども知ることができて興味深かったです。石を通じて音や光、風とつながる体験も印象的でした。
- ・作品の制作過程に触れられて良かった。最後に全員の石をつなげて、様々な音、色、風の反応をみんなで共有できたのが良かった。
- ・普段写真を撮っているのでも、“見えないもの”をイメージすることがいつも役立つと感じています。今日のWSも、石とその石がどのような記憶を持っているか、など想像力を働かせるきっかけになりました。自分のアクションが音や光に変換されることで一帯感が生まれますね！

25

ファンタジア！ファンタジア！
—生き方がかたちになったまち—

【事業概要】

実施期間 令和4（2022）年4月～令和5（2023）年3月

主要な履行場所 東京都墨田区東向島 ほか

主 催 東京都、公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京、一般社団法人藝と

協働団体 墨田区、「隅田川 森羅万象 墨に夢」実行委員会、社会福祉法人興望館、向島学会、寺島・玉ノ井まちづくり協議会

参加者数 278人

【事業趣旨（目的）】

東京都墨田区北部（以下：墨東エリア）の文化的な生態系の変化がそれぞれの営みを豊かにする循環を目指すことで、まちをひとつの“学びの場”へと見立てていくプロジェクト。個々人の意思でしなやかに変化する墨東エリアで創造される“学び”が、ともすれば硬直しがちな地域内部の関係性をやわらかくする機会をつくり、次の墨東エリアをかたちづくる萌芽を育てることに繋がることを目指す。

【開催状況】

1. プラクティス 展覧会『共に在るところから／With People, Not For People』

墨田区で100年以上活動を続ける社会福祉法人興望館と共催で取り組む「プラクティス」の一環として、令和3（2021）年度に引き続きアーティストの碓井ゆいを招聘し、京島にある社会福祉施設「興望館」と協働して地域福祉とアートの繋がりを考える展覧会を開催した。

開催日	会場	プログラム名	内容	アーティストほか	参加者数（人）
11/5、6、12、13、19、20、23、26、27	興望館 別館	展覧会『共に在るところから／With People, Not For People』	1919年創業当時の興望館の資料からリサーチを通して創作した日記や、地域の方々と協働した刺繍作品を制作。展覧会では、会場1階に「興望館とセツルメント」についての歴史、2階に碓井のインスタレーション《家は歌っている》を展示した。	碓井ゆい（アーティスト）	329
11/20～	オンライン	関連イベント トーク配信「アートのやわらかな社会実装」	アーティストの碓井ゆい、児童福祉施設で実践の経験を持つ堀内奈穂子と共に、現代社会においてアートをどのように社会化することができるかについて語り合った。	碓井ゆい、青木彬、堀内奈穂子（NPO法人アーツイニシアティブトウキョウ [AIT/エイト] / dear Me プロジェクト）	335
11/26	興望館 本館	オープンディスカッション 「創造的な地域福祉を目指して」	アート、福祉の分野に関わる人々が参加し、グループに分かれてディスカッションを開催。それぞれの視点から考える「アートと福祉」について意見交換を行った。	—	18

2. ファンファン倶楽部

「安心して“もやもや”しよう」を合言葉に、事業のコンセプトを共有するコミュニティづくりを目指す企画『ファンファン倶楽部』。第4期となる今回は、活動期間を3つのシーズンにわけ、応募した部員と「もやもやを安全に扱う技術」を探った。各シーズンの初回にゲストを招き、ワークやディスカッションを受け、その後の活動で部員がそれぞれ自分なりの「もやもやを安全に扱う技術」について考えた。

開催日	会場	プログラム名	内容	ゲスト	参加者数（人）
7/3、17、8/7、21、9/4、18、10/2、16、11/6、20、12/4	藝とスタジオ、墨田区東向島周辺、オンライン	ファンファン倶楽部第4期	シーズン1「ファンファンする準備体操」 シーズン2「自分の「もやもや」探し」 シーズン3「共に「ファンファン」する」	mi-ri meter（アーティスト／建築家）、サトウアヤコ（アーティスト）、西村佳哲（プランニング・ディレクター）	8
10/15	たもんじ交流農園		寺島なす、マリーゴールドなど、たもんじ交流農園にある植物から煮出した染液で布を染め、暖簾を制作。	山本愛子	17

3. スミログ オープンスタジオ

アーカイブについて考える場を毎月1回定期的に開催。アーカイブを持ち寄って会話する「アーカイブポットラックパーティー」、チラシなどの広報物の年代別整理とファイリング、独自に作成しているイベントリストの入力をはじめ、地域型アートプロジェクトのアーカイブに関連する様々なトピックについての話し合いを行った。またスタジオ内だけでなく、曳舟図書館のリファレンスサービスを利用したり、プラクティスの協働団体である興望館の資料室の見学に伺うなど、課外活動にも取り組んだ。

開催日	会場	参加費	参加者数（人）
4/17、5/15、6/19、7/17、8/21、9/18、10/16、11/20、12/18、1/15、2/26、3/1	藝とスタジオ、曳舟図書館など	無料	30

4. ファンファンレター

プロジェクト情報が発信される紙面からだけではなく、制作の過程からも対話を生み出す「ファンファンレター」は、事務局メンバーでの制作を中心としながら、「ファンファン倶楽部」「スミログ」など他のプログラムの実施とタイミングを合わせて制作し、参加者と共にレターを制作する機会を創出した。完成したレターは藝とスタジオや近隣のカフェなどに設置し、地域の方々にファンファンの情報を届けることができた。

発行数：合計10号（57号～65号、臨時号）

作成部数：各号約200枚

SNS掲載：事業のFacebookページ

5. 広報宣伝活動

（1）メディア掲載

「プラクティス」では展覧会の開催に向けて、アート系メディアを中心にプレスリリースを送付するほか、メディア関係者らへ個別に広報を行い、告知およびレビューが公開された。

掲載日	掲載メディア	内容
11/4	art scape	展覧会「共に在るところから／With People, Not For People」
11/18	こここ	
12/29	Tokyo Art Beat	

（2）イベント登壇

「スミログ」や「プラクティス」等それぞれのプログラムに関わる協働団体からの依頼で、外部イベントへ登壇した。

登壇日	イベント名	登壇者
9/16	Tokyo Art Research Lab	青木彬
11/1	すみゆめ2022寄合	スミログ（ヨネザワエリカ、磯野玲奈）
2/18	第27回全国福祉施設研修会	青木彬

6. 公式ウェブサイト等運営状況

（1）公式ウェブサイト

現在の活動を効果的に発信を目指し、初めて事業を知った人にもわかりやすくプロジェクト内容を伝えるためのアーカイブの整理などの必要性から、ウェブサイトのリニューアルを行った。（<https://fantasiafantasia.jp/>）

（2）Facebook

投稿数：54件

フォロワー：641人

（3）新規SNSの開設

事業の様子を即時的に発信することや、事業の背景や情報発信を目指し、新たにInstagramとnoteを開設した。

Instagram

投稿数：48件

フォロワー：158人

note

投稿数：4件

全体ビュー：182

7. 発行物

- ・「ファンタジア！ファンタジア！一生き方がかたちになったまちー」パンフレット
発行部数：2,000部

【参加者の声】

- プラクティス展覧会『共の在るところから／With People, Not For People』
 - ・「アート」や「まちづくり」に関心があっても、言葉や概念の大きさに圧倒され、自分がどのように関わることができるのか、わからないまま切り離されてしまうことが多いと思います。今回の展示はまさに日常の実践と「アート」や「まちづくり」がグラデーションであると感じ、実は身近なところに自分が関わる場はあると感じました。
- ファンファン倶楽部
 - ・自分のもやもやがすべて見事に解決した！というよりも、あ～楽になった～という感じ。みんなもやもや悩んでいることがあることを知れたのも良かったし、それを共有できる場所ができたことがうれしかった。
- スミログ
 - ・子供が保管されたチラシを見ながら「これやったの覚えてる！」とコメントをしていた。

26

移動する中心 | GAYA

【事業概要】

開催期間	令和4（2022）年4月～令和5年（2023）年3月
会場	オンライン、世田谷区内
主催	東京都、公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京、公益財団法人せたがや文化財団 生活工房、特定非営利活動法人記録と表現とメディアのための組織 [remo]
参加者数	44人

【事業趣旨（目的）】

昭和の世田谷をうつした8ミリフィルムのデジタルデータを活用し、映像を介して、それぞれの記憶や想像を持ち寄り、語り合うことのできる交流の場を創出するコミュニティ・アーカイブプロジェクトを実施する。市井の人々の記録である映像の再生をきっかけに紡がれる個々の語りを拾い上げ、プロジェクトをともに動かす担い手づくりを目指す。それによりローカルな記録や記憶を地域全体で分有するための持続可能な仕組みづくりを行う。

【開催状況】

1. 声を拾う仕組みづくり（人材育成）

8ミリフィルムの映像からサンデー・インタビューーズが語りを引き出すための「問い（気づきや疑問）」を映像から発見的に見出す方法をさぐり、〈みる、はなす、きく〉の3ステップとしてまとめた。とくに今年度は〈きく〉を重点的に試行して方法全体の仕上げを行った。資料や有識者にあたるだけでなく、身近な人や自分自身の記憶にたずねることで、参加者それぞれの動機や関心に即した語りを引き出した。

活動メンバー（サンデー・インタビューーズ）は新規で公募し、6名を受け付けた。ロスジェネ世代を中心に参加者を募り、2022年度は合計7回のオンライン・ワークショップを第4日曜日に実施した。また、昨年度からの継続参加者の枠において3回の勉強会とワークショップを実施、本活動の3つのステップ（みる、はなす、きく）を実践的に取り組んだ。映像をきっかけに自身の経験を振り返ったり、身近な人の話を聞いてオーラルヒストリー（口述の生活史）を採集したり、当時を知るための文献や資料にあたったりすることでメンバー個々の関心を掘り下げた。

開催日	会場	プログラム名	内容	参加者数（人）
4/24	オンライン	第1回勉強会	いろんな〈きく〉の事例紹介	44
5/22	オンライン	第2回勉強会	ゲストレクチャー 橋本倫史（ライター）	
6/26	オンライン	第3回勉強会	自分の〈きく〉を掘り下げる	
7/24	オンライン	第1回オンライン・ワークショップ（2022）	自己紹介、はなす『東京転動』	
8/28	オンライン	第2回オンライン・ワークショップ（2022）	きく『東京転動』、はなす『新百貨店落成式など』	
9/25	オンライン	第3回オンライン・ワークショップ（2022）	きく『新百貨店落成式など』、はなす『新幹線試乗』	
10/23	オンライン	中間報告会	わたしの〈きく〉中間報告	
10/23	オンライン	第4回オンライン・ワークショップ（2022）	きく『新幹線試乗』、はなす『井の頭公園』	
11/27	オンライン	第5回オンライン・ワークショップ（2022）	きく『井の頭公園』、はなす『No.1』	
12/25	オンライン	第6回オンライン・ワークショップ（2022）	きく『No.1』、振り返り	
1/22	オンライン	第7回オンライン・ワークショップ（2022）	全体の振り返り	

2. アーカイブセンターの設計（環境整備）

コロナ対策のため、オンライン会議サービス（Zoom）とチャットツール（Slack）を用いて、オンラインでの活動環境を整備した。また、世田谷区内の施設や隣接分野との協働を図った。情報の相互提供や事業における実施協力等の体制づくりを試みた。

3. 広報・発信・調査

本事業の活動周知のためnoteで発信を行い、ライターの橋本倫史氏によるワークショップのドキュメント（「サンデー・インタビューーズをめぐるドキュメント2021」9記事、「2022」9記事）と参加者の発言録（4記事）を掲載した。さらに、本事業と隣接領域との接点をさぐるため、リサーチャーの神野真実氏とともに、ケアの現場に携わる方々との世田谷区内でのリサーチレポートをnoteに掲載した（「ポスト・ムービー・トレイルー昭和の8ミリを携

えて街を歩く」6記事)。また、前年度に開設したサンデー・インタビューーズの特設サイトを更新し、ワークショップに取り組んだ参加者の事例を、映像のワンシーンやイラストとともに掲載した。

- ・ note
https://note.com/gaya_2020
- ・ サンデー・インタビューーズ 特設ウェブサイト
<https://aha.ne.jp/si/>

【参加者の声】

- ・ 「そうそう、これはね…」と嬉しそうに語るお年寄りの顔。サンデー・インタビューーズと聞かれて、一番に思い出すイメージ。私は介護施設で働いていて、世田谷クロニクルに掲載されている8ミリ映像を、レクリエーションの時間に使っている。そこで冒頭のような、お年寄りの普段は出せない発言や思い出を聞けることがある。出てきた発言や聞いた情報（例えば、雪だるまの顔は炭団（たどん）を使っていた、とか）は、すぐにメンバー共有のSNSにあげる。そこでのリアクションが楽しみだからである。今までは、職場で聞いてすごく貴重な話だと思っただけでも自分の中でメモするしかなかった。それが一緒に興奮してくれる仲間に出会えたことが、このプロジェクトに参加して一番良かったことだったと個人的には思う。
 毎月のワークショップの課題映像があったから、職場でも見ようと取り組めることができた。そして、映像を見る→思い出を聞く→メンバーに共有する、という良い循環が出来ていたように感じる。ワークショップの他のメンバーの発表には、毎回驚かされることが多かった。自分にはない発想、狂気にも似た調査の執念…。慌てて紙を取り出してたくさんメモを取っていたのだが、情報量が多く処理しきれないほどだった。あのメモたちはどこに紛れてしまったのだろうか。いつか部屋のどこかで出会ったら、サンデー・インタビューーズにまつわる沢山のことを思い出すことだろう。
- ・ この半年間、新しい視点の発見がありとても楽しかったです。ケアを生業にする私たちと大切にしているものが重なりながらも、見つめている立ち位置や大切にする方法が異なっていて、ハッと気づかされることが度々ありました。世田谷クロニクルと一緒に見た100歳の方のお看取り前の最期の時間で、「わざわざ映像と一緒に見たこと」の「わざわざ」が引っかかりになり、ふたりの共通した記憶として語り合えた手ごたえは、今後また多くの人と向き合っていくときのケアの引き出しになりそうです。

27

ACKT（アクト／アートセンタークニタチ）

【事業概要】

開催期間	令和4（2022）年4月～令和5（2023）年3月
会 場	東京都国立市 ほか
主 催	東京都、国立市、公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京、公益財団法人くにたち文化・スポーツ振興財団、一般社団法人ACKT
参加者数	113人

【事業趣旨（目的）】

本事業は、子育て、福祉、高齢化問題、インキュベーションなど様々な地域課題について、アートプロジェクトを通して横断的に協働する場所や交流の機会をつくり、国立市および多摩地域の人々の生活の質を高めることを目指す。「文化と芸術が香るまちくにたち」の実現を掲げ、令和元年度に開始した国立市文化芸術推進計画に基づき、市内外の文化活動や様々な分野の担い手との連携を軸とした事業展開を行う。

【開催状況】

1. 事業コーディネート体制づくり

今年度は、国立市において見えにくい地域課題に触れるためのアプローチを検討するべく、市民、自治体職員、地域活動団体等とのネットワーク形成に重点を置く体制づくりに取り組んだ。また、主催4者が中長期でプロジェクトを遂行するため、その基盤となる主催間の意識共有を深めるワークショップや勉強会、事例研究などを今後も実施していくことを確認した。

2. 拠点形成事業「遊〇地（ゆうえんち）」

空き家や空き地など、活用されていないスペースに新たな光景や交流を生み出すプログラム。今年度は、地域の様々な活動や情報のプラットフォームとなる拠点形成のため、JR南武線谷保駅南口至近の「旧さえき洋品店」を、ACKTの拠点として定め、「さえき洋品●（てん）」と名付けた。

また、同じく候補として挙げていた国立市が管理している「城山公園」および「城山さとのいえ」については、谷保エリアへの回遊につながる資源として、ワークショップ「谷保村式土器」の会場として活用した。並行して、遊休地のリサーチにおいて発掘した緑地帯「大学通り」では9月の約2週間、まちの人たちと交流する機会を生み出すプログラム「・と-TENTO-」を実施した。

開催日	会場	プログラム名	内容	アーティスト	料金	入場者数（人）
9/10～9/25 (火・水・土・日)	大学通り緑地帯	・と-TENTO-	普段なら見逃してしまいそうなまちの隙間にランドマークとなるテントを設置し、まちの縁側のような中間領域を生み出すことで、まちの人たちと交流する機会を生むため実施。	—	無料	98
12/4、11	城山公園	谷保村式土器	田んぼや畑、湧水など豊かな自然が残る谷保エリアの地域性を手で感じ、学ぶ土器づくりのプログラム。	熊谷幸治（土器作家）	無料	15

3. リサーチ・発信事業

「アートに興味関心がない」「まちに目を向けていない」という人々が、アートやまちに対して興味を持つ状況をつくるために、各地で実践されている文化芸術活動の担い手の活動や仕組み等について「場づくり」「体制」「アートプロジェクト」等の観点からリサーチし、記事の発信に取り組んでいる。

今年度は特に、ACKTの概要や「遊〇地」の活動報告、リサーチ等のアウトプットの場として、フリーペーパー「〇ZINE（エンジン）」を創刊し、まちへの新たな視点を発信した。

(1) リサーチ取材

開催日	会場	リサーチ先
10/20	国立市富士見台（スナック水中）	坂根千里（スナック水中）
10/28	東京都町田市（築田寺）	齋藤紘良（「500年のcommonを考えるプロジェクト『YATO』」ディレクター、築田寺副住職、保育園理事長、音楽家）
11/17	足立区千住仲町（仲町の家）	吉田武司（「音まち千住の縁」ディレクター）、山本良子（「仲町の家」コーディネーター）

(2) ○ZINE (エンジン)

ACKTの概要や「遊○地」の活動報告、リサーチ等のアウトプットの間として、フリーペーパー「○ZINE」を刊行した。今年度はACKTの概要や取組、運営メンバーの紹介等を主とした名刺代わりのパンフレットをVol.00として制作し、「と-TENTO-」等における市民の方々との交流ツールとして活用した。また、Vol.01として「文教都市・くにたち」をテーマに多様な学びについて考える機会を提供した。

・ ○ZINE Vol.00

発行日：令和4（2022）年9月10日

発行部数：2,000部

・ ○ZINE Vol.01

発行日：令和5（2023）年3月14日

発行部数：2,000部

(3) 発信事業

・ ACKT公式ウェブサイト

ACKTの取組みを広く発信するため、公式ウェブサイトにおいて、「ニュース」「イベント」「レポート」「遊○地」等の更新・発信を行った。イベント情報の発信等に活用したものの、情報発信の回数が限られてしまったため、今後は、「○ZINE」での取材を再構成したレポートや、「さえき洋品●」における取組等を軸に、情報発信を充実させていく。

期間：令和4（2022）年4月～令和5（2023）年3月

投稿数：ニュース1本／イベント2本／レポート1本

・ SNS

日々の取組や、リサーチ取材の報告、イベントの告知・報告等を伝えるため、ユーザーの異なる「Instagram」「Twitter」「Facebook」による発信を行った。しかし、ウェブサイト同様、プログラムごとの限られた発信に留まってしまったため、次年度では情報発信の方針づくりや体制などを改めて検討し、効果的な運用を目指す。

・ Instagram

<https://www.instagram.com/ackt186>

期間：令和4（2022）年4月～令和5（2023）年3月

投稿数：13本

フォロワー：81人

リーチ数：662人

・ Twitter

<https://twitter.com/ackt186>

期間：令和4（2022）年4月～令和5（2023）年3月

投稿数：13本

フォロワー：34人

インプレッション：7,768件

・ Facebook

<https://www.facebook.com/ackt186>

期間：令和4（2022）年4月～令和5（2023）年3月

投稿数：10本

フォロワー：94人

リーチ数：969人

【参加者の声】

● 谷保村式土器

- ・素晴らしいプログラムでした。土を掘る所から（しかも近所の公園）つくれるプログラムはなかなかないと思います。また、“現代科学では解明されていないけど土は生きている”とか“土の記憶”、“もともと美しい自然の形を型どると美しいものになる”等のお話も面白かったです。本能にひびくようなプログラムでした。ありがとうございました。
- ・なかなかこういうプログラムは大人より子供中心のものが、多いと思いますが、大人が参加出来る機会をありがとうございました。
- ・土を掘ってから焼くまで全て体験できるなんて貴重な体験をさせていただけて大満足です。のんびりした感じでできるのもすごく良かったです。場所もここで出来て良かった！自分でもう一度やってみたいけど焼くのが大変ですね…。
- ・粘土から掘って土器をつくるという体験をずっとしてみたかったのでとても良い機会でした。思いがけず、陶芸の知識も得られて良い経験でした。

28 多摩の未来の地勢図 Cleaving Art Meeting

【事業概要】

開催期間	令和4年（2022）年4月～令和5年（2023）年3月
会 場	東京都多摩エリア ほか、オンライン
主 催	東京都、公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京、NPO法人アートフル・アクション
参加者数	1,101人

【事業趣旨（目的）】

多摩地域の「地勢」を探ることを通して、一人ひとりが自分の暮らす足元を見つめ直すプロジェクト。平成23（2011）～令和2（2020）年度に東京アートポイント計画と共催したNPO法人アートフル・アクションが、多摩地域における中間支援的な働きをしながら事業を実施する。教育機関や福祉施設等との連携プログラム、アーティストと協働したりサーチプログラムなど地域の特性や社会課題にตอบสนองし、多様な人々と協働した文化事業を展開している。

【開催状況】

1. 多摩の未来の地勢図をともに描く ― あわいを歩く

多摩地域の文化的、歴史的特性などをふまえ、参加者一人ひとりが、今自分が住んでいる足元を見つめ直し、現代の暮らしや社会課題に向き合うための方法を模索する連続ワークショップ。今年度は「あわいを歩く」をテーマにプログラムを設計し、ワーク／レクチャー4回、フィールドワーク2回、フィールドノート4回のワークショップ、9回のシェアスタジオ、参加者の自主的な展示「あわいを歩く一気づきの共有展」を実施した。公募により、全17名（多摩地域15名、福島県1名、神奈川県1名）の参加応募があった。また、今回のワークショップの動向をトレースした記録冊子「あわいを歩く一途中の地図」を「あわいを歩く一気づきの共有展」のために制作した。参加者が実際にフィールドを歩き、考えることで議論を深めていくプロセスを重視した。

開催日	会場	プログラム名	講師	参加者数（人）	
				オフライン	オンライン
ワーク／レクチャー					
9/18	オンライン、小金井市環境楽習館	第1回「出会う身体を整える」	花崎攝（シアター・プラクティショナー、野口体操講師）	9	2
11/5	オンライン、たまれ（Share box Space、府中市）	第2回 「未知に出会う歩み」	なかのまさき（写真家）	7	2
12/10	オンライン、小金井市環境楽習館	第3回「出合いの作法」	曾我英子（アーティスト）	6	2
2/26		第4回 「あわいの今を探り、伝え合う」	花崎攝（シアター・プラクティショナー、野口体操講師）	8	1
フィールドワーク					
10/8～10/9	オンライン、福島県 飯館村	第1回「東京－飯館村のあわい」	菅野栄子（アーティスト）、藤城光（アーティスト、デザイナー）	5	4
2/4～2/5	オンライン、福島県 大熊町	第2回「大熊－東京をか身交う」	木村紀夫（大熊未来塾塾長）、花崎攝（シアター・プラクティショナー、野口体操講師）	4	5
フィールドノート					
10/23	小金井市環境楽習館	第1回「経験的道路のプロジェクトをめぐって」	岩井優（アーティスト）	5	2
11/20	多摩市内	第2回「経験的道路のプロジェクト #1」		10	—
12/24	栃木県宇都宮市	第3回「経験的道路のプロジェクト #2」		7	—
1/8～1/9	福島県郡山市	第4回「経験的道路のプロジェクト #3」		4	—
シェアスタジオ					
11/13～11/19	小金井アートスポット シャトー2F	VOL 1～岩井優とのシェアスタジオ	岩井優（アーティスト）	20	—
1/11		VOL 2－1～とりあえず話してみる		3	—
1/19		VOL 2－2～「記録のその先」		5	—
1/21		VOL 2－3～とりあえず話してみる		4	—
2/8		VOL 2－4～とりあえず話してみる		4	—
2/13		VOL 2－5～とりあえず話してみる		3	—
2/18		VOL 2－6～とりあえず話してみる		5	—
2/26		VOL 2－7～とりあえず話してみる		5	—
3/1		VOL 2－8～「埋める」		5	—

開催日	会場	プログラム名	参加者数（人）
自主展示・関連イベント			
3/7～3/31	小金井アートスポット シャトー2F ギャラリー	「あわいを歩く一気づきの共有展」	150
3/17		参加者による関連イベント「張り子づくり」	
3/19		参加者による関連イベント「酒饅頭×哲学対話」、「途中の地図を組む」、「モモのお茶会」	
3/25		参加者による関連イベント「ボランの広場 オリジナル劇場」	
3/26		参加者による関連イベント「「飯館村の母ちゃんたち ～土とともに」上映会」、「モモのお茶会」	

2. たましらべ

自身の立つ場所や居場所をより多層的・多角的に認識するために、土地に積み重なる土壌、自然、歴史、文化、暮らし、人、様々なことを、それぞれが少しずつ考え、知り、見つめ直す試み。ひと月に2回程のペースで独自に調べたことを持ち寄り、共有し、議論した。月2回の開催に加え、10月には、多摩地域の地域信仰に関心を持つ参加者が企画した上映会「オオカミの護符」上映会&トークショーを実施。上映後は、製作者の小倉美恵子をゲストに迎え、来場者を巻き込んだ座談会を行った。

開催日	会場	プログラム名	参加者数（人）
4/25	オンライン	「多摩に住む人はどこからきたのか」	9
5/16		「伊勢原の気になること」	9
6/6		「ジブリのゆかりの地」	10
6/27		「オオカミの護符について」	7
7/19		「リヒターを起点に皆で話す」	8
8/9		「お散歩フォト」	9
8/30		「コロナの終わりにについて」	9
9/14		「宗教」	10
10/2	小金井アートスポット シャトー2F	「オオカミの護符」上映会&トークショー ゲスト：小倉美恵子（作家）	25
10/12	オンライン	「お墓について」	11
10/26		「大島青松園」	9
11/10		「さざなみハウス」	8
11/29		「国道6号線」とか」	7
12/12		「アートなんかいない！」	7
1/16		「気違い部落」をめぐって」	10
1/30		「気違い部落」のその後」	10
2/20		「多摩の郷土料理」	10
3/6		「芸術祭の今を考える」	10

3. ざいしらべ

多摩地域の小学校の図工専科教員を対象に、個人では手に入れにくい自然素材の提供、伝統的な技術や技法、素材に関するワークショップ等を企画、実施。それらを通して技術が持つ広がりや役割、歴史的な背景について知見を深めていった。さらに、多摩地域教員が使用可能なウェブサイトを作成し、素材や技術に関する情報、ワークショップや授業の様子に関する記録を整理し、そこにアーカイブすることで、教員間や教員と資材を産出する地域とのネットワークの形成を図った。

今年度は、多摩図研夏の研究会、西多摩小教研、昭島市教研、町田市教研、東村山市教研並びに日出町立本宿小学校、小金井市立第四小学校などとのワークショップの実施のほか、ワークショップへの参加教員へのインタビューの実施、町田市のクラフト工房LaManoなどの団体との連携を行った。

開催日	会場	プログラム名	内容	ゲスト	参加者数（人）
5/5	東村山市立南台小学校	重たいものを運んでみる	東村山市立南台小学校で利用した樹木の根っこや丸太などを再利用するため、安全を確保しながら運搬。滑車を組んで持ち上げるため、ローピング、滑車の仕組みの活用について学んだ。	前田幸則（建築家、元ヨット競技日本代表）	6
6/8		東村山市市教研インタビューの実施	東村山市教研の定例会議に参加し、素材の入手や活用に関する希望を聞くインタビューを行った。	—	17
7/29	昭島光華小学校	多摩図研 夏の研究会実施 地域（生活の場）をどう見るか②～風景の観察を通して～フィールドワーク	多摩図研夏の研究会の一環で、地域を見る見方について講師を招き研修を行なった。	廣瀬俊介（ランドスケープデザイナー）	24
8/24	日の出町立平井小学校	西多摩小教研 絵の具、筆作りワークショップ	西多摩小教研の各学校の図工専科教員、学級担任が参加。絵の具作り、筆づくり、それらによる描画を体験した。	—	7

開催日	会場	プログラム名	内容	ゲスト	参加者数(人)
9/13~9/14	小金井市立第四小学校	小金井市立第四小学校 3年生 糸染め授業	身近な素材で毛糸が染まることを体験。それをもとに、腰機で織物を行った。	—	90
10/18~19、10/21		小金井市立第四小学校 3年生 織り授業			90
10/27~29、11/4、11、15		小金井市立第四小学校 竹取物語	身近な素材である竹をつかって、切る、割る、面取りする、結束するといった作業と道具の使い方や、グループで協力して自分より大きな構造物をつくる方法など、さまざまな過程を体験し学んだ。	—	105
10/3、17、31、11/14	日出町立本宿小学校	日出町立本宿小学校(絵の具、筆、描画、展示)	絵の具作り、筆作り、描画、展示の都度先生からワークシートが配布され、学習を深めた。	—	62
1/18	昭島市立富士見丘小学校	昭島市教研「つなげてみる」ワークショップ	昭島市立富士見丘小学校にて、昭島市教研図工専科教員17名にて事業を実施した。	—	17
1/28	クラフト工房 LaMano	町田市教研+クラフト工房 LaMano 竹の採取と加工準備のワークショップ	町田市教研の有志で、竹を使ったワークショップの準備として、クラフト工房 LaMano の竹林で伐採、枝葉の処理、結束のワークショップを実施した。	—	4
3/3	小金井市立第四小学校	小金井市立南小学校藍染授業	小学校の総合課程の授業で藍染を実施。	—	103
3/3、9、10、13、16		小金井市立第四小学校木工授業	自然素材(桜の丸太など)を木工の授業で使うことについて、現場の小学6年生の工作能力について検討した。	—	105
3/27	町田市立町田第五小学校	町田市市教研竹の加工準備のワークショップ	町田市教研の有志で、クラフト工房 LaMano の竹林で伐採した竹を用いて竹籤作りを体験した。	—	6

4. ゆずりはをたずねてみる

児童養護施設のスタッフを対象とし、音楽やダンス、こころと体をほぐすためのエクササイズを通して、日々の業務に多忙な支援者のケアに取り組んでいるプログラム。肩から力を抜き、隣り合う人々とゆるやかに出会い、日々を重ねる場づくりを実施することで、スタッフのレジリエンス(復元力、回復力、弾性)を高め、施設職員の心身の健康や安心感づくりを通して、子供との継続的な関係づくりのサポートを行っている。

(1) ゆずりはをたずねてみる ワークショップ

今年度は新型コロナウイルス感染症拡大の状況に合わせ予定を調整し、2回実施した。

開催日	会場	プログラム名	内容	講師	参加者数(人)
8/26	子供の家 ホール(清瀬市)	ゆずりはをたずねてみる 第1回ワークショップ	他己紹介、自分の体の音を使いながら相手の音の隙をつくゲーム、参加者それぞれの「最近ドキッとしたこと」をみんなで再現してみようといった、身体をほぐすこと、互いを知るためのワークを行った。	花崎攝(シアター・プラクティショナー、野口体操講師)、松村拓海(ミュージシャン)、はらだまほ(振付家、パフォーマー)	4
9/26		ゆずりはをたずねてみる 第2回ワークショップ	童謡を使って他者を知る、姿を模す。他の人を丁寧に観察する。感情を体で表現してみる、出来事をグループで再現してみようといったワークを行った。		5

(2) ゆずりはをたずねてみるワークショップ インタビューと振り返り

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、ワークショップ自体を成立させることが難しい状況があったため、当初予定していたワークショップの予定を変更し、社会福祉法人二葉むさしが丘学園、社会福祉法人子供の家の職員を対象にヒアリングを実施した。働く上での気づきや課題、ケアする人のケアの必要性やワークショップとして展開していくための課題等を確認した。また、ワークショップ開催後にも講師3名と振り返り会を行い、今後の方向性について討議した。

開催日	会場	インタビュー先
2/17	社会福祉法人二葉むさしが丘学園	神川あゆみ、竹村雅裕(社会福祉法人二葉むさしが丘学園スタッフ)
2/28	社会福祉法人子供の家	角能秀美、山本麻衣子(社会福祉法人子供の家)
3/3	オンライン	花崎攝(シアター・プラクティショナー、野口体操講師)、松村拓海(ミュージシャン)、はらだまほ(振付家、パフォーマー)

5. 公式ウェブサイトの運営

(1) 多摩の未来の地勢図をともに描く ウェブページの作成

「多摩の未来の地勢図をともに描くーあわいを歩く」プロジェクトの概要、記録を告知、アーカイブするためのウェブページを公式ウェブサイト内に制作した。

ウェブサイト：<https://cleavingartmeeting.com/>

デザイン：須之内元洋(札幌市立大学教員)

(2) たましらべの記録 掲載

公式ウェブサイトにて、たましらべの参加者が持ち寄った資料や当日の気づきを、miro（オンラインホワイトボード）として掲載し、記録の公開等を行った。

ウェブサイト：<https://cleavingartmeeting.com/tamashirabe/>

6. 冊子の編集、制作

図工専科教員が竹を活用するために注意事項や竹の性質をまとめた冊子の制作を行った。

『つくることを考えてみよう 竹編』

発行日：令和5（2023）年3月15日

発行部数：1,000部

【参加者の声】

●日の出町立本宿小学校（絵の具、筆、描画、展示）

- ・見通しを最後までもてないところや、最後を子どもに委ねる感じが、新鮮だった。
- ・子供がのびのびできたのかなって。大人は先を見通せちゃうけど、今回は子供と一緒に楽しめた。何ができるかわからない、という経験は大事でした。

●ゆずりはをたずねてみる 第1回ワークショップ

- ・いつも働いている場所から離れ、参加できたのは良かった。勤務場所だと、他のことが気にかかってなかなか集中できない。
- ・他の人の新しい面を知ることができた。

●ゆずりはをたずねてみる 第2回ワークショップ

- ・みんな違うのは当たり前だけどそれを前提にするのは良い。
- ・自分が表現することを、相手に表現してもらうのは優しい。信頼感がある。
- ・普段表現しようとすると言いや方法を考えてしまう。体で表現するのは単純に楽しい。

29

カロクリサイクル

【事業概要】

開催期間	令和4年（2022）年4月～令和5年（2023）年3月
会場	江東区、千代田区、ほか都内各所
主催	東京都、公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京、一般社団法人NOOK
参加者数	780人（オフライン：580人、映像生配信視聴者数：200人）（アーカイブ映像再生回数2,995回）

【事業趣旨（目的）】

被災を経験した土地に蓄積されてきた記録物「禍祿」や、防災やレジリエンスに関わる知識や表現の技術「立ち上りの技術」、課題等を広く共有し、活用することで、災間期をともに生き、次なる災禍に備え、災後も活用できるネットワークの形成を目指す。

予期せぬ災害後の生活で起きる様々な問題、とりわけ、思わぬ形での喪失との向き合いかたといった「災後」の暮らしに関する知見は、しばしば個人的な問題として片付けられ、他者に共有されにくいものとなる。そうした目に見えづらい個人の営みを記録し、多様なメディアを用いて表現し、様々な人々と共有することを狙いとする。

【開催状況】

1. リサーチと情報発信

(1) カロク採訪記

東京の災禍の歴史をたどり、人々と出会い、記憶の地層を掘り起こす。複数人で東京都内の様々な施設・団体を訪れ、ヒアリングや資料調査を通じて、レポート記事やエッセイを14本作成した。

noteにてマガジンとして掲載：https://note.com/nook_tohoku/m/m61c715674b6f

記事ビュー数：5,437回、313のスキを獲得

実施日	リサーチ先	記事
5/9	UR大島四丁目団地、六丁目団地、砂町銀座、大島中央銀座、石田波郷記念館、妙久寺	「東京を歩き始める」
5/10	遊就館、しょうけい館（戦傷病者史料館）	「遊就館からしょうけい館」
5/11	東京都水道歴史館	「道が語ること」
5/12	町田市立国際版画美術館	「私たちの生活と、そばにある版画」
5/13	東京都現代美術館、森美術館	「場はどうひらかれる？」
5/14	東京都慰霊堂、東京都復興記念館	「ふたつの災禍の痕跡を辿る」
7/18	平和祈念展示資料館	「末端の人の気持ちを想像する」
7/19	聖徳記念絵画館	「“正しい歴史”の見分け方？」
7/20	都立第五福竜丸展示館（マーシャル諸島、宮城県丸森町）、東京臨海部広報展示TOKYOミナトリエ	「マーシャル諸島と東北①」 「マーシャル諸島と東北②」
7/22	プラスアーツ東京事務所（清澄白河）	「守られて見えなくなること、つながることで見えてくること」
7/23	アクティブミュージアム「わたしの戦争と平和資料館」	「力を持たない人びとの戦争と災禍」
7/24	荒川知水資料館アモア	「都市の暮らしを守る（さて、どうやって?）」
10/12	NHK放送博物館	「アナウンスが届けていること」

(2) テレビノーク

月一回程度、一般社団法人NOOKの瀬尾夏美と中村大地がパーソナリティとなり、リサーチや活動の内容、そこから気づいたことを話す配信番組。カロクリサイクルに関わるゲストを招き、その経験や考えをもとに語らう。放送はすべてYouTubeのNOOKチャンネルで行われた。

3月11日には「テレビノークスペシャル」と題し、スタジオゲストに加え、宮城県石巻市、福島県富岡町、岡山県岡山市と映像を繋ぎ、当日の様子を聞いた。また、令和5（2023）年2月6日に発災したトルコ・シリア大地震の状況について詳しい方のお話も伺った。

開催日	会場	プログラム名	ゲスト	動画再生数 (回)
7/3	3331 Arts Chiyoda 「STUDIO302」	#0 カロクリサイクルってなんですか？	佐藤李青（アーツカウンシル東京）	486
8/18		#1 集まって記録を読む	honinman（自称ヒーロー、ミュージシャン）	317
9/23		#2 東京の地層を探す	磯崎末菜（NOOK）	216
10/24		#3 記憶の扉が開く場所	市田真理（第五福竜丸展示館学芸員）	313
11/21		#4 残された記録を読む方法	大川詩織（映画監督）	214
12/23		#5 2022年をふりかえろう	佐藤李青（アーツカウンシル東京）	165
1/23		#6 出来事の跡を歩く	大島隆之（NHKエンタープライズ・ディレクター）	313
2/24		#7 過去を描く	山田参助（漫画家）	454
3/11		#8 3月11日、どう過ごしていますか？	飯倉義之（口承文芸学、國學院大學教授）、映像出演：清水葉月（宮城県石巻市）、斎藤亮平（JIM-Net）、井藤聖子（トルコ文学研究）、秋元菜々美（福島県富岡町）、はっとりいくよ（一般社団法人はっとり岡山）	517

2. ネットワーク形成

（1）ワークショップ「記録から表現をつくる」

残された記録を見る、あるいは記録をすることから新たな表現をつくるワークショップ。過去の記録をつかった表現を実践する人に話を聞いたり、その表現を見つめ、話し合ったりすることからはじめ、参加者自身が関心のあるテーマを設定し、記録から生まれる表現を探った。ワークショップは、定員12人を上回る15人の申込みがあり、参加者は開催後も継続的に集まって進捗を報告し合いながら、令和5（2023）年3月に8人で展覧会を開催した。

開催日	会場	プログラム名	内容	ゲスト	料金（円）	参加者数（人）
7/30	3331 Arts Chiyoda 「ROOM302」	ワークショップ「記録から表現をつくる」	顔合わせ・聞き書きワークショップ、ゲストによるパフォーマンス・根岸鎮衛「耳袋」小野和子「あいたくて聞きたくて旅に出る」を用いて作品を制作した。	honinman（自称ヒーロー、ミュージシャン）	一般6,000 学生3,000	12
8/13	東京都慰霊堂・東京都復興記念館		東京都慰霊堂・東京都復興記念館を見学。その後オンラインで各自の調べたことを発表し合った。	高田賢一（東京都慰霊協会）		
8/20	東京ウィメンズプラザ		中間相談日。展示内容などを具体的にオンラインで話し合った。	—		
9/25	3331 Arts Chiyoda 「ROOM302」		成果発表日。これまでのリサーチの経過を展示や、映像、レクチャーなど様々な方法で表現し、話し合った。今後もその進展を発表する成果展の開催を計画した。	—		

（2）展覧会 「記録から表現をつくる」

ワークショップ「記録から表現をつくる」の参加者6人と有志参加者1人、一般社団法人NOOKによる展覧会を開催。参加者それぞれがワークショップ当時から向き合ってきた「戦争」、「災害」、「自然環境」、「地域の声」、「記憶」等をテーマに、制作した作品やリサーチ資料等を展示した。展覧会開催までは、不定期に相談日やディスカッションの場を設け、展示のために考えていること、取り組んでいること等を共有し合いながら制作を進めた。

開催日	会場	プログラム名	入場者数（人）
3/4～3/11	3331 Arts Chiyoda 「ROOM302」	展覧会「記録から表現をつくる」	158
3/4		展覧会関連イベント「ギャラリーツアー」	
3/11		展覧会関連イベント「テレビノークススペシャル」	

（3）カロク・リーディング・クラブ

過去の災害の記録や、それに関わる表現（映画、絵画、戯曲、手記、小説など）をみんなで囲み、それぞれが考えた・感じたことを話してみる対話の場をひらいた。同じ記録を東京と中継地点で同時に読み込み、お互いの会場でどんな言葉が交わされ、どんな気付きや発見があったのかを、オンラインでつないで共有し、互いの異なる部分や似ているところを発見することを目指した。第一回は岡山県岡山市の「ラウンジ・カド」をつなぎ実施した。

開催日	会場	プログラム名	ゲスト	入場者数（人）
11/19	3331 Arts Chiyoda 「ROOM302」	カロク・リーディング・クラブ 第1回「映像作品『波のした、土のうえ』（陸前高田、2014）を見て語る」	成田海波（ラウンジ・カド）、スミカオリ（ヨノナカ実習室）	9

(4) 勉強会

リサーチの過程で出会った人や団体と継続的に勉強会を実施。レクチャーを聞いたり記録物を読み込んだりしながら対話を深め、協働の方法を探り、展覧会やイベントなどのアウトプットにつなげていくことを目標とした。令和4（2022）年度はNPO法人江東区の水辺に親しむ会と勉強会を2回実施した。

(5) 展覧会「語らいの記録2011-2022」

東日本大震災発災以降、仙台を拠点として東北地域の様々な記録の活動を続けてきた一般社団法人NOOKが、平成23（2011）年からの10年余りの間に東北／東京で実践してきた語りの記録と表現の手法を紹介した。

開催日	会場	プログラム名	入場者数（人）
1/21～2/5	3331 Arts Chiyoda	展覧会「記録から表現をつくる」	387
2/4	「ROOM302」	展覧会関連イベント「10年目の手記を読む」	13

3. 交流拠点形成

独立行政法人UR都市機構が管理する大島四丁目団地内にコミュニティ交流拠点を形成中。リサーチの拠点として活用しつつ、ワークショップや展覧会、配信事業なども行うことを想定し、早稲田大学理工学部創造理工学部 小林恵吾研究室に空間設計を依頼。令和5（2023）年3月から入居を開始し、拠点整備を行っている。

4. 広報・宣伝活動

・岩手日報（2022年11月12日）

記事：「離れた場所へ、経験をつなぐ」

・アーツカウンシル東京ブログ（2023年2月22日）

記事：「誰もが『災禍の記録』を語り、きくことで、記憶は生き続ける」インタビュー

<https://www.artscouncil-tokyo.jp/ja/blog/56688/>

・カロクリサイクル ティザーサイト公開

<http://nook.jp/kayoku/>

ページビュー数：15,763回

・Twitter

https://twitter.com/nook_tohoku

フォロワー：429人

・Facebook

<https://www.facebook.com/nook.or.jp>

フォロワー：353人

【参加者の声】

●カロク・リーディング・クラブ 第1回 「映像作品『波のした、土のうえ』（陸前高田、2014）を見て語る」

・私は『波のした、土のうえ』を久しぶりに鑑賞しましたが、ベルトコンベアがものすごい音を立てながら動く様子は、「震災後」というよりむしろ「震災の真っ只中」のように見えました。「あの書類に判子を押すって言うのは、こういうことだったんだ」という語り手の言葉も、歯がゆさを増して響きます。比べてよいかわからないけれど、東京のまちも、コロナ禍を経てお店が次々と閉店し、あっという間に取り壊され、気が付くと新しいマンションが建てられていく。私が住む家も、誰かの思い出をコンクリートで埋め立てた場所かもしれない。今回の『波のした、土のうえ』は、現在を確かめる存在として前よりもヒリヒリと自分に迫ってきました。

●テレビノーク

・同時代体験がないけど、語ることの責任…瀬尾さんの逡巡に共感します。わからないから「のびしろ」かあ。わからないなりにもがきながらも、自分の言葉で語っていいのかもしれないですね。

30

KINO ミーティング

【事業概要】

開催期間	令和4（2022）年4月～令和5（2023）年3月
会 場	東京都内各所
主 催	東京都、公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京、一般社団法人パンタナル
参加者数	173人（アーカイブ映像再生回数 828回）

【事業趣旨（目的）】

“海外に（も）ルーツをもつ人たち”を対象に、映像制作のワークショップを展開するアートプロジェクト。ワークショップの参加者はまちを歩きながら、写真、映像、音声を使い、様々な方法で自分自身のルーツと向き合う場をつくっている。自身とは異なるルーツをもつ人たちとグループを組み、互いの視点を交換し、協働しながら映像作品をつくりながら、映像制作の過程で生まれる新たな映像表現や新たなコミュニケーション、協働関係のあり方を発見すること、そしてその手法を確立し、発信することを目標としている。

【開催状況】

1. キックオフイベント

令和3（2021）年に「Tokyo Art Research Lab」で開催されたプロジェクト「Multicultural Film Making ルーツが異なる他者と映画をつくる（MFM）」で生まれた映画《ニュー・トーキョー・ツアー》と、その制作過程を追ったメイキングムービーを2日間限定でオンラインにて上映。上映の後は、映画制作の背景を出演者と監督が語るトークプログラムや、新たにはじまる「KINO ミーティング」のプロジェクトについて発信した。

* 「KINO ミーティング」は「Multicultural Film Making（MFM）」を発展させたプロジェクト。

開催日	会場	プログラム名	参加費	視聴者数（人）	動画再生数（回）
6/18	オンライン	キックオフプログラム	無料	60	321
6/19		映画『ニュー・トーキョー・ツアー』オンライン上映＋トーク		90	507

2. ワークショップ実施

様々なバックグラウンドをもつ人たちとグループを組み、話し合い、協力しながら映像作品を制作するプログラム。今年度は、豊島区、板橋区および葛飾区をエリアにワークショップを2回開催した。

参加者は4日間のワークショップを通して、都内のまちを歩きながら、写真、映像、音声を用いて、多様な方法で自身のルーツと向き合い、映像の編集から制作を体験。そして、ワークショップ最終日には上映会を開催し、それぞれが制作した作品の上映とディスカッションを行った。

(1) KINO ミーティング #1 池袋・板橋・大山・要町

開催日	会場	内容	参加者数（人）
7/16	みらい館 大明（豊島区）	プログラム説明、自己紹介、機材ガイダンス、シネマポートレイトWS実施	7
7/17		シネマポートレイト映像編集、上映会開催	
7/18		トライアングルインタビューWS実施、制作振り返り	
7/23		トライアングルインタビュー映像編集仕上げ、上映会開催、懇親会	

(2) KINO ミーティング #2 葛飾

開催日	会場	内容	参加者数（人）
11/18	かつしかシンフォニーヒルズ（葛飾区）	プログラム説明、自己紹介、グループディスカッション	8
11/19		シネマポートレイトWS実施・編集作業、上映会開催	
11/26		ムービングムービーWS実施、映像編集作業	
12/10		ムービングムービー映像編集仕上げ、上映会開催、懇親会	

3. リサーチ

東京アートポイント計画の卒業プロジェクトである「アートアクセスあだち 音まち千住の縁」が開催した多国籍美術展「Cultural BYO…ね！」を視察。運営スタッフである「アートアクセスあだち 音まち千住の縁」ディレクターにヒアリングを行い、広報の方法、既存のコミュニティや海外ルーツをもつ人々と日本人との協働について話を聞いた。

開催日	会場	リサーチ先
12/11	仲町の家	多国籍美術展「Cultural BYO…ね！」、「アートアクセスあだち 音まち千住の縁」ディレクター・吉田武司

4. 発信、広報宣伝活動

外部サイトでの記事掲載のほか、公式ホームページ、SNSでは最新情報や制作された映像作品の公開、活動の記録などを発信した。

(1) 発信

Artpoint Meeting #11 - 映像を映す、見る、話す（令和5年1月9日）

ワークショップにて制作された映像作品の上映と、1年間の活動を振り返るトークを実施した。

セッション1 「映画が映すまちと、映画制作がつくるまち」登壇

話し手：阿部航太（デザイナー、文化人類学専攻、一般社団法人パンタナル）、森内康博（映像作家、らくだスタジオ）

ゲスト：馬然 MA Ran（名古屋大学大学院人文学研究科准教授、東アジア映画研究者）

(2) 広報、宣伝

・公式ウェブサイト「KINO ミーティング」

<https://www.kino-meeting.com>

公開日：令和5（2023）年3月30日

投稿数：MOVIES（21本）、REPORTS（6件）、NEWS（3件）

・Facebook ページ「KINO ミーティング」

<https://www.facebook.com/KINOmeeting/>

投稿数：27件

ページフォロワー数：67人

ページへのいいね数：50件

・YouTube チャンネル 「KINO ミーティング」

<https://www.youtube.com/@kino5617>

投稿数：6件

チャンネル登録者数：30人

・vimeo チャンネル「KINO ミーティング」

<https://vimeo.com/user196017844>

投稿数：21件

・アーツカウンシル東京ブログ

記事：「映像制作」がつむぐ多文化のコミュニティ——阿部航太「KINO ミーティング」インタビュー（令和4年11月15日）

<https://www.artscouncil-tokyo.jp/ja/blog/55215/>

(3) 外部サイト掲載

・福祉をたずねるクリエイティブマガジン こここ

記事：多様なルーツを持つ人との協働で“まちの映画”をつくる！「KINO ミーティング #2 葛飾」ワークショップ参加者を募集中（令和4年10月26日）

https://co-coco.jp/news/kino_meeting2/

5. 成果物

初年度の活動をまとめたアーカイブブックを制作。本書ではKINO ミーティングがはじまった経緯と目指す方向を言語化し、活動の中で開発された映像ワークショップの手法を、図解を用いて解説した。

また、当事者の経験を語ってもらったワークショップ参加者インタビューと、活動の紆余曲折を語り合った運営スタッフの座談会を収録した。

・ KINO ミーティングアーカイブ1 04.2022—03.2023

発行日：令和5（2023）年3月24日

発行部数：800部

【参加者の声】

- ・ #1のワークショップの参加者が「(自分が)居てもいい空間になっていた」と言っていて、その言葉がすごく響いたんです。自分自身が抱えていることについて語るのが困難な人たちも、海外に(も)ルーツをもつという枠組みで包括できる。アートや作品の制作を通じて、そういう人たちが“語る”ことができるというのはすごく意義深い。
- ・ シネマポートレイトでは自分のルーツを、ムービングムービーでは他者のルーツをたどる経験ができて、その次に行きたいなという思いは確実にあります。だんだんとかかわる人数を増やしていったら、映画づくりができれば面白そうですね。
- ・ 私は中国出身で、一緒にワークを行ったグループのなかにはもう一人中国から来た方がいましたが、ものの見方が全然違ったことに驚きました。それぞれ異なる生活環境や人生の経験があって、同じ国の出身でも、ルーツが全く同じとは言えないんだな、と思いました。
- ・ 学生時代に映像の研究をしていましたが、被写体になる経験はあまりありませんでした。カメラやマイクを向けたり、向けられたり、いろんな立場を経験するシステムは新鮮でした。また、その様子をクルーの方がずっと撮影されていましたが、お昼ごはんを一緒に食べたり、ふとした時間に話をしたりできたので、あまり遠い存在だということもなく、自然体でいられました。
- ・ 私はジャーナリズムが専門なので、よくドキュメンタリー映像をつくります。普段の映像制作との違いは、とても自由で自分たちで決められることが多かったところ。授業では、まず企画書をつくり、しっかりとプランを練ってから制作に入りますが、KINO ミーティングではまちを歩きながらその場でつくり始めます。それに芸術系のバックグラウンドのある人が多いからかな、みんなルールをあまり気にせず楽しそうにしていました(笑)。その場で感じたことを頼りに作品をつくるのは、面白い経験でした。

31

めとてラボ

【事業概要】

開催期間	令和4（2022）年5月～令和5（2023）年3月
会場	都内各所
主催	東京都、公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京、一般社団法人ooo
参加者数	38人

【事業趣旨（目的）】

視覚言語（日本の手話）で話そう者・難聴者・CODA（ろう者の親をもつ聴者）が主体となり、異なる身体性や感覚世界をもつ人々とともに、自らの感覚や言語を起点にしてコミュニケーションを創発する場をつくるプロジェクト。手話を通じて育まれてきた文化を見つめ直し、それらを巡る視点や言葉をたどりながら、多様な背景をもつ人々が、それぞれの文化の異なりを認め合った上でどのようにコミュニケーションを交わしていくのか、そのあり方を研究・開発している。

【開催状況】

1. リサーチ

本事業と近接する領域で活動を行う団体・人、感覚や言語からなる表現活動や研究などのリサーチを行うとともに、主に国内外でマイノリティの文化の創造拠点を創り出している団体・人へのインタビューを行った。またリサーチを通して、そうした活動体との接点をつくり、本事業に関連する知見を深めるためのラボラトリー事業に着手した。

日程	リサーチ先	参加者数（人）
6/24～26	はじまりの美術館、福島県立博物館、西会津国際芸術村、コミュニティ・カフェEMANONほか	13
11/25～27	特定非営利活動法人つくし、MAT.Nagoya、Minatomachi POTLUCK BUILDING、アートラボあいち、Re-TAIL	5

2. デフスペース・リサーチ

拠点づくりのリサーチとして、デフスペース研究者をゲストにリサーチを行った。アメリカでは研究が進んでいるデフスペースに関して、日本の建築様式にあわせてどのように家ができているのかを、研究者とともに実際にろう者の工夫がある家を探検し記録、リサーチを進めていった。何がどのようにデフスペースと呼べるのか、筑波技術大学の教員、そのご家族とともにヒアリングやインタビューを行った。

日程	リサーチ先	ヒアリング先	参加者数（人）
8/27～28	長野のデフスペース・ハウス	福島愛未	3

3. アーカイブプロジェクト

「アーカイブプロジェクト」では、手話やろう者の生活文化の新たなアーカイブ手法とその活用についてリサーチを重ねた。歴史の再構築や消滅危機言語でもある手話の保存、自然な会話の様子や生活といった個々の関係性の中で立ち上がるものを守り、集めていく方法について検討を進め、ホームビデオを収集するというアイデアを実践した。

(1) GAYAヒアリング

アーカイブの参考事例として＜世田谷クロニクル＞のサイトを閲覧し、そのなかでの人々の自然な関わりに可能性を見出し、東京アートポイント計画事業「移動する中心 | GAYA」の運営チームへ、どのように8ミリビデオの映像アーカイブに辿り着いたのか、それをどのように活用しているのかヒアリングを行った。

日程	内容	ヒアリング先
11/20	映像メディアを媒介に、世代を超えてさまざまな人が対話する場が生み出されていること、ろう者の生活文化や手話という言葉に対してさまざまな記憶を語り合うことによって、意義のある体験や交流を生み出すことや、語り合い共有した記憶も合わせて記録することが、日常の対話を映すアーカイブとしても重要な記録が生まれる可能性をメンバーで共有した。	松本篤、水野雄太

(2) ホームビデオ鑑賞会

「手話から生まれる自然な生活文化の保存」をテーマに、手話やろう者の生活文化の新たなアーカイブ手法とその活用についてリサーチやディスカッションを重ねている。そのはじまりとして、まずはろう者の家庭で撮影された「ホームビデオ」の鑑賞会を行い、ろう者の自然な姿や会話のやりとりの様子を見ながら、めとてラボメンバーと語り合う会を開いた。

日程	内容	ゲスト	参加者数(人)
2/5	めとてラボメンバーの自宅で、祖父母が撮影したホームビデオが見つかったことから、GAYAへのヒアリングをヒントに、ゲストを招いてホームビデオ鑑賞会を行った。	岩泉由美子、井岡一雄	3

4. つなぐラボ

手話という言葉を大切にしながら活動を進めていく中で、情報保障の設計や通訳・翻訳の重要性を実感する機会が多々あったことから、アートプロジェクトにおける考えや視点の違いを理解しながら、互いのイメージを擦り合わせ、つくり方を議論するプロセスや、自分たちでかたちを探りながら進んでいくプロセスについて考える機会を創出した。

日程	内容	ゲスト	参加者数(人)
9/5	人と文化と言葉の間に立つ媒介者として翻訳の可能性を探りながら、それぞれの場と内容に応じたクリエイティブな対話のあり方を提案しているアートトランスレーターの仕事についてインタビューを行った。共通するトピックも多く、つなぐラボにて議論したり考えるべき論点が整理されるインタビューとなった。	田村かのこ（アート・トランスレーター）	12
1/24	定例会やリサーチ等に手話通訳を手配し、事業を進めている経験と、コーディネーターの育成の必要性から、「手話通訳コーディネーター勉強会」をオンラインで開催。日本手話講師の者を招聘し、ワークショップも交えながら議論を行い、通訳・翻訳者という存在とともにアートプロジェクトを継続するための手法を探った。	小林信恵（手話講師）	2

5. 広報

note

めとてラボ事業を通じて得た知見を共有し発信するため、ソーシャルメディア「note」にて活動レポートを作成、掲載した。

投稿数：7

ページビュー数：1,012（令和4（2022）年4/1～令和5（2023）年3/31までの集計）

6. 発行物

めとてラボ 2022—活動レポート—

発行部数：600部

【参加者の声】

- ・ 幼少期の思い出話を聞いた上でそのホームビデオを観ると、ビデオの奥にある目には見えない文化であったり、暮らしのなかの工夫が浮かび上がってくる。めとてラボの「アーカイブプロジェクト」は、さまざまなろう者のホームビデオを収集し、いろいろな人と一緒に鑑賞していくことで、今まで気づけなかったところに文化や工夫が繰り返し広げられていたことに会えるのではないかと、という仮説と期待からスタートし、今回のホームビデオ観賞会でその期待が実感へと変わった時間となった。
- ・ ワークショップ形式での議論を行ったことで、それぞれがどんなことを感じているのか、それに対してどのような方法を検討できるのかを話し合った。特に「手話通訳を介した打合せの際にどう感じているか」については、ろう者と聴者のそれぞれのチームから、通訳の際に言いたかったことが伝わっているのか不安を感じているという声や、ろう者と聴者でのリズムや文脈のずれがあることなどが挙がり、課題として共有知化することができた。

32

Artpoint Meeting

【事業概要】

開催期間 令和4（2022）年11月23日（水・祝）、令和5（2023）年1月9日（月・祝）
主 催 東京都、公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京
参加者数 153人

【事業趣旨（目的）】

「まち」をフィールドに、人々の営みに寄り添い、アートを介して問いを提示するアートプロジェクト。Artpoint Meetingは、アートプロジェクトに関心を寄せる人々が集い、社会とアートの関係性を探り、新たな「ことば」を紡ぐ場をつくる。今年度は「学び」と「映像」をテーマに、東京アートポイント計画のプロジェクトに関連する展示や映像を上映し、トークセッションを行う。

【開催状況】

開催日	会場	プログラム名	登壇者名	内容	参加費（円）	参加者数（人）
11/23	武蔵野プレイス	Artpoint Meeting #10 - アートがひらく、“学び”の可能性 -	鞍田崇（哲学者）、宮下美穂・森山晴香（NPO法人アートフル・アクション）、河野路（小金井市立小金井第四小学校教諭）、宮山香里（美術家／BLANCO主宰／NPO法人アーティスト・コレクティブ・フチュウ）、西郷絵海（アトリエTutti主宰／図工講師／NPO法人アーティスト・コレクティブ・フチュウ）	「素材」に注目し、学びの環境づくりを行っている東京アートポイント計画のプロジェクトの活動報告から、“つくる”ことと“学び”の関係と未来について話し合った。	無料	63
1/9	東京都写真美術館	Artpoint Meeting #11 - 映像を映す、見る、話す -	阿部航太（デザイナー／文化人類学専攻／一般社団法人パインタール）、森内康博（映像作家／らくだスタジオ）、馬然MA Ran（名古屋大学大学院文学研究科准教授／東アジア映画研究者）、松本篤（NPO法人remoメンバー／AHA!世話人）、尾山直子（看護師／写真家）、神野真実（デザインリサーチャー）、アサダワタル（文化活動家）、小森はるか（映像作家）、細馬宏通（行動学者／早稲田大学文学学術院教授）	映像を介したプロジェクトづくりの事例紹介やプロジェクトの様子を捉えた映像を見ることから、ゲストを交えて語り合った。	無料	90

【参加者の声】

- Artpoint Meeting #10
 - ・自分の手でものをつくることの喜び、誰かがつくったものを見るときに感じる形容しがたい感情を思い出すことができた。最近の自分は形づくりにこだわっていて、つくることそのものについて考えが及んでいなかったのかも、と振り返った。
 - ・ますます答えが見えにくい世界になっており、「答えを求めない」「答えがない問いを考える」ことの重要性が増しています。その思考方法は、子供のころから馴れる必要があり、学校教育の中の教科のなかでは「図工」が最も適するはずですが、実際はそうっていないという現実を再認識しました。そんな中、学童保育や、手を挙げた人が参加するワークショップでは公立小学校の授業に入りこんでいるアートフルアクションの活動は深いと感じました。
- Artpoint Meeting #11
 - ・日常の中で、人と人とのかわりしるを付与していく媒介としてのアートの可能性に触れて、ケアの文脈が広がるような時間だったように思います。誰かの記録・記憶と私の記憶が交差する、クリアではない手触りのようなものに宿る何かを垣間見たような気がしました。
 - ・いずれも大変満足のいく興味深いものでした。共通体験としてのまち、アーカイブ、音楽とのかかわりに個人の思いを込めつつも共感をもらうことの意義を考えさせられました。

33

タレンツ・トーキョー2022

【事業概要】

開催期間	令和4（2022）年10月31日（月）～11月5日（土）
開催場所	ゲーテ・インスティトゥート東京
主催	東京都、公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京、 タレンツ・トーキョー実行委員会
提携	ベルリン国際映画祭（ベルリナーレ・タレンツ）
協力	ゲーテ・インスティトゥート／東京ドイツ文化センター
参加人数	タレンツ15人、エキスパート（講師）9人

【事業趣旨（目的）】

映画分野における東京からの文化の創造・発信を強化するため、「次世代の巨匠」になる可能性を秘めた「才能（＝Talents、タレンツ）」を育成することを目的に、映画作家やプロデューサーを目指すアジアの若者を東京に集めて実施。世界で活躍していくためのノウハウや国際的なネットワークを構築する機会を提供する。

【開催状況】

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により令和2（2020）年度および令和3（2021）年度はオンライン開催となったため、3年ぶりの対面開催となった。国際的に活躍するプロフェッショナルをエキスパート（メイン・エキスパート・マスタークラス・エキスパート、アザー・エキスパート）として迎え、レクチャーや企画合評会を実施。第一線で活躍する専門家の視線に晒されることにより、強烈なインスパイアを受ける体験の場となり、タレンツ同士や修了生との交流も生まれ、参加者それぞれのネットワークを国際的に広げる機会を提供した。

また、開催期間中に来日していたドイツ連邦共和国のシュタインマイヤー大統領が会場であるゲーテ・インスティトゥート東京を訪問。東京都知事も同席し、タレンツおよび早川千絵監督らと交流を行った。

<タレンツ>

◇監督

Lomorpich Rithy (aka. YoKi) (カンボジア)
XIAO Baer (中国)
Aldo Swastia (インドネシア)
慶野優太郎 (日本)
奥野俊作 (日本)
SON Heui Song (韓国)
Ananth Subramaniam (マレーシア)
Maung Sun (ミャンマー)
Charlotte HONG Bee Her (シンガポール)
Siyu TAN (シンガポール)
Cheryl WONG (シンガポール)
LIM Lungyin (台湾)

◇プロデューサー

宮瀬佐知子 (日本)
KUO Ming-Jung (台湾)
Joshua LEVY (ベトナム)

<メイン・エキスパート>

Anthony CHEN (監督)
Raymond PHATHANAVIRANGOON (プロデューサー)
XIE Meng (ワールドセールス)
Florian WEGHORN (ベルリナーレ・タレンツ プログラム・マネージャー)

<マスタークラス・エキスパート>

Rithy PANH（監督）

<アザー・エキスパート>

早川千絵（監督）

Eiko MIZUNO-GRAY（プロデューサー）

Makbul Mubarak（監督）

Sorayos PRAPAPAN（監督）

【参加者の声】

- ・ エキスパートは各分野に精通していて色々なことを学びました。講義慣れしている人とそうでない人がいて、時には理解に時間がかかることがありましたが全体的に見れば満足です。みんなサポートする姿勢が見られたが、講義外で話す時間は足りないと感じました。
- ・ 素晴らしいかったです！私とエキスパートでは、今後企画をどうするべきかという意見が違うこともあったので、これからどのアドバイスが一番有意義だったか振り返っていきます。休み時間に話しかけに行くこともできましたが、気後れしてしまったので、もっと一對一の時間が欲しかったです。
- ・ 半数は女性かLGBTQの映画人であるべきだと思いました。
- ・ 全体的に見れば、エキスパートの講義は業界のビジネス要素について学ぶことができて楽しめましたが、予想より制作、物語や芸術性について話すことが少なかったと感じました。
- ・ プレゼンテーション・トレーニングでのフィードバックは、私が普段どう企画を他人に伝えているか振り返る良い機会でした。アンソニーはとても正直な意見と彼自身の道のりを話してくれたことが印象的でした。
- ・ 全てのレクチャーから学びましたが、グループ・セッションとリハーサルでアドバイスをもらえたことがとても身になりました。
- ・ コロナとスケジュールの問題だと思いますが、ネットワーキングの機会は増やすべきだと思います。
- ・ 対面で人と会えたことは素晴らしいか一生続く友情を築けたと思います。オンラインでのイベントは何かしら方法を考えた方がいいと思いました。
- ・ 英語のレベルの問題で大変でしたが、今後共に映画を制作できそうな人たちと友達になれたので、とても有意義でした。
- ・ 今思うと、長すぎると感じていた休憩時間は、他のタレントと交流する機会を与えてくれました。互いの企画と背景について話しながらゲートへと歩くのはとても大切な時間でした。強制的ではなく、自然にお互いを知っていく環境が整っていたと感じます。
- ・ まず、他のタレントのレベルやプロ意識がとても高く、感心すると同時に触発されました。彼らと出会え、近い将来一緒に仕事ができると感じたことはとてもいい機会に恵まれたと思います。次にフィルムメックスとのネットワーキングの機会も素晴らしいかと思います。韓国からの監督と知り合うこともできましたし、是枝監督など尊敬する人にも会えました。
- ・ TTに参加することで自分の企画への興味が今まで以上に増え、もっと頑張りたいと思えるようになりました。自分の企画にこれからもっと向き合うのが楽しみで仕方ないです。
- ・ エキスパートとのもっと長い一對一になる時間が欲しかったです。とても楽しい時間だったのでもっと続けばいいと思いました。スケジュールがタイトでエキスパートの言葉を振り返る時間があまり無いように感じられました。

34

アーツアカデミー

【事業概要】

開催期間 令和4（2022）年4月～令和5（2023）年3月
開催場所 アーツカウンシル東京、東京芸術劇場、他劇場、オンライン
主催 公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京、東京芸術劇場
参加者数 計327人（キャパシティビルディング講座：16人、会計・税務講座：生配信視聴者数300人（アーカイブ動画視聴回数のべ2,450回）、東京芸術劇場プロフェッショナル人材養成研修：研修生6人／シアター・コーディネーター講座5人）

【事業趣旨（目的）】

芸術文化の創造・発信を担う人材を育成するプログラムを実施する。

■芸術創造活動の担い手のためのキャパシティビルディング講座

社会における芸術文化の役割について深い知見と広い視野をもって思考、実践するためのキャパシティビルディング強化の支援。芸術文化創造活動の実務経験のある担い手を対象として実施

■芸術創造活動の担い手のための会計・税務講座

芸術文化活動を行う上で役に立つ会計・税務の基礎知識や、持続的な団体運営や事業運営のためのヒントを提供する講座を実施

■東京芸術劇場プロフェッショナル人材養成研修

（1）東京芸術劇場プロフェッショナル人材養成研修

東京芸術劇場でのOJT型研修を通じた、劇場や芸術団体のプロデューサー、コーディネーターの育成事業

（2）シアター・コーディネーター養成講座

公共劇場について学び、企画を考え、劇場と社会を結ぶことができる人材を育成する講座

【開催状況】

開催日	会場	プログラム名	講師	内容	料金（円）	受講者数（人）
7/22～1/16 全9回	アーツカウンシル東京	芸術文化創造活動の担い手のためのキャパシティビルディング講座	ファシリテーター／アドバイザー：小川智紀、若林朋子 ゲスト講師：山元圭太、源由理子、坂倉杏介、中村美帆、片山正夫	各受講生の活動の課題解決や目標達成に必要な思考力やスキルを多面的に磨く座学（ヴィジョン・ミッション／ファンドレイジング／評価／コミュニティデザイン／領域横断／文化権／芸術文化支援・活動の自立性、等）と課題解決戦略レポートの作成・発表	無料	16
7/15～3/31 全6回	オンライン	芸術文化創造活動の担い手のための会計・税務講座	山内真理、伊沢成貴、飯塚祐亮、杉山雅彦、谷夏比古（公認会計士山内真理事務所／株式会社THINKアドバイザー）	・芸術文化領域の会計・税務業務の実績豊富な公認会計士・税理士を講師陣に迎え、アーティストや制作者等の「個人」と、「特定非営利活動法人（NPO法人）」「一般社団法人」「任意団体」「営利法人」向けの計5種類の講座と特別企画「インボイス制度講座」を実施 ・特別動画「助成金・補助金の税務上の取扱いについて」「源泉所得税について」の制作・公開 ・ハンドブック「アートの会計・税務に困ったらひらく本 芸術文化創造活動の担い手のための会計・税務講座 Q & A 63選」の制作・公開	無料	生配信視聴者数300人（動画視聴回数延べ2,450回）

開催日	会場	プログラム名	講師	内容	料金（円）	受講者数（人）
通年	東京芸術劇場、他 劇場、オンライン	東京芸術劇場プロフェッ ショナル人材養成研修	(1) ゼミ講師：東京芸術 劇場職員、若林朋子、横 堀広彦、葛西周、国永秀 男ほか	(1) 東京芸術劇場でのOJT型研修 を通じた、劇場や芸術団体のプロ デューサー、コーディネーターの育 成および舞台芸術に関する研修事業 の実施。オンライン、現場での制作 研修と両方を開催	有償（研修 生）	6 （就職のため 中途辞退3）
			(2) シアター・コーデ ィネーター養成講座講師 〈多文化共生・実習編〉 ① 影絵ワークショップ 宮本武典、川村亘平斎 ② 日本語教育ワーク ショップ 柏木俊彦、関根好香、齊 藤史桜、前嶋のの	(2) シアター・コーデ ィネーター養成講座 〈多文化共生・実習編〉 令和3年度に実施したシアター・コ ーディネーター養成講座〈多文化共生 ・基礎編〉の受講生から応募を募り、 東京芸術劇場の多文化共生プログラ ムへの参加を通して、当事者のワー クをサポートしたり、制作現場に参 加しながら対話と思考を重ね、芸術 文化がもたらす役割を検討する講座 を実施	無料	5

【参加者の声】

●芸術創造活動の担い手のためのキャパシティビルディング講座

- アンケートでは「この講座が課題解決の手がかりとなった」90%以上、「この講座を人に勧めたい」100%と回答。
- ・山元圭太さんの講義では、『ファンドレイジングはフレンドレイジング』という言葉が響きました。源由理子さんの講義からは、数字では表せられない評価軸をどのように設定するのか、ステークホルダーとなる人々の間で議論することの大切さを学びました。～自分自身の課題に引き寄せて考えることで、どの講義も私にとって充実した経験となりました。
 - ・この講座で共有いただいた知識が、業界に関わる人たちの共通言語になっていくと、もっと楽に、もっと質の高い仕事ができそうだなと感じました。
 - ・たくさんの個性豊かな同期の皆様と話せたあの時間は、私にとっての宝物です。
 - ・現状で良しとせず、それぞれの分野と作法で、ほんの少しでもより良きほうへと何かを変えようとする情熱に満ちた皆さんとご一緒できたことは、私にとって本当に幸運なことでした。
 - ・受講を終えた今、『営利』や『非営利』は関係なく、文化芸術への『志』ひとつあれば、どのような領域や専門分野の方とも、互いの敬意に基づいた対話は可能なのだと確信しています。

●芸術創造活動の担い手のための会計・税務講座

- 講座の受講後アンケートでは約90%が「とてもよかった」「よかった」と回答。Q&AハンドブックのウェブPV数は約49,000件、Facebook「いいね!」1,244件と好評を得た。
- ・昨年も受講し、今回も受講した事で、より理解を深める事が出来ました。また、任意団体は任意団体編のみ受講すると思っていましたが、今後予定されている講座も受講する事で、広く理解が深まりそうだという事が分かったので、他の講座も受講したいと思います。
 - ・講座と資料を通して自分の活動範囲外での会計・税務についての概要も把握しやすいため、アーティストとしての他団体・他者とのコミュニケーションを円滑にする一助になり得ると感じました。
 - ・NPO法人にまつわる基礎知識を体系的に整理した説明を聞くことができた。個々の疑問はまだあるが、それを解決するための一定の指針が理解できた。
 - ・何から手を付けたら良いのかさえわからなかったもので、まずはレシート等を集めておくことや、何が必要経費になるのか等がわかって良かったです。

●東京芸術劇場プロフェッショナル人材養成研修

(1) 東京芸術劇場プロフェッショナル人材育成研修

- 研修修了後アンケートでは、研修の満足度で「非常に満足」2件、「どちらかといえば満足」2件、「普通」2件の回答を得た。
- ・この研修で得たことは、人とのつながりです。東京芸術劇場だけでなく他のアートマネジメント関係者とのつながりを持つことができ、良かったです。
 - ・公演制作業務には、はっきりとしたマニュアルがなく、またその職場ごとのルールがあるために、自分が今後どの職場でも通用するのか不安がありましたが、この研修を経たことで、自分のスキルに汎用性があると確認することができました。また個性の違う同期と接し意見を交換し、芸劇の諸先輩方からもアドバイスをもらうことで、今後

どこを伸ばしていったらいいのか、キャリアプランをじっくりと立て直すことができました。

- ・芸劇の事業に短期ながら携われたことが良かったです。また前職を退職して、この分野で再就職を考えた時に、職員の方と同じシフトで勤務することで再就職後を見据えた生活が送れたことが良かったです。
- ・演劇業界に身を置いていたとはいえ、非常に狭い世界でやっていたことを身に染みて実感しました。劇場以外のところから来ていただく講師の方の授業はもっと増えてもいいのかもしれないと思いました。

(2) シアター・コーディネーター養成講座〈多文化共生・実習編〉

- ・自分にとってとても貴重な経験でした。多文化について心の中の再考、再整理ができ、これからの生活や仕事でも活動できると思います。そして、神秘的な影絵WS本当に最高です！
- ・親の選択により日本で生まれた／育ったムスリムの子供達、自分の夢をかなえるために日本に留学（一時滞在）してきた学生達、日本で暮らし、子供を育てていく事を決めた女性達、という、異なるライフステージ、意思決定状況にいる立場の人々に関わる事で、それぞれ異なる観点で多文化共生について考える機会を得る事ができた。普段の生活では接点の少ない方たちと交流する事ができただけでも、私自身にとっては様々な学びとなった。
- ・アートが社会を変える可能性を再確認した。これからも様々な社会問題に向き合い、自分と問題との関係性や関わり方に慎重になりながら、アートを介在させる。そのアートプロジェクト or 作品を、より多くの社会、人々に届ける道を突き詰めていきたい。

35

Tokyo Art Research Lab

【事業概要】

開催期間 令和4（2022）年4月～令和5（2023）年3月
会 場 アーツカウンシル東京ROOM302ほか
主 催 公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京
参加者数 550人（動画再生数 8,440回）

【事業趣旨（目的）】

アートプロジェクトの現場の課題に対応したスキルの提供や開発、人材の育成を行い、社会におけるアートプロジェクトの可能性を広げることを目指す。

【開催状況】

1. SCHOOL

（1）新たな航路を切り開く

平成23（2011）年以降に生まれたアートプロジェクトと、それらを取りまく社会状況を振り返りながら、これからの時代に応答するアートプロジェクトのかたちを考えるプログラム。多様なアートプロジェクト実践者たちの視点や活動を記録しながら、この10年の間に社会がどのように動き、アートプロジェクトがどのように応答してきたのかを振り返った。また、これからアートプロジェクトの実践者になりうる人たちとともに、これからのアートプロジェクトのかたちを考える演習を行った。

開催期間 4月～3月
参加者数 16人

開催日	プログラム名	会場	内容	ナビゲーターなど	参加費 (円)	参加者数 (人)	開催回数 (本数)
4月～3月	年表をつくるー 2011年以降の アートプロジェ クトを振り返る	ー	2011年以降に生まれたアートプロジェクトを俯瞰し、年表を制作。今年度は、基本的な社会的事象に加え、ナビゲーターの視点や、多様な実践者たちの視点も組み込みながら、年表の基礎となる情報の整理・収集を行った。	芹沢高志 (P3 art and environment 統括ディレクター)	ー	ー	ー
4月～3月	応答するアート プロジェクトー アートプロジェ クトと社会を紐 解く5つの視点	オンライン	独自の視点から時代を見つめ、活動を展開している5名の実践者を招き、2011年からいまへと続くこの時代をどのように捉えているのか、これから必要となるものや心を得るべきことについて伺った動画を公開。これからの社会状況の変化や、それに応答して発生するアートプロジェクトがどうあるべきかを議論しながら、この10年を大きく俯瞰し、アートプロジェクトと社会との関係を紐解いた。	ナビゲーター： 芹沢高志 (P3 art and environment 統括ディレクター) ゲスト：港千尋（写真家／著述家／NPO法人Art Bridge Institute代表理事）、佐藤李青（アーツカウンシル東京 プログラムオフィサー）、松田法子（建築史・都市史研究者／京都府立大学准教授）、若林朋子（プロジェクト・コーディネーター／プランナー）、相馬千秋（NPO法人芸術公社代表理事／アートプロデューサー）	無料	4,097回 (YouTube 動 画 再 生 数)	11
4月～3月	応答するアート プロジェクトー ケーススタディ ファイル	オンライン	2011年以降に生まれた多様なアートプロジェクトの担い手をゲストに、8つのプロジェクトをケースごとに詳細を伺った動画を公開。	ナビゲーター：芹沢高志 (P3 art and environment 統括ディレクター) 運営：松本ひとみ、和田真文 ゲスト：岩井成昭（美術家／イミグレーション・ミュージアム・東京 主宰）、滝沢達史（美術家）、青木彬（インディペンデント・キュレーター／一般社団法人藝と）、アサタワタル（文化活動家）、清水チナツ（インディペンデント・キュレーター／PUMPQUAKES）、中村茜（株式会社precog代表取締役／一般社団法人ドリフターズ・インターナショナル理事／NPO法人舞台制作者オープンネットワークON-PAM理事）、松本篤（NPO法人remoメンバー／AHA!世話人）、キュンチョメ（アートユニット）	無料	2,284 (YouTube 動 画 再 生 数)	9

開催日	プログラム名	会場	内容	ナビゲーターなど	参加費 (円)	参加者数 (人)	開催回数 (本数)
9月～12月	演習 自分のアートプロジェクトをつくる	アーツカウンシル東京 ROOM302	社会課題について学び、アートプロジェクトとの接続や展開可能性について考えるゼミ形式の演習を実施。アートプロジェクトの立ち上げやディレクションに関心のある方を対象に、ゼミナール形式の演習を行った。状況に対してどのような問題意識をもち、どのようにアクションしていけるのかを、アーティストやナビゲーターとのディスカッション、参加者同士でのワークを通して深めながら、新たなプロジェクトを生み出すための企画の構想を展開した。	ナビゲーター：芹沢高志 (P3 art and environment 統括ディレクター) プログラムマネージャー：嘉原妙 アシスタントマネージャー：和田真文 ゲスト：小森はるか+瀬尾夏美 (アートユニット)、濱口竜介 (映画監督/脚本家)、目 [mé] (現代アートチーム)	32,000	16	8

(2) アートプロジェクトの担い手のための手話講座

言語としての手話だけでなく、「文化」の視点からろう者と聴者のコミュニケーションの違いやろう文化に触れ、アートプロジェクトの現場で活かせるコミュニケーション技術の獲得を目指す講座を実施。ワークショップやオンライン講座、プロジェクトの現場を想定したロールプレイ等を通じ、コミュニケーション技術やアクセシビリティへの視点を育む3つのプログラムを展開した。

開催日	プログラム名	会場	内容	講師など	参加費 (円)	参加者数 (人)
7/4、11、25	ワークショップ：ろう者の感覚を知る、手話を体験する。	アーツカウンシル東京 ROOM302	ろう者の感覚を全身を使って学び、手話を体験してみるワークショップ形式の対面講座。視界の広さや動体視力などのろう者の感覚を体感し、発話に頼らないコミュニケーションの姿勢を身につけることを目指した。	講師：河合祐三子 (俳優/手話・身体表現ワークショップ講師) 手話通訳：瀬戸口裕子 (手話通訳士)	6,000	10
9/1、8、15、22、29	プラクティス：手話と出会う。	オンライン	すでに公開している動画シリーズ「映像プログラム 手話と出会うアートプロジェクトの担い手のための手話講座」を教材に、手話でのコミュニケーションの基礎を学ぶオンライン講座。映像教材での個人学習を復習しながら、講師と受講生がオンライン上に集まって手話での会話や、ろう者と聴者のコミュニケーションの違いなど、ろう文化にも触れながら学習した。	企画：嘉原妙 (アートマネージャー/アートディレクター) 運営：齋藤彰英 (写真家)	7,500	10
10/13、27、11/10、24、12/1、8	コミュニケーション：手話を使い会話する。	アーツカウンシル東京 ROOM302	アートプロジェクトの現場のシーンを想定した会話を通して、手話でのリアルなコミュニケーションを実践できる対面講座。参加者が学びたい手話表現やコミュニケーションをロールプレイ形式で身につけることを目指した。		14,400	10

(3) アートプロジェクトの担い手のための配信・収録講座

コロナ禍を経て、アートプロジェクトもオンラインやハイブリッドでの実施が増える中、改めて配信・収録技術を初歩から学び、実践とともにこれからのオンライン時代を考える講座を実施。アートプロジェクトの現場が、配信・収録への向き合い方を再考することで、プロジェクトの設計を見直すことを目指した。

開催日	プログラム名	会場	内容	講師など	参加費 (円)	参加者数 (人)
8/21、28、9/4	アートプロジェクトの担い手のための配信・収録講座	アーツカウンシル東京 ROOM302	マイクやカメラの仕組みなど、「配信・収録」のための基礎的な知識・技術について学び、実践するとともに、オンラインの可能性や限界を踏まえた企画制作について考えた。	講師：齋藤彰英 (写真家) ゲスト：いわさわたかし (岩沢兄弟/有限会社バツタネーション 取締役) 記録：村田萌菜 (群落/プロジェクト・エディター)	一般：6,000、 学生：4,500	12

(4) アートプロジェクトの運営をひらく、〇〇のことば。

アートプロジェクトの運営を初歩から学ぶ、連続動画シリーズ。まちなかを舞台にする「アートプロジェクト」の日々の運営を支える様々なノウハウや事業設計の方法を、アートプロジェクトの中間支援を行っているプログラムオフィサーが、運営に必要な視点や課題について、書籍『東京アートポイント計画が、アートプロジェクトを運営する「事務局」と話すときのことば。の本 <増補版>』からテーマを選び、紹介した。

開催日	プログラム名	会場	内容	参加費	参加者数（人）	動画本数
4月～3月	アートプロジェクトの運営をひらく、〇〇のことは。	オンライン	・事務局3人組：アートプロジェクトの第一歩 ・企画の4点セット 企画／人／お金／時間：プロジェクト運営のための必須項目 ・活動拠点：拠点となる場を見つけよう ・評価への準備：プロジェクトを続けるために など	無料	1802回 (YouTube 動画再生数)	14
	アートプロジェクトの運営をひらく、〇〇のことは。実践編		足立区を舞台に活動する「アートアクセスあだち 音まち千住の縁」が市民とともにつくるアートパフォーマンス「Memorial Rebirth千住」を実例に、アートプロジェクトの運営に必要な視点として「評価」の考え方について紹介。		355回 (YouTube 動画再生数)	4

(5) Webサイトの価値や在り方を考える

令和3（2021）年度に実施したTokyo Art Research Lab 東京プロジェクトスタディ3「これからのウェブサイトについて考える」で話された、ウェブの制作過程に立ち現れる7つのもやもや踏まえ、ウェブ制作に携わる専門家らの寄稿や、東京プロジェクトスタディ3に参加した有志メンバーらとオンライン座談会のかたちでヒアリング調査を行い、成果物として冊子を発行した。

開催日	プログラム名	会場	講師など	参加者数（人）	動画本数
3/17	ウェブサイトの価値や在り方を考える	オンライン	萩原俊矢（ウェブディレクター）、西山萌（編集者）、邵琪（デザイナー）、明貴紘子（映像ワークショップ代表／キュレーター／メディアアート、アーカイブ研究者）、千原凌也（デザイナー）、櫻井駿介（アーツカウンシル東京プログラムオフィサー）	257回 (YouTube 動画再生数)	5

2. 研究・開発

(1) ジムジム会

東京都内各地でアートプロジェクトを実施する「東京アートポイント計画」に参加する9つのプロジェクト事務局とともに、プロジェクト運営事務局に必要なテーマを学び合うネットワーキング型の勉強会「ジムジム会（事務局による事務局のためのジムのよう勉強会）」をオンラインで実施した。

開催日	プログラム名	参加者数（人）
5/18	#01 顔合わせ（事業の自己紹介）／「共催」の注意点や基本レクチャー	30
6/22	#02 「理念」を整理することからはじめよう！	24
7/27	#03 アートプロジェクトの「評価」ってどうやってやるの？	25
9/21	#04 サインネームを考えよう！	25
12/17	#05 ジムジム会2022 歳末学び合い	27

(2) 盲の文化を学びアートプロジェクトをつくる

目の見えない人々が美術や文化に触れられる機会を広げるため、全盲の美術鑑賞者である白鳥建二とエドゥケーター・プログラムコーディネーターである佐藤麻衣子の取組みを事例として、美術鑑賞の意義や活動内容と成果、実践されている「対話型鑑賞」の手法を冊子にまとめた。

発行物：しゃべりながら観る

発行部数：1,000部

3. 「ROOM302」の運用

アートセンター「3331 Arts Chiyoda」3階に、アーツカウンシル東京のレクチャールーム＋アーカイブセンター「ROOM302」を開設している。また、2020年度にはROOM302の一角を、収録・配信スタジオ「STUDIO302」としてリニューアルし、オンラインプログラムを実施・配信。令和3（2021）年度も、各プログラムの実施および収録・配信会場として活用した。また、これまで事業で制作した成果物や映像コンテンツを紹介する「Open Room」企画も実施した。

(1) Open Room

実施日：10/28、30

会場：アーツカウンシル東京 ROOM302

参加費：無料

来場者数：341人

【参加者の声】

●新たな航路を切り開く

- ・自分一人でモヤモヤ考えていたことが、皆様とディスカッションできたことで視点が広がりました。また、他の方が何を大事にして考えているのかを知れたことは、とても刺激的で勉強になりました。
- ・積極的に、ワークショップに通うという経験はこれまでしたことなかったのですが、半年でこれだけ、自分へ変容をもたらすことができるのかと驚きました。極上のinputと、良い張力を感じるoutput。この繰り返しが自分にとって一番良い学習サイクルとなりました。

●Open Room

- ・本を見て、アートプロジェクトのいろいろな時代を思い出し懐かしかった。一度俯瞰してみていきたいと思った。
- ・アートプロジェクトのアーカイブについて、もっと知りたいと思った。
- ・アーティスト側から企画を事務局に伝えるためのコミュニケーションの取り方について、経験以外で難しいところがあるので、そういった本があり興味がわきました。

【発行物】

『アセンブル1 Multicultural Film Making ルーツが異なる他者と映画をつくる Multicultural Film Making Archives』

『アートプロジェクトのためのウェブサイト制作 コ・クリエーションの手引き』

『DOCUMENT302 アートプロジェクトの担い手たちのラボ ROOM302の記録 2009-2022』

『しゃべりながら観る』

『Serendipity in Japanese Art Projects: 11 Years of Memorial Rebirth Senju by Shinji Ohmaki Our project story, participant voices, and project evaluations』

※『アートプロジェクトがつむぐ縁のはなし 大巻伸嗣「Memorial Rebirth 千住」の11年』の英訳

36 アーツカウンシル・フォーラム 『都市の創造力で世界とつながる ー東京の現在と未来ー』

【事業概要】

開催日時 令和5（2023）年3月2日（木）14:00～16:30
 会場 Zoom Webinarによるオンライン配信（ライブ配信）
 主催 公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京
 ライブ配信時視聴数 176回
 アーカイブ配信視聴再生回数 33,042回
 参加費 無料（事前申込制）
 言語 日本語及び英語（同時通訳）

【事業趣旨（目的）】

海外の芸術文化団体や文化施設とのネットワークを構築し、様々な共同プログラムの開発や国際都市東京の芸術活動の発信力を高めていく。

【開催状況】

芸術文化分野において今日的かつ重要なテーマを取り上げるアーツカウンシル・フォーラム。様々な分野の有識者と、国際都市としての芸術文化施策の在り方をめぐる議論の場の創出を目指して実施している。ライブ配信後、期間限定でアーカイブ配信を行った。また記録集を作成しウェブサイト上で公開した。

令和4（2022）年度は、芸術文化が都市にもたらす価値やその可能性にスポットを当て、芸術文化の創造・発信が活発な都市の魅力や強みについて、国内及び香港からプレゼンターを迎え、それぞれの立場から意見を伺い、議論を行った。

【プレゼンター】（順不同・敬称略、肩書は開催時のもの）

- ・山中珠美（一般財団法人森記念財団 主任研究員）
- ・ポール・タム（香港 西九龍文化区管理局（WKCD）
パフォーミング・アーツ部門エグゼクティブ・ディレクター）
- ・内田まほろ（一般財団法人JR東日本文化創造財団
高輪ゲートウェイシティ（仮）文化創造棟準備室室長）

【モデレーター】

- ・五十嵐太郎（東北大学大学院工学研究科教授、建築史・建築評論家）

【参加者の声】

オンライン視聴者アンケート集計結果（2023年3月2日実施時）：回答数31人

- ・期待に沿うものであったかについて
 「大変期待に沿うものであった」12人
 「期待に沿うものであった」16人
 →「期待に沿うものであった」と回答した人があわせて90.3%であった。
- ・参加して得た学びや気付きの有無について
 「新たな学びや気づきが大きいにあった」13人
 「新たな学びや気づきがあった」17人
 →「新たな学びや気づきがあった」と回答した人があわせて96.8%であった。

37 クリエイティブ・ウェルビーイング・トーキョー

【事業概要】

実施日時 令和4（2022）年4月～令和5（2023）年3月

実施場所 東京都の文化施設（東京都庭園美術館、東京都江戸東京博物館、江戸東京たてもの園、東京都写真美術館、東京都現代美術館、東京都渋谷公園通りギャラリー、トーキョーアーツアンドスペース本郷、トーキョーアーツアンドスペースレジデンス、東京都美術館、東京文化会館、東京芸術劇場等）、東京都内各所

【事業趣旨（目的）】

都立文化施設や文化事業の資源を通して、誰もが芸術文化にアクセスし、楽しめる環境の構築を目指し、高齢者、障害のある方、乳幼児、海外にルーツをもつ人等、様々な人たちが文化事業に参加し、共に創造していくための環境整備の拡充とともに、プログラムの検証やモデル開発、現場での実践や調査に取り組む。

芸術文化が有する多様性や相互理解がもたらす社会包摂性や、人々のウェルビーイングを享受できる機能を重視した取組が、世界各地に広がっている。「だれもが文化でつながる国際会議」では、こうした国内外の動向を紹介し、交流と新たな連携を促進するため、国際会議、ショーケース、短期集中キャンプ、ネットワーキングの4つのプログラムを実施した。

【実施状況】

1. 都立文化施設や文化事業における基盤整備

アクセシビリティ向上に関わる財団の基盤整備に取り組んだ。

- （1）アクセシビリティの取組における基準づくり
- （2）アクセシビリティにかかわる計画の策定
- （3）プログラム評価事業の実施
- （4）財団職員向け社会包摂研修の実施

2. アクセシビリティ向上のための取り組み

情報保障の整備、アクセシビリティに関わる実態調査等を実施した。

- （1）手話と音声ガイドによる施設案内動画の制作（東京都写真美術館）
- （2）都立文化施設の利活用に関わるモニタリング調査の実施

3. 調査研究

- （1）文化施設の社会包摂基礎調査
- （2）アクセシビリティに関わる事例調査

4. 「だれもが文化でつながる国際会議：Creative Well-being Tokyo 2022」

芸術文化による多様な価値観の形成と地域の包摂的環境の推進を目指す国際カンファレンスを東京・上野を中心に開催。都立文化施設を中心に、世界5カ国・地域から集まる100組以上の専門家、団体、クリエイター、そして来場者とともに、芸術文化の社会包摂を共創する国際的プラットフォームの形成を目指した。

開催日 令和4（2022）年6月28日（火）～7月7日（木）

主催 東京都、公益財団法人東京都歴史文化財団

協力 独立行政法人国立文化財機構東京国立博物館、文化庁地域文化創生本部、独立行政法人国際交流基金、ブリティッシュ・カウンシル、一般財団法人東京都つながり創生財団

協力（短期集中キャンプ） 神戸芸術工科大学、フェリス学院大学

会場 東京国立博物館、東京都美術館、上野恩賜公園竹の台広場、LIFULL Fab

料金 無料

参加者数 延べ約5,000人（オンライン視聴を含む）

開催日	会場	プログラム名	登壇者 / 演者 / 出展者	来場者数 (人)
7/2	東京国立博物館 平成館講堂	開会式	主催者挨拶：小池百合子（東京都知事） 来賓挨拶：日比野克彦（東京藝術大学長）、逢坂恵理子（独立行政法人国立美術館理事長、国立新美術館長） ビデオメッセージ：アンドリュース・パーソンズ（国際パラリンピック委員会会長）	258
		国際会議基調講演	ジャスティーン・サイモンズ（ロンドン市副市長 文化・クリエイティブ産業担当） 大杉豊（筑波技術大学障害者高等教育研究支援センター教授） 松田崇弥（ヘラルボニー代表取締役社長）	
		プレ・セッション アジアの文化施設で広がる、社会包摂への取り組み	稲庭彩和子（独立行政法人国立美術館主任研究員） リン・チエチー（国立台湾歴史博物館 公共サービス・教育担当キュレーター） アリシア・テン（ナショナル・ギャラリー・シンガポール コミュニティ&鑑賞担当アシスタント・ディレクター）	127
	上野恩賜公園 竹の台広場	ショーケース：オープニング・パフォーマンス	鹿子澤拳（ダンサー） 獅子と仁人—現代芸能プロジェクト 東京のはら表現部	1,018
7/3	東京国立博物館 平成館講堂	本会議1 芸術文化がもたらす、人々のウェルビーイングとは	中村佑子（映画監督、作家） ピーター・ソウ（ART:DIS パフォーミングアーツ・芸術制作責任者） 内田由紀子（京都大学人と社会の未来研究院教授）	65
		本会議2 ダイバーシティとの対話：多様な差異の包含・協働と文化関係の可能性	李琴峰（日中二言語作家、翻訳者） 李晶玉（画家、アーティスト） 岩淵功一（関西学院大学社会学部教授、〈多様性との共生〉研究センター長）	60
		本会議3 インクルーシブ・デザインは、文化をどのようにドライブするか？	グラハム・プリン（ダンディー大学教授） 緒方壽人（デザインエンジニア、Takram プロジェクトディレクター） 大杉豊（筑波技術大学障害者高等教育研究支援センター教授）	72
7/4	東京国立博物館 平成館講堂	本会議4 つながりを生み出す：私たちの文化的生態系	東野寛子（SLOW LABEL マネージャー、パフォーマー） ガタリ・スルヤ・クスマ（Struggles for Sovereignty: Land, Water, Farming, Food） ニサ（Struggles for Sovereignty: Land, Water, Farming, Food） 大澤寅雄（株式会社ニッセイ基礎研究所芸術文化プロジェクト室主任研究員、NPO法人アートNPOリンク理事長）	49
		本会議5 テクノロジーとクリエイティビティで切り拓く、社会の課題と人々の価値観	鈴木メイザ（株式会社オリイ研究所 分身ロボットカフェ プロジェクトマネージャー） OriHime（パイロット：さえちゃん） OriHime（パイロット：ゆい） 小西哲哉（プロダクトデザイナー、株式会社 exiii design 代表取締役） 松島倫明（『WIRED』日本版 編集長）	65
7/3	東京都美術館 アートスタディ ルーム	分科会1 ミュージアムが健康を作る場に—超高齢社会の中での「社会的処方」	藤岡勇人（東京都美術館アート・コミュニケーション係学芸員） 邱君妮（東京文化財研究所文化遺産国際協力センターアソシエイトフェロー） リン・チエチー（国立台湾歴史博物館 公共サービス・教育担当キュレーター） 稲庭彩和子（独立行政法人国立美術館主任研究員）	44
		分科会2 オンラインでつながることは、新しい居場所となるか？	佐々木遊太（デジタルメディア・アーティスト） 吉水由美子（マーケティングクリエイティブディレクター、消費者のライフスタイルや価値観のリサーチャー） 郷泰典（東京都現代美術館学芸員）	38
		分科会3 地域における多文化共生を考える—文化施設・アーティスト・国際交流協会の視点から	平野智子（一般財団法人港区国際交流協会） 高尾戸美（多摩六都科学館特別研究員・多文化共生コーディネーター） 琴仙姫（アーティスト） 大谷郁（東京都庭園美術館学芸員）	38
		分科会4 テクノロジーが切り拓く、新しい音楽表現方法と楽器演奏の未来—表現のアクセシビリティをめぐる	新井鷗子（横浜みなとみらいホール館長） アンドレアス・シアギャン（アーティスト、エンジニア） 中西宣人（フェリス学院大学准教授、株式会社 A-KAK 取締役、楽器デザイナー、サウンドデザイナー） 杉山幸代（東京文化会館事業企画課事業係）	29
7/4	東京都美術館 アートスタディ ルーム	分科会5 情報保障から新たな鑑賞体験のデザインへ	鈴木みどり（東京国立博物館学芸企画部博物館教育課長） 半田こづえ（明治学院大学非常勤講師） 廣川麻子（特定非営利活動法人シアター・アクセシビリティ・ネットワーク（TA-net）理事長） 萩原彩子（筑波技術大学障害者高等教育研究支援センター助教）	28
	東京国立博物館 平成館講堂	ラウンドテーブル	モデレーター：伊藤達矢（東京藝術大学 社会連携センター 特任教授） コメンテーター：青柳正規（公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル 東京 機構長） 稲庭彩和子（独立行政法人国立美術館主任研究員） マウリーン・ゴ（ART:DIS エグゼクティブ・ディレクター） ピーター・ソウ（ART:DIS パフォーミングアーツ・芸術制作責任者） ガタリ・スルヤ・クスマ（Struggles for Sovereignty: Land, Water, Farming, Food） ニサ（Struggles for Sovereignty: Land, Water, Farming, Food） リン・チエチー（国立台湾歴史博物館 公共サービス・教育担当キュレーター）	85

6/28-7/2	LIFULL Fab	短期集中キャンプ「共鳴する身体」	プログラムディレクター： 金箱淳一（神戸芸術工科大学准教授、楽器インタフェース研究者） 中西宣人（フェリス学院大学准教授、株式会社A-KAK取締役、楽器デザイナー、サウンドデザイナー） アンドレアス・シアガン（アーティスト、エンジニア） 講師： ジョン・ケリー（Drake Musicアソシエイト、フリーランスミュージシャン） 長津結一郎（アーツマネジメント研究者、九州大学大学院芸術工学研究院准教授） ライラ・カセム（デザイナー、東京大学大学院総合文化研究科・教養学部附属共生のための国際哲学研究センター〔UTCP〕特任研究員） マーク・デュセイヤ（学際ワークショップ専門家、文化ファシリテーター、アーティスト）	21
7/3-7/7	東京都美術館 ロビー階第1展示室	ショーケース：展示会 イノベーション・デザイン展示 アーカイブ展示	株式会社オリイ研究所「外出困難者による遠隔就労を可能にする“分身ロボットカフェ DAWN ver.β”プロジェクト」 exiii design「HACKberry」「WFO1TR」「CFREX」 金箱淳一「共遊楽器『Touch the sound picnic』『ratatap』『楽器を纏う』『Mountain Guitar』」 短期集中キャンプ「共鳴する身体」成果展示 台湾国家人権博物館「Ayo!Ayo! 明日はきっと良い日」 東京都美術館「アート・コミュニケーション事業におけるソーシャルデザインの活動」 Struggles for Sovereignty: Land, Water, Farming, Food「Meet Struggles for Sovereignty: Land, Water, Farming, Food」	1,654
	東京都美術館 ロビー階第2展示室・交流棟2階スタジオ	ブース・プレゼンテーション、グループ・ミーティング	クレメント・スペース ドンジョイ・リオン「クレメント・スペース@Tokyo」 ART:DISシンガポール、一般社団法人アーツアライヴ、一般財団法人東京都つながり創生財団、株式会社QDレーザ、株式会社ヘラルボニー、クリエイティブ・アート実行委員会、公益財団法人現代人形劇センター、GKモノノコトLab.、社会福祉法人トット基金、多摩六都科学館、特定非営利活動法人アート・コミュニケーション推進機構、ナショナル・ギャラリー・シンガポール、パラブラ株式会社+特定非営利活動法人シアター・アクセシビリティ・ネットワーク、Be Cre-Ape、文化庁 地域文化創生本部、ホログラフィック、「ほどほど実況」チーム、東京都（東京バリアフリー 2020、サステナブル・リカバリー東京会議、TEAM BEYOND、アーカイブ資産等展示）、東京都歴史文化財団「クリエイティブ・ウェルビーイング・トーキョー」、東京都江戸東京博物館、江戸東京たてもの園、東京都現代美術館、東京都写真美術館	219

【来場者の声】

- ・当事者であるということの、関わり方に関して、とても示唆に富む内容でした。
- ・普段掛け合わせのない（あまりみない）ような組み合わせに感じて、新鮮でした。
- ・本会議も分科会も両方魅力的なテーマが揃っていると思います。
- ・さまざまな視点を知り、はっとさせられることが多くあった。具体的にいうと、場づくりにおいて、もしかしたら想定している人を制限していたかもしれない、とか、誰かにとってどれほど大切な関わりか、それにどれほど責任を持てるのか、とか。ゆるいつながりをいくつか持ちつつ、深いつながりができる人も数人持ちつつ、そのバランスが大切、と思いました。

38 TOKYO スマート・カルチャー・プロジェクト

【事業概要】

都立文化施設における情報通信基盤整備、データベース拡充等による収蔵品の利活用、デジタルを活用したプログラムの企画開発、最先端技術を活用した新しい鑑賞体験等により、魅力的なコンテンツを創造・発信。良質な芸術文化の鑑賞・参加・体験機会をリアル（オンサイト、オフライン）に加え、デジタルでの提供も拡充することにより、オンラインによる参加機会やグローバルな文化交流等の拡大を実現する。

【事業趣旨（目的）】

都立文化施設のデジタルシフトにより、誰もが、いつでも、どこでも芸術文化を楽しめる環境を実現するために、都立文化施設が有する収蔵品や、展覧会・公演等の活動の文化資源をデジタル化し、記録・保存するとともに、多様な形態での鑑賞体験を提供する。また、文化資源のオンライン公開、最先端技術による新しい鑑賞体験の創出とそれに伴う都立文化施設の情報通信基盤整備を一体的に推進する。

【実施状況】

項目	コンテンツ名	内容
情報通信基盤整備	—	江戸東京たてもの園、東京都庭園美術館、東京都写真美術館、東京文化会館を対象に、ネットワーク環境を中心とする施設インフラ整備および資料情報等データ管理の統一化を実施した。
収蔵品利活用	Tokyo Museum Collection (ToMuCo) 東京都立博物館・美術館収蔵品検索	6つの都立ミュージアム（東京都江戸東京博物館、江戸東京たてもの園、東京都庭園美術館、東京都写真美術館、東京都現代美術館、東京都美術館）の収蔵資料をオンライン上で公開するためのシステム構築と資料情報を拡充した。また、前年度から継続して東京都江戸東京博物館の収蔵品の3Dデータ画像を公開した。
プログラム企画開発	スマートフォンアプリ「ハイパー江戸博」	デジタル技術を活用し、博物館の収蔵品の新たな鑑賞体験を提供することを目的に開発されたスマートフォンアプリ「ハイパー江戸博」。 第1弾「江戸両国編」の公開に続き、東京都江戸東京博物館にある銀座煉瓦街の模型や当時の資料をもとに、3D空間で再現した第2弾「明治銀座編」を開発した。
スタートアップとの協働	株式会社ABALとの協働による XRアートシアター『死神』	東京都が主催するビッチイベント、第19回UPGRADE with TOKYOで優勝した株式会社ABALと協働で、VR空間内を自由に移動や体験ができる「ABALシステム」を活用し、落語の『死神』をテーマとした浮世絵の世界を巡る新しいアートコンテンツを開発した。

39

シビック・クリエイティブ・ベース東京 [CCBT]

【事業概要】

所在地 東京都渋谷区宇田川町3-1 渋谷東武ホテル地下2階
開館時間 13:00~19:00
休館日 月曜日（祝日の場合は開館、翌平日休館）
主催 東京都、公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京

【事業趣旨（目的）】

デジタルテクノロジーの活用を通じて人々の創造性を社会に発揮する（シビック・クリエイティブ）ための活動拠点として、令和4（2022）年10月に渋谷に開所。ラボ、スタジオ等のスペースを備え、ワークショップ等の様々なプログラムを通じて、東京からイノベーションを生み出す原動力となることを目指している。

<ミッション>

- 発見 ~ Inspire ~
子供たちがアート&テクノロジーに出会い、創造的に生きるための学びの場をつくれます。
- 共創 ~ Co-Create ~
多様な人々が協働して未来の東京について考え、これからの社会を共にデザインします。
- 開発 ~ Incubate ~
アーティストやクリエイターをパートナーに迎え、新たなアート表現を創造、発信します。
- 連携 ~ Network ~
街や人とつながり、国内外でのネットワークを形成し、デジタルクリエイティブの拠点をづくり出します。

【実施状況】

1. CCBT Meetup ※会場はすべて CCBT

開催日	プログラム名	出演者	入場者数（人）
11/26	明和電機のスパーク発トークショー Vol.1「アーティストはどんな場所で作品を作っているの？」	土佐信道（明和電機代表取締役社長）、犬飼博士（CCBTアーティストフェロー/eスポーツプロデューサー、ゲーム監督、運策家）	52 ☆
12/17	トークイベント「メディアアート・レヴオリュションーメカ・電子デバイス系メディアアートの創生」	八谷和彦（メディアアーティスト）、楠見清（美術評論家）	26
12/18	教えてっ！草原真知子先生！レクチャー「メディアアート史における明和電機」	草原真知子（メディアアート・映像文化史研究者／キュレーター）	38
1/6	妄想リバースエンジニアリング vol.1 国民の人気歌番組のあの演出、どうやったんだろう？	ゲスト：比嘉了（プログラマー、ビジュアルアーティスト）、イトウユウヤ（テクニカルディレクター） モデレーター：田部井勝彦（CCBT）	36 ☆
1/8	トークイベント「パチ×2！ピカ×2！ガチャ×2！情熱トークショー ~これが私のつくる道~」	登壇者：高橋征資（バイバイワールド）、きょうこ（電子工作クリエイター／ギャル電） ゲスト：下田梢（株式会社ブライトリンク）	19
2/3	シビック・クリエイティブとイノベーション：デジタルクリエイティブが提起する、これからの社会	宮坂学（東京都副知事／CCBTスーパーバイザー）、福原志保（アーティスト、研究者）、齋藤精一（パノラマティクス主宰／CCBTコラボレーションメンバー）	88 ☆
2/16	Web3.0のトップランナーに聞く！ Vol.1「NFTとアートの未来」	施井泰平（スタートバーン株式会社代表取締役 最高経営責任者（CEO））、高尾俊介（アーティスト、ジェネラティブアート振興財団主宰）、高瀬俊明（株式会社TART 代表取締役）	25
2/25	ハロー！ラボラトリーズ！ Vol.01：ラボで駆動する、世界の文化拠点	Clare Reddington（Watershed）、Lucas Evers（Waag Futurelab）、LIU Yu-Ching（Taiwan Contemporary Culture Lab (C-LAB)）、菅沼 聖（山口情報芸術センター[YCAM]）、廣田 ふみ（CCBT）	73 ☆
3/24	Web3.0のトップランナーに聞く！ Vol.2「文化政策のNFT超活用術」	施井泰平（スタートバーン株式会社代表取締役 最高経営責任者（CEO））、高瀬俊明（株式会社TART 代表取締役）、林篤志（Next Commons Lab ファウンダー）	16

☆オンライン配信あり

2. アート・インキュベーション

令和4（2022）年7月に企画公募を行い、70件の応募のうち3組をアーティスト・フェローとして採択。AIやAR、都市の描写等、異なる領域で活躍する次世代のクリエイターを選出した。

また、CCBTの活動テーマのひとつである「発見」「共創」を体現する2組のフェローにより、CCBTのオープニングイベントのほか、恵比寿映像祭2023での作品発表を行った。

・フェローの創作活動に市民が参加する機会としてワークショップ、トークイベントを全30回開催

<アーティスト・フェロー プロフィール等>

(1) Tomo Kihara + Playfool

木原共とPlayfool（コッペン・ダニエル、コッペン・サキ）との協働チーム。ともに「遊び」をコアのテーマに、創造性を育む道具のデザインや社会や都市に介入するアート・プロジェクトを国内外で展開。ヴィクトリア&アルバート博物館（ロンドン、2022）やアルスエレクトロニカ（リンツ、2020）などで展示。

(2) 浅見和彦+ゴッドスコピオン+吉田山

メディアアーティストのゴッドスコピオンとキュレーターの吉田山、XRの企画プロデュースを行う浅見和彦の3名がプロジェクトチームを編成。VR/AR空間の作成プラットフォームSTYLYの技術を活用する。

(3) SIDE CORE

2012年より活動開始。メンバーは高須咲恵、松下徹、西広太志。映像ディレクターとして播本和宜が参加。ストリートカルチャーの視点から公共空間を舞台にしたプロジェクトを展開。思考の転換、隙間への介入、表現やアクションの拡張を目的に「都市空間における表現の拡張」をテーマに屋内・野外を問わず活動。「六本木クロッシング2022展：往来オーライ」（2022年、森美術館、東京）、「水の波紋展2021 消えゆく風景から — 新たなランドスケープ」（2021年、ワタリウム美術館、東京）など国内外の展覧会に積極的に参加。

(4) 犬飼博士とデベロップレイヤーたち

ゲームクリエイターでeスポーツプロデューサーの犬飼博士が2014年から開始したスポーツアート共創。これまでの事業を通じて育ったデベロップレイヤーたちが集い、オープニングイベント「未来の東京の運動会」を実施する。

(5) 野老朝雄+平本知樹+井口皓太

東京2020オリンピック・パラリンピックの開会式では、ドローンにより球体の組市松文様が空中に表現された。本プロジェクトは、菱形三十面体から生成した百二十面体の各面に長方形を嵌めることで表現されたこの球体を、新たにインスタレーションとして再構築するものである。

本プロジェクトでは、開会式のドローン演出を手がけたメンバーである、大会シンボルマークをデザインした野老朝雄、デジタル・ファブリケーションの技術を使って廃プラスチックを材料として表彰台を制作した平本知樹、そして「動くピクトグラム」をデザインした井口皓太が協働。変化に富んだ映像を生み出すインスタレーションを発表する。

開催日	会場	プログラム名	アーティスト	入場者数（人）
10/22、23 ほか	渋谷区文化総合センター大和田 多目的アリーナ（10/22ほか）、渋谷区立神南小学校体育館（10/23ほか）	CCBT オープニングイベント「未来の東京の運動会」	犬飼博士	226 （一部オンライン配信あり） ☆
2/26	CCBT	未来の東京の運動会ムービー 完成披露上映会		22
2/3	東京都写真美術館1Fホール	恵比寿映像祭トーク「環を成す／球を成すー『FORMING SPHERES』」	野老朝雄+平本知樹+井口皓太	59
2/7～16	CCBT	「FORMING SPHERES」プロトタイプ公開		161
2/3～19	恵比寿ガーデンプレイス センター広場	「FORMING SPHERES」 恵比寿映像祭2023 オフサイト展示		※
2/12	渋谷 7thFLOOR	ARと合唱する！声楽ワークショップ	浅見和彦+ゴッドスコピオン+吉田山	15

開催日	会場	プログラム名	アーティスト	入場者数 (人)
3/4, 5ほか	CCBT (3/4ほか)、 景丘の家 (3/26)	Deviation Game ワークショップ	Tomo Kihara + Playfool	85
3/4~26	CCBT	Deviation Game ver. 1.0		1,306
3/10~21	CCBT、shibuya- san (渋谷フクラス 1F)、その他渋谷区 内各所	都市空間とXR空間が交差し、拡張する都市型展 覧会「AUGMENTED SITUATION D」	浅見和彦+ゴッドスコピオン+吉田山	
3/21~26	CCBT	under city desk	SIDE CORE	
3/18~26	目黒観測井横 空地	rode work ver. under city		3,345
3/23	CCBT	under city meeting		70
3/18	CCBT	ARコンテンツ制作ワークショップ、アーティスト・トーク「XR拡張の谷のクオリア」	浅見和彦+ゴッドスコピオン+吉田山	26 ☆
3/21	CCBT	2022年度 CCBTアーティスト・フェロー 活動 報告会	プレゼンター： 犬飼博士、平本知樹、Tomo Kihara + Playfool、浅見和彦+ゴッドスコピオン+ 吉田山、SIDE CORE ゲスト登壇者 (本プログラムメンター)： 伊藤隆之 (山口情報芸術センター [YCAM] R&Dディレクター) いすたえこ (アートディレクター・グラフィッ クデザイナー) 岩屋民穂 (グラフィックデザイナー) 齋藤精一 (パノラマティクス主宰) 竹川潤一 氏 (一般社団法人 MUTEK Japan 理事) 細川麻沙美 (札幌国際芸術祭事務局統括マネー ジャー)	60

※恵比寿映像祭 2023：29,986人 (参考数字)

☆オンライン配信あり

3. アート×テックラボ ※会場はすべてCCBT

開催日	プログラム名	出演	入場者数 (人)
11/26 ~ 12/25	明和電機 渋谷工場 in CCBT ・ミニライブ (全8回) ・ギャラリートーク (全2回) ・スパーカー発ラジオ生配信 (公開収録) ・ワークショップ「ゴムベースを作ろう」(全2回) ・ワークショップ「ボンバーを作ろう」(全2回) ・トークイベント「オタマトーンアニメ化決定！緊急記者会見」	明和電機	644
1/8,9	プログラミングでパチパチ拍手！ビッグクラブバーナノ？を作ろう！	バイバイワールド	37
1/28,29	360°図鑑 in CCBT	菅沼聖 (山口情報芸術センター [YCAM] 社会連 携担当)	73
2/4,5	ギャル電と一緒に光る基板アクセスをつくってみよう	きょうこ (電子工作クリエイター/ギャル電)	31

4. 未来提案型キャンプ ※会場はすべてCCBT

開催日	プログラム名	講師	入場者数 (人)
2/12	Future Ideations Camp vol.1 基調講演01「デザインとAI：来るべき未来に向けて」	ジョン・マエダ (テクノロジスト/マイクロソフト デザイン& AI (Design and Artificial Intelligence)統括責任者)	207 (オンライン 配信のみ) ☆
2/19	Future Ideations Camp vol.1 基調講演02「コンピューテーショナル・デザインが再編する、都市とシビック・クリエイティブ」	豊田啓介 (東京大学生産技術研究所特任教授、 NOIZ、gluon)、セオ・ヒョジョン (アーティスト/ Samsung Art & Design Institute教授)	73 ☆
2/20	Future Ideations Camp vol.1 基調講演03「“わたし”で認識する：メディアアートの歴史と教育、そして未来」	ゴラン・レヴィン (アーティスト、エンジニア、 リサーチャー、教育者)	73 ☆

☆オンライン配信あり

開催日	プログラム名	講師	入場者数(人)
2/19~23	Future Ideations Camp vol.1: Import *	講師・ファシリテーター： ・ジョン・マエダ（テクノロジスト、マイクロソフト デザイン & AI (Design and Artificial Intelligence) 統括責任者）【会期前のプレレクチャー（2月12日（日曜日））】 ・ゴラン・レヴィン（アーティスト、エンジニア、リサーチャー、教育者） ・豊田啓介（東京大学生産技術研究所特任教授、NOIZ、gluon） ・セオ・ヒョジョン（アーティスト／Samsung Art & Design Institute教授） ・会田大也（ミュージアムエディター） ・荒牧悠（アーティスト） ・大島遼（プログラマー、インタラクティブデザイナー） ・堀宏行（プログラマー／汎株式会社代表取締役社長） ・稲福孝信（プログラマー） ・木村優作（テクニカルディレクター、エンジニア） ・真崎嶺（グラフィックデザイナー） ・MATHRAX（久世祥三＋坂本茉莉子）（アーティスト、エンジニア、デザイナー） プログラムディレクター： ・萩原俊矢（ウェブデザイナー、プログラマー） ・林洋介（プログラマー／株式会社HAUS取締役）	26
2/24~28	Future Ideations Camp vol.1: Import * 成果展示	参加者（出展者）： ・穴井佑樹（プログラマー、アーティスト／non-classic株式会社） ・阿部和樹（プログラマー） ・石井飛鳥（アーティスト） ・遠藤勝也（プログラマー、アーティスト／株式会社スタジオ・アルカナ） ・大山貴史（エンジニア、インタラクティブデザイナー） ・川明日香（デザイナー／武蔵野美術大学学生） ・kumo moku（多摩美術大学学生） ・桑崎真里亜（デザイナー、映像ディレクター／武蔵野美術大学学生） ・小林真幸（デザイナー、ウェブエンジニア／映像ワークショップ合同会社） ・小南明花音（甲南女子大学学生） ・頃安祐輔（音響作家／筑波大学大学院生） ・柴田一秀（デザイナー、エンジニア） ・Joyce den Hertog (MSc. Media Technology Student / Leiden University) ・shintaro ono（開発者） ・鈴木悠子（版画家） ・Senbaku（クリエイティブコーダー） ・永田一樹（アーティスト） ・浪川洪作（プログラマー、アーティスト／筑波大学学生） ・成瀬陽太（ビジュアルプログラマー／慶應義塾大学学生） ・増本慶（デザインエンジニア、アーティスト） ・松岡佑馬（エンジニア、デザイナー、アーティスト／慶應義塾大学学生） ・松村智也（筑波大学研究生） ・羽田光佐（アーティスト） ・山岸奏大（エンジニア、デザイナー／情報科学芸術大学院大学[IAMAS] 学生） ・リュ・ユモエ（早稲田大学学生） 講師・ファシリテーター： ・ジョン・マエダ（テクノロジスト、マイクロソフト デザイン & AI (Design and Artificial Intelligence) 統括責任者）【会期前のプレレクチャー（2月12日（日曜日））】 ・ゴラン・レヴィン（アーティスト、エンジニア、リサーチャー、教育者） ・豊田啓介（東京大学生産技術研究所特任教授、NOIZ、gluon） ・セオ・ヒョジョン（アーティスト／Samsung Art & Design Institute教授） ・会田大也（ミュージアムエディター） ・荒牧悠（アーティスト） ・大島遼（プログラマー、インタラクティブデザイナー） ・堀宏行（プログラマー／汎株式会社代表取締役社長） ・稲福孝信（プログラマー） ・木村優作（テクニカルディレクター、エンジニア） ・真崎嶺（グラフィックデザイナー） ・MATHRAX（久世祥三＋坂本茉莉子）（アーティスト、エンジニア、デザイナー） プログラムディレクター： ・萩原俊矢（ウェブデザイナー、プログラマー） ・林洋介（プログラマー／株式会社HAUS取締役）	217

40

広報活動

【事業趣旨（目的）】

芸術文化の創造・発信を推進し、東京の魅力を高める多様な事業を展開しているアーツカウンシル東京の組織の取組や役割を発信することにより、認知度やプレゼンスの向上を図る。公式ウェブサイト、SNS、メールニュース等独自媒体でコンスタントに情報発信するとともに、プレスリリースの配信等メディアへの働きかけによるパブリシティの獲得や、効果的なターゲットに向けたSNS広告を展開。また、事業の魅力や特徴をわかりやすく伝え、理解を深めるための映像制作にも取り組んだ。

【実施状況】

1. 公式ウェブサイト（日本語・英語対応）

<https://www.artscouncil-tokyo.jp/ja/>

<https://www.artscouncil-tokyo.jp/en/>

公式ウェブサイトでは、コロナ禍以降プログラム数も増加した助成事業がPV数を集め、アーツカウンシル東京＝助成のイメージが芸術文化関係者の中で形成されてきたと言える。しかし、2020年度、2021年度とコロナ禍でイベント事業が中止になったことにより事業の注目度が下がり、全体的にはPV数、ユーザー数、セッション数ともに減少となった。これは、前年度コロナ禍により助成プログラムの注目度が上がったことにより、ユーザー数が約1.6倍、PV数が約1.8倍と大幅に上昇し過去最高値だったことも影響し、令和4（2022）年度はそれらの数値が減少となった。例年と比べれば高い数値であるものの、ユーザー数は前年比88%、PV数は97%という結果になった。

PV数のトップ20で見ると、ほぼ助成関連で占められ、タイムリーで正確な情報発信はもとより、2021年度に作成した助成プログラムを総括的に紹介する映像や、SNSとも連動して積極的な発信に努めることで、YouTubeチャンネルやウェブサイトへの誘導を図ることができた。

【ユニークユーザー】 260,690

【ページビュー】 919,700

※年間集計

2. SNS

主催事業に加え助成採択団体の公演等も取り上げることで、幅広い広報支援を行うとともに助成プログラムの注目度向上を図った。また、毎月共通のテーマを掲げたSNS広告を展開し、事業の有用性を伝えると共に俯瞰的な視点でアーツの活動を伝え、認知拡大に繋げた。

・ Facebook

フォロワー：17,059

・ Twitter

フォロワー：11,543

・ YouTube

登録者：2,890

※令和5（2023）年3月31日現在

3. メールニュース

アーツカウンシル東京が主催・共催するイベントや公募等の最新情報やニュースを月2回日英で配信し、ウェブサイトへの誘導を促した。

【登録者数】 3,175人

※令和5（2023）年3月31日現在

4. 映像制作

子供事業を取り上げた「This experience is our treasure.」と、街なか事業を取り上げた「アートに触れられる芸術文化都市、東京」を制作した。異なる目的やスタイルを持つ子供事業の卒業生の鼎談を行い、子供の頃に芸術文化に触れることの重要性を伝えることで、アーツカウンシル東京が担う人材育成の側面に焦点を当てた。アーツカウンシル東京公式ウェブサイト内に3月下旬公開。

◇ This experience is our treasure.（子供事業インタビュー）

<再生回数>227回

◇アートに触れられる芸術文化都市、東京

<再生回数>68回

※令和5（2023）年3月31日現在

5. PR活動

メディア対応のほか、各事業で配信される広報物についての校正を行い、効果的な露出を狙うための情報管理を行った。「年間ラインアップ発表」等、各事業／組織全体合わせて、計62本のプレスリリースを発表した。また、東京都や東京都歴史文化財団のメディアと連携し、効果的かつ幅広い情報発信を行った。

ウェブサイトでは、昨年度に引き続き助成プログラムに対する注目度が高く、タイムリーかつSNS広告も含めた確かなターゲット設定により、芸術文化関係者に対するアーツカウンシル東京の認知度拡大に繋がった。

助成情報以外にも、アーツアカデミーの会計講座やTokyo Art Research Labなど、アーティストや芸術文化団体への訴求力が高いテーマを、SNSやYouTubeを通して発信していくことによって、様々な形で芸術文化を支援している専門組織であることをアピールできたのは意義深いことであった。

6. 出広告実績

毎月共通のテーマを掲げたSNS広告では、一般の方々に対して、芸術文化の門戸を広げ気軽に参加してもらえるような初心者目線を意識したSNS展開を中心に、広く伝わる広報を目指した。SNSの専門知識が豊富な委託業者と連携しながら、芸術文化に対する敷居を上げず、初心者にも興味を持ってもらうための視点を盛り込み、適切なターゲットを絞り込んで高いエンゲージメント率を上げることができた。画像投稿の平均エンゲージメント率は13.6%、動画投稿の平均エンゲージメント率は4.8%と、一般的な画像投稿のエンゲージメント率0.5%～2%を大きく上回る成果を出すことができた。

7. 事業案内パンフレットの発行

公益財団法人東京都歴史文化財団の企画戦略機能がアーツカウンシル東京に移管されたことを受けて、事業案内パンフレットを改定した。また、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を文化の面から盛り上げる多彩なプログラムを展開してきた組織であることをアピールするため、多くのプログラム写真を用いて年表風の沿革を作成した。

発行部数：600部

8. 事業報告書の発行

2021年度にアーツカウンシル東京で行った46事業の事業趣旨や開催状況、参加者の声等を取りまとめて報告書を作成した。関係各所への配布や、ウェブサイトへの掲載を通じて、事業の意義を広く伝えた。

発行部数：800部

編集 公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京
制作／印刷 株式会社丸井工文社

公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京
〒102-0073
東京都千代田区九段北4丁目1-28 九段ファーストプレイス5階・8階
TEL：03-6256-8430
FAX：03-6256-8828
E-MAIL：info@artscouncil-tokyo.jp
URL：www.artscouncil-tokyo.jp

